SHARP

インフォメーションディスプレイ マネージメントソフト

e-Signage

取扱説明書

もくじ

はじめに

e-Signage を使用するための注意事項 …… 5
商標について …… 5
この取扱説明書の見かた …… 6
●マークについて …… 6
●表記について …… 6
用語解説 …… 7
システム運用上の注意事項 …… 7
e-Signage の特長 …… 9
番組配信までの流れ …… 9

インストール・起動

動作に必要なシステム環境 …… 11
e-Signage をインストールする …… 13
● e-Signage をインストールする …… 13
●表示用 PC の環境を設定する …… 16
● e-Signage をアンインストールする …… 26
ランチャー画面の起動と終了 …… 28
●ランチャー画面を起動する …… 28
●ランチャー画面を終了する …… 28
●ランチャー画面について …… 28

番組作成・編集

番組エディタの基本画面について …… 30
●番組エディタを起動する …… 30
●番組エディタの基本画面 …… 30
番組を作成する …… 32
●使用できるコンテンツファイル …… 32
●各コンテンツを配置（レイアウト）する …… 33
●背景 / 表示枠 1 ～ 4 を設定する …… 36
●テロップを設定する …… 40
●音声および音楽を設定する …… 46
● PIP を設定する …… 47
●番組を保存する …… 47
●番組を開く …… 49
●作成した番組を確認する …… 49
●番組を削除する …… 50
●番組のプロパティを表示する …… 51
●番組をインポート / エクスポートする …… 52
RSS エディタ …… 54
● RSS 設定ファイルを作成する …… 54
● RSS エディタの基本画面 …… 54
●プレビューを表示する …… 57

条件付きコンテンツ

e-Signage 条件付きコンテンツエディタの基本画面について …… 58
● e-Signage 条件付きコンテンツエディタを起動する …… 58
● e-Signage 条件付きコンテンツエディタの基本画面 …… 58
条件付きコンテンツを作成する …… 60
●使用できるコンテンツファイル …… 60
●条件付きコンテンツを設定する …… 60

タイムテーブル作成・編集

タイムテーブルエディタの基本画面について……66
●タイムテーブルエディタを起動する……66
●タイムテーブルエディタの基本画面……66
タイムテーブルを作成する……68
●作成した番組をタイムテーブルに登録する……68
●パネル制御をタイムテーブルに登録する……69
●タイムテーブルを調整する……70
●タイムテーブルを保存する……71
●タイムテーブルを開く……72
●作成したタイムテーブルを確認する……72
●タイムテーブルを削除する……73
●タイムテーブルの名前や色を変更する……73
●タイムテーブルをインポート / エクスポートする……74

スケジュール作成・編集

スケジュールエディタの基本画面について……76
●スケジュールエディタを起動する……76
●スケジュールエディタの基本画面……76
スケジュールを作成する……78
●作成したタイムテーブルをスケジュールに登録する……78
●スケジュールを保存する……80
●スケジュールを開く……80
●スケジュールを削除する……81
●スケジュール名を変更する……81
●スケジュールをインポート / エクスポートする……82

パネル管理・環境設定

パネルを管理する……84
●パネル管理を起動する……84
●パネル管理の基本画面……84
●パネルを追加・編集する……85
●グループを追加・編集する……86
●パネルを手動制御する……87
●パネル・グループを削除する……87
環境設定……88
●環境設定を起動する……88
●バージョン情報を確認する……88
●管理パネル追加時の既定値を設定する……89

スケジュール配信

スケジュール配信ツールの基本画面について……90
●スケジュール配信ツールを起動する……90
●スケジュール配信ツールの基本画面……90
スケジュールを配信する……91
●ネットワーク経由で配信する……91
●自分自身（マイコンピュータ）へ配信する……93
● USB メモリなどの外部記憶装置を利用して配信する……94
番組を臨時で表示する……96
●ネットワーク経由で配信し、臨時で表示する……96
●自分自身（マイコンピュータ）へ配信し、臨時で表示する……98
配信予約一覧・配信記録一覧……101

●配信予約一覧 101
●配信記録一覧 101

スケジュール管理

e-Signage サーバスケジューラについて 103

スケジュール受信・番組表示

FTP サーバについて 104
● FTP サーバの起動 104
e-Signage クライアントスケジューラについて 105
● e-Signage クライアントスケジューラの起動 105
● e-Signage クライアントスケジューラのメニュー 105
USB メモリなどの外部記憶装置を利用してコンテンツを直接配信する 114
番組ビューア 114

キー／マウス監視

キー／マウス監視ツールの画面について 115
●キー／マウス監視ツールを起動する 115
●キー／マウス監視ツールのメニュー 115

状態監視

e-Signage 状態監視ツールの基本画面について 118
● e-Signage 状態監視ツールを起動する 118
● e-Signage 状態監視ツールの基本画面 118
パネルの状態を取得・表示する 121
●パネルの状態を取得する 121
●状態取得しないパネルを設定する 122
●表示用 PC の電源を制御する 122
●パネルの詳細情報を表示する 123
●サムネイルのサイズを変更する 124
動作環境を設定する 125

はじめに

このたびは、インフォメーションディスプレイ マネージメントソフト e-Signage（イーサイネージ）をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
インフォメーションディスプレイ マネージメントソフト e-Signage（以下、e-Signage と表記します）には、スタンドアロン版、ネットワーク版、ビューア版の 3 種類あります。
本書は 3 種類共通の取扱説明書です。各タイプで使用制限や機能の違いがある場合は、明記しています。

e-Signage を使用するための注意事項

・e-Signage は厳重な品質管理と製品検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店までご連絡ください。

・お客様もしくは第三者がこの製品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

・e-Signage を利用して著作権の対象となっている著作物を複製・編集等をすることは、著作権法上、個人的にまたは家庭内でその複製物や編集物を使用する場合に限って許されています。
利用者自身が複製対象物について著作権などを有しているか、あるいは複製等について著作者等から許諾を受けているなどの事情がないにも関わらず、この範囲を越えて複製・編集した場合や、複製物・編集物を使用した場合には、著作権等を侵害することとなり、著作権者等から損害賠償等を請求されることとなりますので、そのような利用方法は厳重にお控えください。
また、e-Signage において写真の画像データ、DVD 映像、TV 放映等を利用する場合は、上記著作権侵害にあたる利用方法は厳重にお控えいただくことはもちろん、他人の肖像を勝手に使用・改変などをすると肖像権を侵害することとなりますので、そのような利用方法も厳重にお控えください。

・TV、DVD など、著作権のある番組を上映する際は、著作者の許諾を取得してください。

・本取扱説明書および e-Signage の内容の全部および一部を、当社に無断で転記、あるいは複製することはお断りします。

・本取扱説明書および e-Signage は、改良のため予告なく変更することがあります。

商標について

・Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国と他の国々における商標または登録商標です。
・Microsoft Internet Explorer のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国と他の国々における商標です。
・Flash、Flash Player は、合衆国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。
・インテル、Celeron、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
・QuickTime、QuickTime ロゴは、米国およびその他の国で登録されている Apple Computer, Inc. の商標です。

その他、製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

この取扱説明書の見かた

本書は、e-Signage バージョン 4.3 について記載しています。

●マークについて

	参考情報や関連事項、制限事項などを記載しています。
☞	関連する情報が記載されているページを示しています。

●表記について

- **キーを押す操作は、押すキーを「【 】」で表記しています。**
  例：【Shift】キー、【Ctrl】キーなど
- **メニューやウィンドウ、ダイアログボックス、ボタン、タブなどを「[ ]」で表記しています。**
  例：

1 **［オプション］メニューから［設定］をクリックします。**
［設定］ダイアログボックスが表示されます。

- **項目やチェックボックス、ラジオボタンなどを「「」」で表記しています。**
  例：「X 座標」、「既存の画面サイズ」ラジオボタンなど
- **本書では、e-Signage が次のフォルダにインストールされている場合を例に説明します。**
  異なる場合は、必要に応じて読み替えて操作してください。
  C:¥Program Files¥SHARP¥e-Signage （デフォルト）
- **本書に記載されている画面サンプルや操作手順は、 1 つの例です。**
  お使いの表示デバイスや画面の設定、お使いになる OS などのバージョンによって内容が異なる場合があります。本書では、Windows XP を例に記載しています。
  また、本書に記載されているコンテンツファイルやフォントなどは、作成例です。すべて搭載されているものではありません。
- **本書では、Windows の基本的な操作については説明していません。**

用語解説

本書で使用されている用語について説明します。

用語	意味
管理用 PC	番組、タイムテーブル、スケジュールを作成し配信するパソコンです。 「サーバ PC」も同じ意味を示します。
表示用 PC	スケジュールに従ってコンテンツを表示するパソコンです。 「パネル PC」、「クライアント PC」も同じ意味を示します。また、「パネル」とは、このパソコンに接続された表示装置（インフォメーションディスプレイなど）を示します。
コンテンツ（ファイル）	動画、静止画、音声など、パネルに再生する素材（ファイル）です。 通常は、ユーザ側で用意します。
プレイリスト	複数のコンテンツを再生したい順序に並べたものです。 コンテンツ情報と再生順序、再生時間などの情報が登録されています。
表示枠	1 つのパネルを複数に分割したときの表示単位となる子画面を示します。
テロップ	スクロールメッセージです。 e-Signage では、テロップは 2 つまで表示できます。
番組	表示枠レイアウトと、複数の表示枠にそれぞれ割り当てられたプレイリストの情報、テロップなどの情報を組み合わせたものです。
RSS フィード	WEB サイトの見出しや要約などが構造化されたデータです。
タイムテーブル	複数の番組の再生順序、再生時刻を 1 日の時間枠に割り当てたものです。
スケジュール	複数のタイムテーブルを、再生したい日付に割り当てたものです。
添付ファイル	HTML ファイルなどを表示するときに必要となる画像ファイルなどの総称を示します。

システム運用上の注意事項

コンテンツや番組を作成するときの留意点

システム運用前には、番組を実際に表示して、正しく表示されるかどうか確認してください。パソコンの処理能力が不足すると、コンテンツが正しく再生できない場合があります。

・動画再生プレイヤーについて

同時に複数の動画を再生しないことを推奨します。

コンテンツ内容によって異なりますが、一般的には、Flash Player より Windows Media Player の方が、CPU 負荷が高くなります。

・動画ファイルを再生する場合、別途有償のコーデックが必要となる場合があります。
・QuickTime のコンテンツを再生する場合は、QuickTime Player が必要です。

・Flash コンテンツについて

画像の透過処理（画像のフェードイン / フェードアウト）を多用したコンテンツを表示すると、CPU 負荷が非常に高くなる可能性がありますので、注意してください。

・動画および静止画の拡大 / 縮小表示について

画像サイズや表示サイズが大きくなるほど、CPU 負荷が高くなります。また、画像を拡大 / 縮小して表示すると、CPU 負荷が高くなります。できる限り、コンテンツ表示領域のサイズ（表示枠サイズ）を小さくしてください。また、コンテンツは表示サイズと同じ画像サイズで作成してください。

・静止画切換について

静止画切換を使用すると、CPU 負荷が高くなります。また効果は、ビデオカードの性能に依存します。

・テロップコンテンツについて

テロップの表示には、高い CPU 処理能力を必要とします。テロップ使用の際には、運用前に番組を実際に表示してテストすることをお勧めします。

・背景色を透過させると、負荷が大きくなります。

・テロップの表示領域が大きくなるほど負荷が大きくなります。必要以上に大きくしないでください。

・テロップ 1 行の文字数が多くなると、表示が乱れる場合があります。その場合は途中で改行してください。（1 列全角 100 文字程度を推奨）

・PowerPoint について

PowerPoint のデータは、自動的に画面切り替え（自動スライドショー）するように設定し、繰り返し再生するように設定してください。

PowerPoint Viewer は、同時に複数表示することはできません。1 つの番組内では、複数の表示枠に PowerPoint 形式のファイルを割り付けないでください。PowerPoint Viewer は、自分自身にフォーカスが当っている場合にのみ、スライドショーの再生が進行します。PowerPoint コンテンツを表示中は、他の表示枠部分をマウス等でクリックしないでください。

e-Signage には、PowerPoint Viewer 2003/2007/2010 が必要です。お使いのパソコンに Microsoft PowerPoint 2003/2007/2010 がインストールされていても、別途 PowerPoint Viewer 2003/2007/2010 をインストールする必要があります。

PowerPoint Viewer 2010 は、再生開始までに時間がかかります。特に、パソコンの起動後、 1 回目の再生時には、時間がかかります。再生時間は、余裕をもたせるようにしてください。

拡張子が（*.pptx、*.ppsx）のファイルを、PowerPoint Viewer 2007 で再生することは可能ですが、再生開始までに時間がかかります。

PowerPoint Viewer 2007 で再生する場合は、拡張子が（*.ppt、*.pps）のファイルを使用することを推奨します。

表示用 PC の連続運転

e-Signage は、24 時間連続使用を想定しておりません。必ず毎日、表示用 PC の電源を OFF するような運用をしてください。（86 ページの電源管理を参照してください。）

パソコンの内部時計

e-Signage は、パソコンの内部時計を元にスケジュールなどを実行します。インターネット時刻サーバと同期するなどの方法で、パソコンの内部時計を常に正確な状態に保ってください。

番組表示時間の精度

番組の表示は、毎分 0 秒に起動するタイマーによって制御しています。1 分より短い時間での番組切り替えや、1 分途中（秒単位）での番組切り替えはできません。

また、コンテンツを表示するアプリケーションの起動時間やコンテンツファイルの読み込み時間などによって、実際の表示時間と多少の誤差が発生することがあることを、あらかじめご了承ください。

バックアップについて

e-Signage には、データのバックアップ機能はありません。運用中は、定期的にコンテンツファイルなどのバックアップを取ってください。

複数台のパネル接続（デイジーチェーン接続の場合）

e-Signage ネットワーク版では、数珠つなぎに接続したインフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）に対して、異なるパネル制御コマンド（パネル電源 ON/OFF やパネル入力コマンド）を送信することができません。（84 ページのパネル管理・環境設定を参照してください。）

静止画について

背景や表示枠に静止画を設定する場合、長時間同じ場所に表示すると、ディスプレイに残像現象が起こる場合があります。一定時間ごとに静止画を変更したり、レイアウトを変更するなどの配慮をした番組やタイムテーブルを作成してください。

e-Signage の特長

「e-Signage」は、シャープオリジナルのコンテンツ配信・表示ソフトです。

優しいユーザーインタフェース

新聞のテレビ欄のようなタイムスケジュール、カレンダーのような月間スケジュールに番組を配置でき、編集できます。

多彩な表示とテロップ機能

レイアウトフリーの表示枠（4 表示枠）、背景やテロップ（2 本）が利用できます。縦型テロップにも対応しており効果的な表現と情報提供ができます。

配信予約機能

インフォメーションディスプレイシステムにネットワークで予約配信することができます。

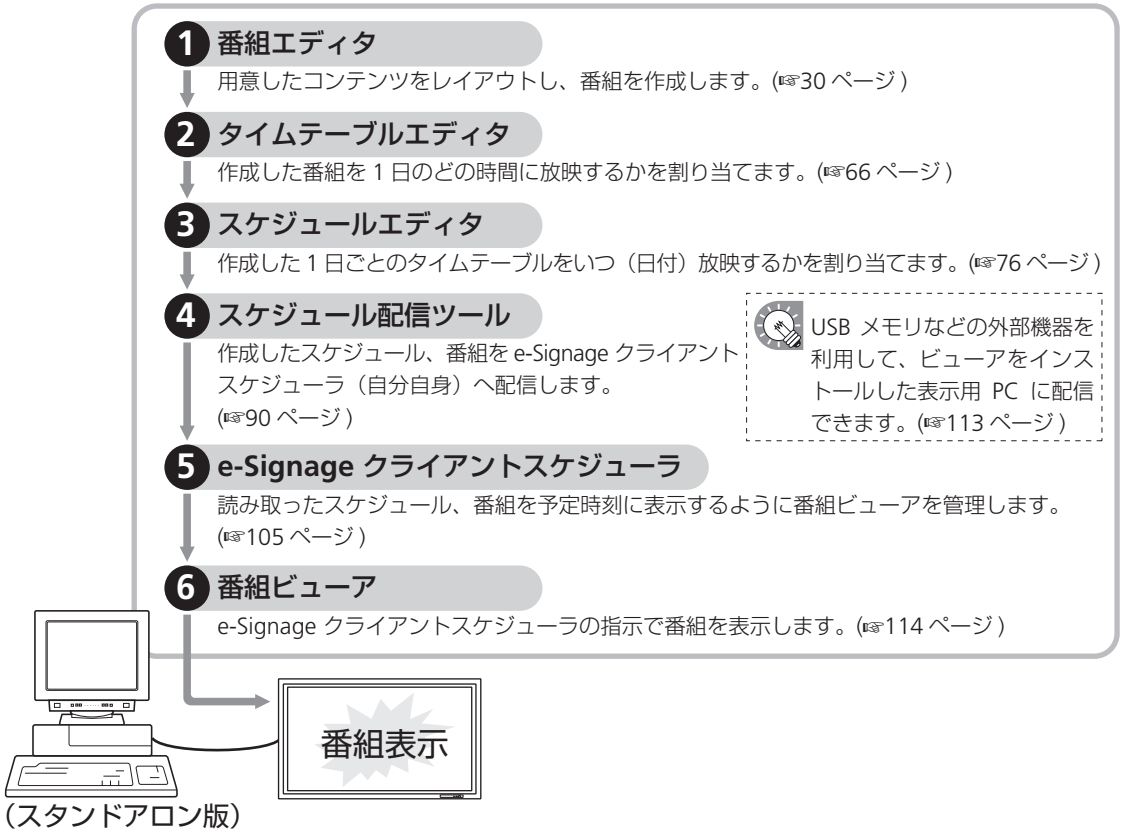
ディスプレイコントロールや臨時配信などの機能をサポート

電源 ON/OFF の管理や緊急時の臨時配信など、ディスプレイのコントロールがスムーズに行えます。

番組配信までの流れ

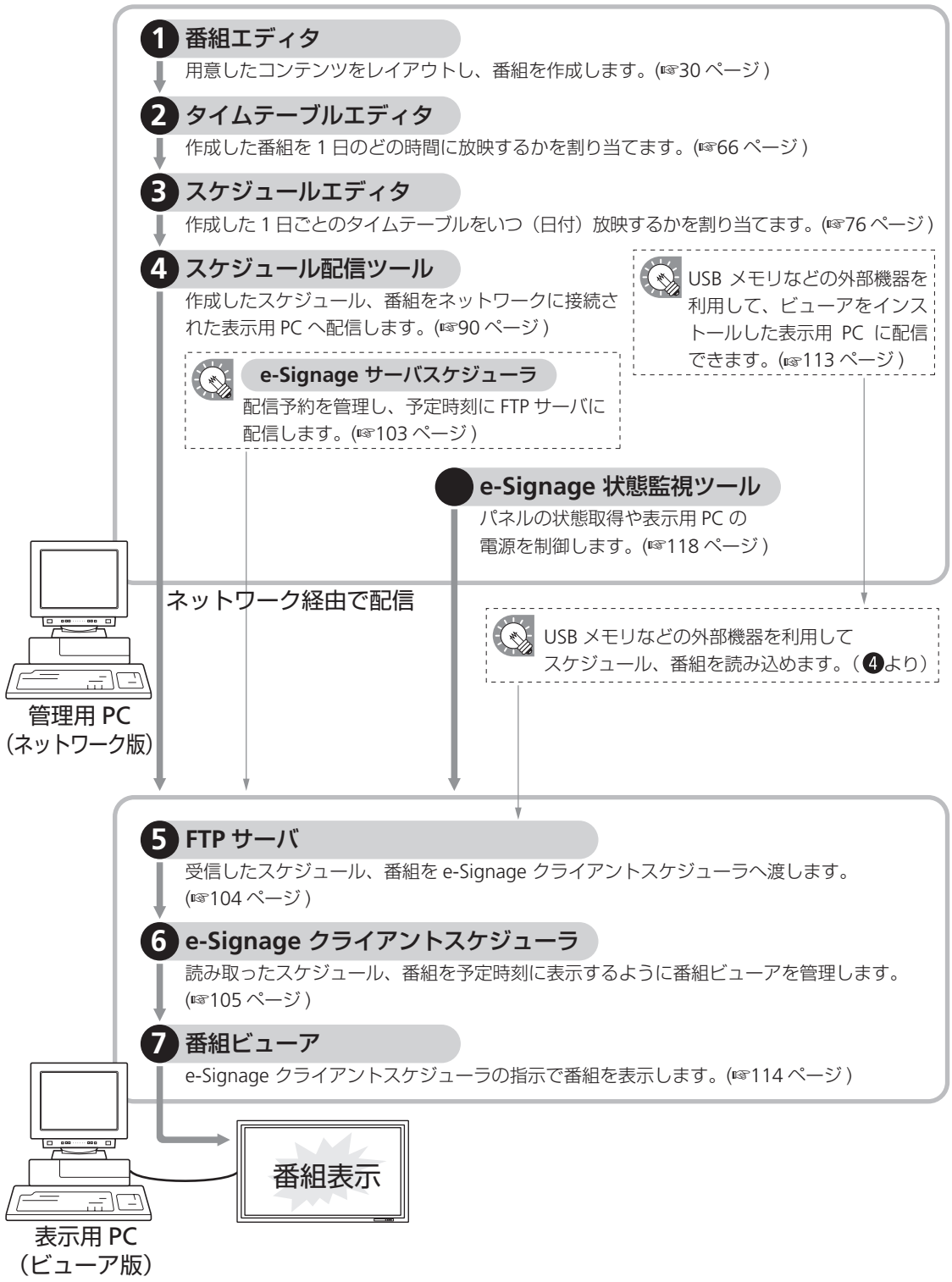
番組作成からパネルに番組を表示するまでの流れについて説明します。

スタンドアロン版の場合



（スタンドアロン版）

ネットワーク版の場合


1 番組エディタ
用意したコンテンツをレイアウトし、番組を作成します。(☞30 ページ)
2 タイムテーブルエディタ
作成した番組を 1 日のどの時間に放映するかを割り当てます。(☞66 ページ)
3 スケジュールエディタ
作成した 1 日ごとのタイムテーブルをいつ（日付）放映するかを割り当てます。(☞76 ページ)
4 スケジュール配信ツール
作成したスケジュール、番組をネットワークに接続された表示用 PC へ配信します。(☞90 ページ)
USB メモリなどの外部機器を利用して、ビューアをインストールした表示用 PC に配信できます。(☞113 ページ)
e-Signage サーバスケジューラ
配信予約を管理し、予定時刻に FTP サーバに配信します。(☞103 ページ)
e-Signage 状態監視ツール
パネルの状態取得や表示用 PC の電源を制御します。(☞118 ページ)
ネットワーク経由で配信
USB メモリなどの外部機器を利用してスケジュール、番組を読み込めます。(❹より)
管理用 PC
(ネットワーク版)
5 FTP サーバ
受信したスケジュール、番組を e-Signage クライアントスケジューラへ渡します。(☞104 ページ)
6 e-Signage クライアントスケジューラ
読み取ったスケジュール、番組を予定時刻に表示するように番組ビューアを管理します。(☞105 ページ)
7 番組ビューア
e-Signage クライアントスケジューラの指示で番組を表示します。(☞114 ページ)
番組表示
表示用 PC
(ビューア版)

インストール・起動

e-Signage をご使用いただくために必要な環境やインストール方法、および起動と終了方法などについて説明します。ご使用の前に必ずお読みください。

動作に必要なシステム環境

項目	内容
パソコン	CPU：Celeron M 1.3 GHz 以上 番組に動画コンテンツを多く使用する場合は、Pentium 4 プロセッサ 2GHz 以上の CPU を必要とします。
OS	Microsoft Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 8（日本語版） Microsoft Windows Server 2003/2008（日本語版）
メモリ	256MB 以上（512MB 以上を推奨）
ハードディスク	空き容量 20MB 以上（別途データ保存のための空き容量が必要）
ディスプレイ（管理用 PC 用）※1	解像度 1024 × 768 以上のフルカラーディスプレイ
パネル（表示用 PC 用）※2	インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ） LB-46GX35、LB-52GX35、LB-1085※3、LB-T401、LB-T461、LB-T601
インターフェイス	・USB ポート（USB メモリを利用する場合のみ） ・LAN ポート（ネットワーク版のみ（TCP/IP 通信が動作すること））
その他	Microsoft Internet Explorer 6.0 以上 PowerPoint Viewer2003/2007/2010 Windows Media Player 9 以上 Flash Player 6 以上 QuickTime Player 7 以上（QuickTime コンテンツを再生する場合）

上記以外にも、OS が動作する環境を満たす必要があります。

表示用 PC の OS が Windows Vista/Windows 7/Windows 8 の場合、表示用 PC のユーザーアカウント制御を無効にしてください。※4

※1　番組やスケジュールの作成・編集に使用するディスプレイ。

※2　スタンドアロン版、ビューア版で、番組の表示に使用するパネル。
パネルを制御することができます。パネルを制御するためには、表示用 PC とパネルを RS-232C ケーブルで接続するまたは、パネルを LAN に接続する必要があります。
パネルの仕様や接続方法、設定については、ご使用のパネルの取扱説明書をご覧ください。

※3　LB-1085 でパネルを制御する場合は、最初に e-Signage クライアントスケジューラで「接続確認」を 1 度行ってください。（☞110 ページ）
「接続確認」を行わないと制御できません。

※4　表示用ＰＣでユーザーアカウントを無効にする方法について

Windows Vista の場合

①[コントロールパネル] で [ユーザー アカウントと家族のための安全設定] を選択する
②[ユーザー アカウント] を選択する
③[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化] を選択する
④[ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] のチェックをはずす

Windows 7 の場合

①[コントロールパネル] で [ユーザー アカウントと家族のための安全設定] を選択する
②[ユーザー アカウント] を選択する
③[ユーザー アカウント制御設定の変更] を選択する
④スライダーを一番下にする

Windows 8 の場合

（ご注意）

この設定を行うと Windows ストアアプリが動作しなくなりますのでご注意ください。

①【Windows】キー +【R】キーを押して「ファイル名を指定して実行」を表示する
②「regedit.exe」と入力し、【Enter】キーを押す
③ユーザーアカウント制御画面が表示されるので [はい] をクリックする
④画面左側のツリーで
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Policies¥System
を選択する
⑤「EnableLUA」をダブルクリックし、[DWORD（32 ビット）値の編集] ダイアログを表示する
⑥「値のデータ」に「0」を入力して [OK] をクリックする
⑦ ボタンをクリックしてレジストリエディターを終了後、PC を再起動する

・表示用 PC を手動制御（パネル PC 電源 ON）する場合は、表示用 PC のマジックパケットによる WakeOnLAN 機能が有効になっている必要があります。
表示用 PC が、同一セグメント LAN の外にある場合、使用しているルータの仕様や設定によっては、マジックパケットが通過できない場合があります。詳しくは、ネットワーク管理者に相談してください。
・スタンドアロン版、ネットワーク版、ビューア版に関わらず、e-Signage をインストールするパソコンには、「Flash Player」、「Windows Media Player」および「PowerPoint Viewer2003/2007/2010」がインストールされている必要があります。
プログラムをインストールしていない場合やバージョンが異なる場合など、インストールを促すメッセージが表示されたときは、プログラムを提供しているホームページからダウンロードし、インストールしてください。
・動画ファイルを再生する場合、別途有償のコーデックが必要となる場合があります。

e-Signage をインストールする

管理者権限で操作してください。

● e-Signage をインストールする

1 **パソコンを起動します。**

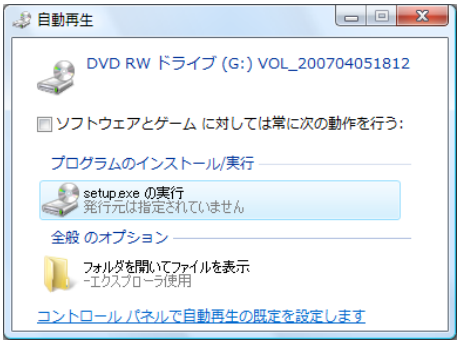
2 **すべてのアプリケーションソフトを終了します。**

3 **e-Signage セットアッププログラム（Setup.exe）を起動します。**
Setup.exe をダブルクリックすると、セットアッププログラムが起動されます。

インストール中、セキュリティの警告画面（発行元は確認できませんでした。）が表示された場合は、［実行］をクリックしてください。

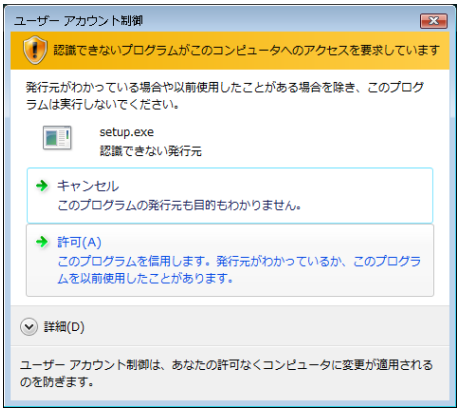
「e-Signage CD-ROM」をお持ちの方は

①「e-Signage CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットします。
自動的にセットアッププログラムが起動された場合は、手順 4 へ進んでください。しばらく待っても起動しないときは、CD-ROM 内の Setup.exe をダブルクリックしてください。



② 自動再生の画面で「setup.exe の実行」をクリックします。
自動再生の画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の Setup.exe をダブルクリックしてください。

③ ユーザーアカウント制御画面が表示されたときは、［許可］（Windows Vista の場合）または［はい］（Windows 7/8 の場合）をクリックします。

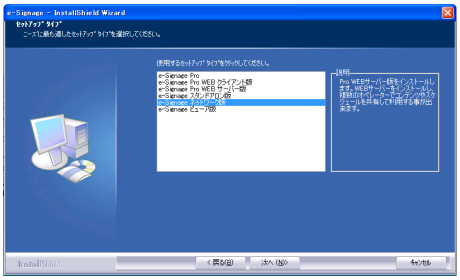


4 **［e-Signage の InstallShield Wizard へようこそ］の画面で、［次へ］をクリックします。**

5 **ソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。**
ソフトウェア使用許諾契約書をすべてお読みください。

6 **ご同意頂けた場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します」ラジオボタンを選択し、[次へ] をクリックします。**

7 **ご購入のe-Signageのタイプを選択し、[次へ]をクリックします。**



タイプは、次の 3 種類です。

- **e-Signage スタンドアロン版**
  パソコン単体で番組作成、スケジュール配信、表示を行います。
- **e-Signage ネットワーク版**
  管理用 PC で使用し、番組作成、スケジュール配信、パネルの状態監視ができます。
  「e-Signage ビューア版」がインストールされている表示用 PC へ番組やスケジュールを配信します。
- **e-Signage ビューア版**
  コンテンツ表示用ソフトのみをインストールします。
  表示用 PC で使用し、受信した番組をスケジュール通りに表示します。

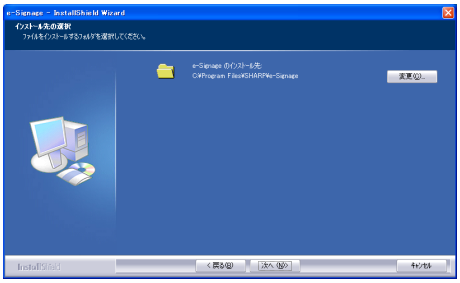
・e-Signage Pro は、e-Signage ネットワーク版（PN-SS02）の機能を拡張し、番組の管理や配信などの機能を強化するソフトウェアです。ご利用の際には、別途ご購入していただく必要があります。お買いあげの販売店までご連絡ください。
・e-Signage Pro WEB サーバー版は、WEB サーバーを利用して複数の PC/ 複数の拠点より複数のディスプレイへの配信を管理するソフトウェアです。ご利用の際には、別途ご購入していただく必要があります。お買いあげの販売店までご連絡ください。

8 **インストールするセットアップタイプにあったライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。**

ライセンスコードは、本製品に同梱されているライセンス証書に記載されている手順に従って入手してください。

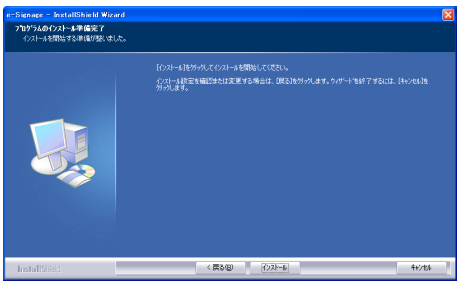
仮のライセンスコードを入力した場合は、2 ヶ月間の試用となります。試用期間が終わるまでに入手したライセンスコードを登録してください。
・スタンドアロン版、ネットワーク版をご使用の場合は、［環境設定］の［ライセンスコードの登録］ダイアログボックスから登録できます。（☞88 ページ）
・ビューア版をご使用の場合は、e-Signage クライアントスケジューラの［バージョン情報］ダイアログボックスから登録できます。（☞113 ページ）

9 **［次へ］をクリックします。**

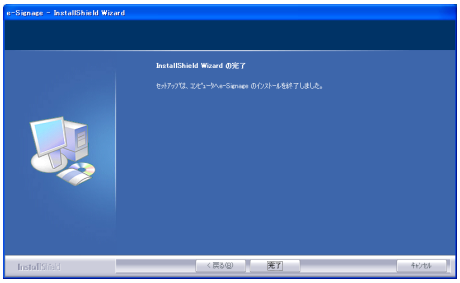


インストール先を変更したい場合は、［変更］をクリックし、インストール先のディレクトリを指定してください。

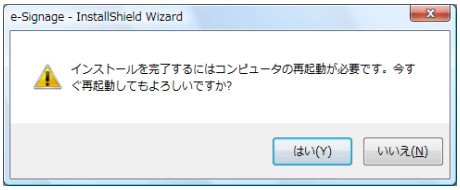
10 **［インストール］をクリックします。**
インストールが開始されます。



11 **［完了］をクリックします。**
これで、インストールは完了です。



次の画面が表示された場合は、［はい］をクリックして、パソコンを再起動させます。



スタンドアロン版、ネットワーク版の場合は、デスクトップに e-Signage のショートカットアイコンが作成されます。

e-Signage

また、スタンドアロン版およびビューア版の場合は、e-Signage クライアントスケジューラ（ ）が起動し、タスクトレイに表示されます。
ネットワーク版の場合は、e-Signage サーバスケジューラ（ ）と e-Signage クライアントスケジューラ（ ）が起動し、タスクトレイに表示されます。

●表示用 PC の環境を設定する

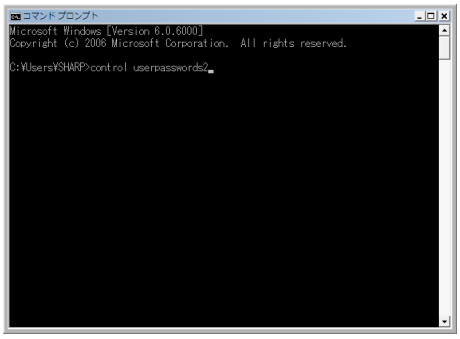
インストールが完了したら、e-Signage をご使用になる前に、表示用 PC の設定を変更してください。

自動ログインの設定

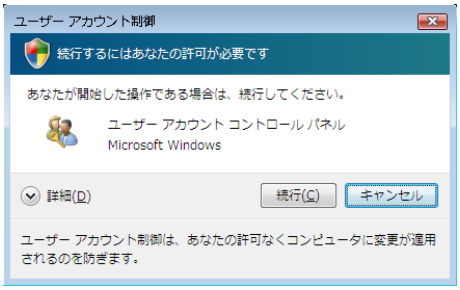
表示用 PC が無人運転を前提としている場合、Windows 起動時に自動ログインされるように設定します。
Windows Vista を例として説明します。

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［アクセサリ］－［コマンド プロンプト］の順にクリックします。**
Windows8 の場合は【Windows】キー +【X】キーを押します。
［コマンド プロンプト］画面が表示されます。

2 **「control userpasswords2」と入力し、【Enter】キーを押します。**



3 **ユーザーアカウント制御画面が表示されるときは［続行］をクリックします。**
［ユーザーアカウント］ダイアログが表示されます。

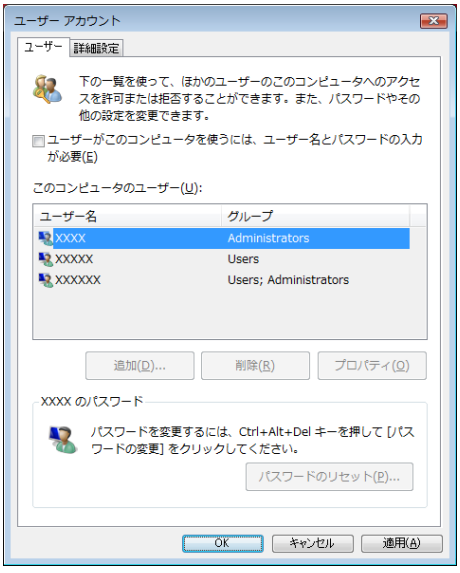


4 **「ユーザーがこのコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」チェックボックスのチェックをはずします。**

5 **［OK］をクリックします。**

6 **自動ログオン画面で「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、［OK］をクリックします。**

7 **「exit」と入力し、［Enter］キーを押します。**



ウェルカム センターの設定（Windows Vista のみ）

初期設定では、Windows Vista を起動すると「ウェルカム センター」が表示されます。
ビューアで番組を表示中に、「ウェルカム センター」が表示されないよう、「起動時に実行します」チェックボックスのチェックをはずします。次回起動時より「ウェルカム センター」が表示されなくなります。

［ウェルカム センター］を閉じている場合は、次の方法で表示することができます。

- Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］－［システムとメンテナンス］－［ウェルカム センター］の順にクリックします。
- Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［アクセサリ］－［ウェルカム センター］の順にクリックします。

スクリーンセーバーの設定

ビューアで番組を表示中に、パネルにスクリーンセーバーが表示されないように、スクリーンセーバーが起動しないように設定します。

•Windows XP の場合

1 **デスクトップのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。**
［画面のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［スクリーン セーバー］タブをクリックし、「スクリーンセーバー」のメニューから「(なし)」を選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**

•Windows Vista/7/8 の場合

1 **デスクトップのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［個人設定］－［スクリーンセーバー］の順にクリックします。**
［スクリーンセーバーの設定］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「スクリーンセーバー」のメニューから「(なし)」を選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**

電源管理

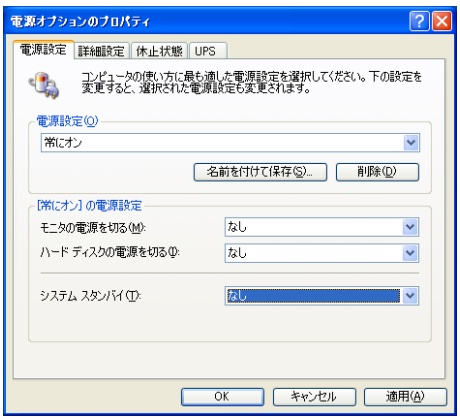
ビューアで番組を表示中に、パネルやハードディスクの電源が切れたり、システムスタンバイに移行したりしないように設定します。

•Windows XP の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロール パネル］－［パフォーマンスとメンテナンス］－［電源オプション］の順にクリックします。**
［電源オプションのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［電源設定］タブの「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」、「システムスタンバイ」のそれぞれのプルダウンメニューから、「なし」を選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**



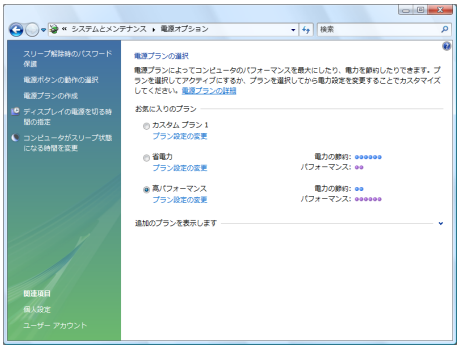
•Windows Vista の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］－［システムとメンテナンス］－［電源オプション］の順にクリックします。**
［電源オプション］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「高パフォーマンス」を選択して、［プラン設定の変更］をクリックします。**

3 **「ディスプレイの電源を切る」、「コンピュータをスリープ状態にする」をそれぞれのプルダウンメニューから「なし」を選択します。**

4 **［変更の保存］をクリックします。**
［電源オプション］ダイアログボックスに戻ります。



5 **右上の［X］ボタンをクリックして、［電源オプション］ダイアログボックスを閉じます。**

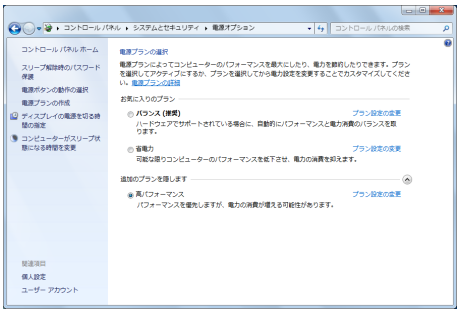
•Windows 7 の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］－［システムとセキュリティ］－［電源オプション］の順にクリックします。**
［電源オプション］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「追加のプランを表示します」をクリックして、「高パフォーマンス」を選択し、［プラン設定の変更］をクリックします。**

3 **「ディスプレイの電源を切る」、「コンピューターをスリープ状態にする」をそれぞれのプルダウンメニューから「なし」を選択します。**

4 **［変更の保存］をクリックします。**
［電源オプション］ダイアログボックスに戻ります。



5 **右上の［X］ボタンをクリックして、［電源オプション］ダイアログボックスを閉じます。**

•Windows 8 の場合

1 **【Windows】キー＋【C】キーを押し、「設定」－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」の順にクリックします。**
［電源オプション］ダイアログが表示されます。

2 **「高パフォーマンス」を選択し、「プラン設定の変更」をクリックします。**

3 **「ディスプレイの電源を切る」、「コンピューターをスリープ状態にする」をそれぞれのプルダウンメニューから「適用しない」を選択します。**

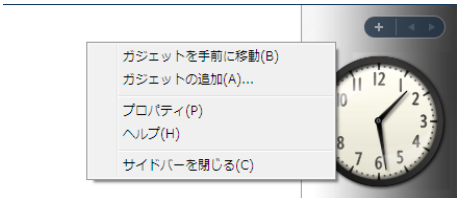
4 **［変更の保存］をクリックします。**
［電源オプション］ダイアログに戻ります。

5 **右上の［X］ボタンをクリックして、［電源オプション］ダイアログボックスを閉じます。**

Windows サイドバー（ガジェット）の設定（Windows Vista のみ）

Windows サイドバー（ガジェット）が表示されないように設定します。

1 **Windows サイドバー上のなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。**
［Windows サイドバーのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

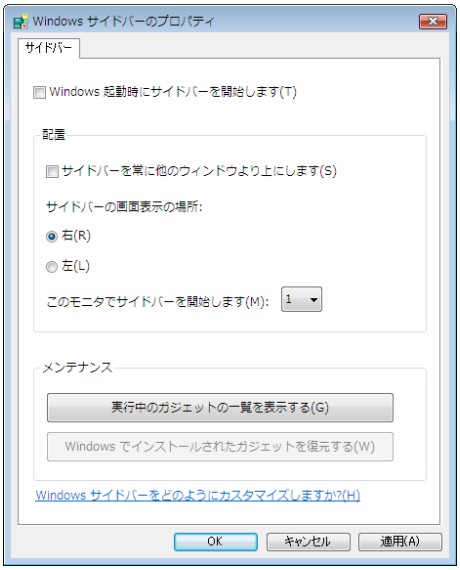


2 **［Windows 起動時にサイドバーを開始します］チェックボックスのチェックをはずします。**

3 **［OK］をクリックします。**

4 **パソコンを再起動します。**

次回 Windows Vista 起動時より「Windows サイドバー（ガジェット）」が表示されなくなります。



Active デスクトップの設定（Windows XP のみ）

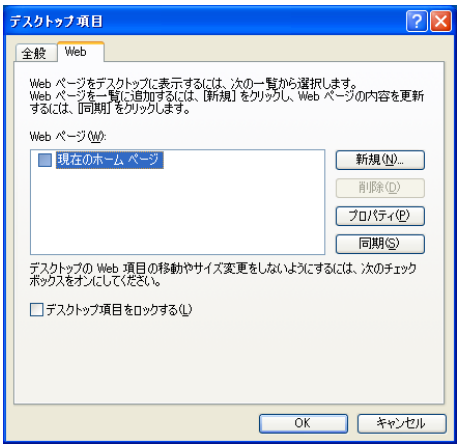
Active デスクトップの設定を OFF にしてください。

1 **デスクトップのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。**
［画面のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［デスクトップ］タブをクリックし、［デスクトップのカスタマイズ］をクリックします。**
［デスクトップ項目］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［Web］タブをクリックし、「Web ページ」チェックボックスのチェックをはずします。**

4 **［OK］をクリックします。**



IME ツールバー設定

ビューアで番組を表示しているとき、IME ツールバーが表示されないよう、IME ツールバーをタスクバー内に移動します。

1 **IME ツールバーを右クリックして表示されたメニューから［最小化］をクリックします。**
または をクリックします。

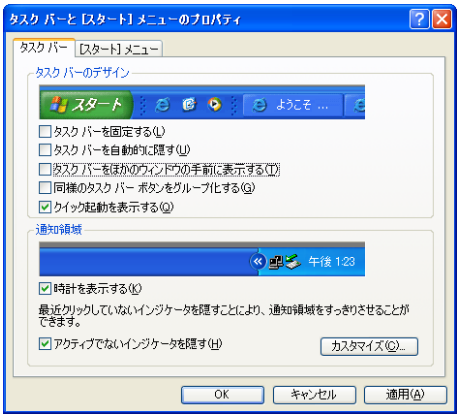
タスクバー設定（Windows XP/Vista のみ）

ビューアで番組を表示しているとき、タスクバーが表示されないよう、タスクバーを設定します。

1 **タスクバーのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。**
［タスクバーと［スタート］メニューのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［タスクバー］タブの「タスクバーのデザイン」の「タスクバーを自動的に隠す」および「タスクバーをほかのウィンドウの手前に表示する」チェックボックスのチェックをはずします。**

3 **［OK］をクリックします。**



Windows Update の設定

ビューアで番組を表示中に Windows Update の自動更新が起動し、パネルにポップアップメッセージ（ダイアログボックス）などが表示されないように、Windows Update が自動更新されないように設定します。

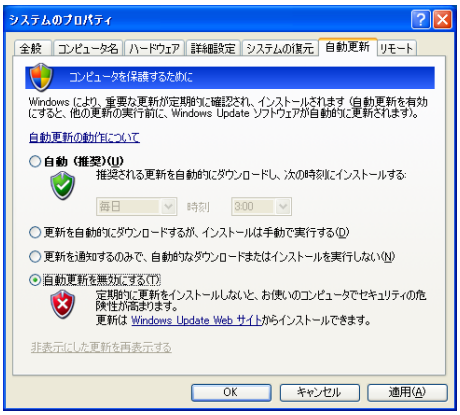
Windows Update 自動更新を無効に設定した場合は、定期的に Windows Update の Web サイト（http://windowsupdate.microsoft.com/）に接続して、手動でダウンロードおよびインストールしてください。最新の更新プログラムをインストールしないと、セキュリティの危険性が高まったり、パフォーマンスに問題が発生したりする場合があります。

•Windows XP の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロール パネル］－［パフォーマンスとメンテナンス］－［システム］の順にクリックします。**
［システムのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［自動更新］タブをクリックし、「自動更新を無効にする」ラジオボタンを選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**

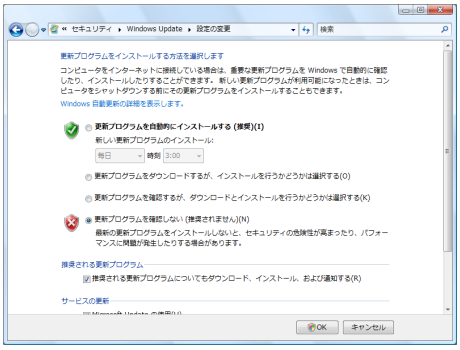


•Windows Vista の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］-［セキュリティ］-［自動更新の有効化または無効化］の順にクリックします。**
［設定の変更］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「更新プログラムを確認しない」ラジオボタンを選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**



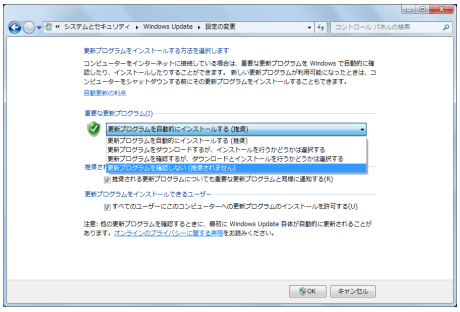
4 **ユーザーアカウント制御画面が表示されるときは［続行］をクリックします。**
［設定の変更］ダイアログが終了します。

•Windows 7/8 の場合

1 **Windows 7 の場合 :Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］-［システムとセキュリティ］-［自動更新の有効化または無効化］の順にクリックします。**
Windows 8 の場合 :【Windows キー】+【C】キーを押し、[設定]-［コントロールパネル］-［システムとセキュリティ］-［自動更新の有効化または無効化］の順にクリックします。
［設定の変更］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「重要な更新プログラム」のメニューから「更新プログラムを確認しない（推奨されません）」を選択します。**

3 **［OK］をクリックします。**



4 **ユーザーアカウント制御画面が表示されるときは［はい］をクリックします。**
［設定の変更］ダイアログが終了します。

常駐アプリケーションソフトの設定

ビューアで番組を表示中に、常駐アプリケーションソフト（例えば、ウイルススキャン）のポップアップメッセージ（ダイアログボックス）などが表示されないように、常駐アプリケーションソフトを設定してください。

パーソナルファイアウォールの設定

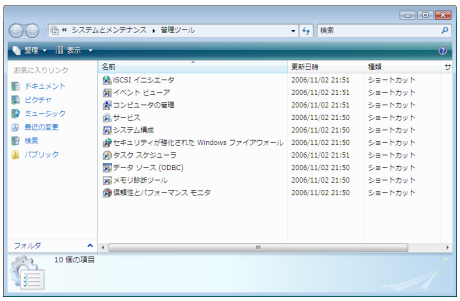
ネットワーク経由で配信する場合で、使用するポートにパーソナルファイアウォールを設定しているときは、e-Signage が使用する TCP/IP ポートを開放しておいてください。
なお、Windows のコントロールパネルの「Windows ファイアウォール」でこのポート番号を例外指定して接続を許可することもできますが、代わりに「Windows ファイアウォール」で実行ファイル "c:\Program files\sharp\e-Signage\ftpd.exe" を例外プログラムに指定して接続を許可することも可能です。

e-Signage のビューア版をインストールした場合、独自の FTP サーバがインストールされサービスとして起動されます。デフォルトの TCP/IP ポート番号は 20 と 21 になっています。ポート番号を変更する場合は、管理用 PC の FTP 設定（☞86 ページ）と、表示用 PC の e-Signage クライアントスケジューラの FTP 設定（☞108 ページ）を同じポート番号に設定しておく必要があります。

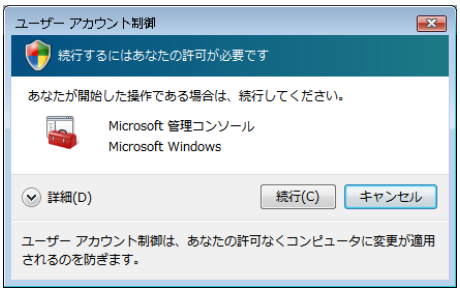
状態監視ツールのファイアウォール設定（Windows Vista/7/8 のみ）

1 **Windows Vista の場合 :Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］－［システムとメンテナンス］－［管理ツール］の順にクリックします。**
Windows 7 の場合 :Windows タスクバーの [スタート] ボタンから [コントロールパネル] － [システムとセキュリティ] －［管理ツール］の順にクリックします。
Windows 8 の場合 : 【Windows キー】+【C】キーを押し、[設定] －［コントロールパネル］－ [システムとセキュリティ] －［管理ツール］の順にクリックします。

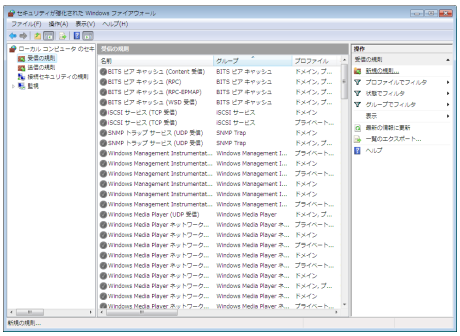
2 **「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」をダブルクリックします。**



3 **ユーザーアカウント制御画面が表示されるときは［続行］（Windows Vista）または［はい］（Windows 7/8）をクリックします。**
［セキュリティが強化された Windows ファイアウォール］ダイアログが表示されます。

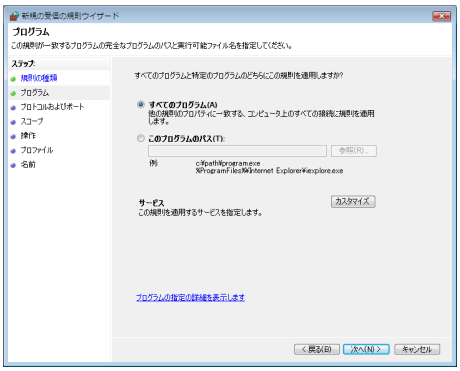


4 **画面左側の［受信の規則］をクリックし、画面右側の「操作」から［新規の規則］（Windows Vista の場合）または［新しい規則］（Windows 7/8 の場合）をクリックします。**
［新規の受信の規則ウイザード］ダイアログボックスが表示されます。



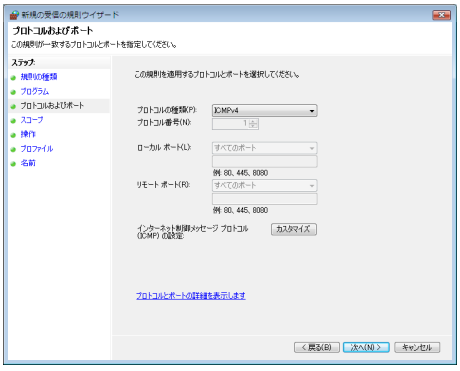
5 「カスタム」ラジオボタンを選択して、[次へ] をクリックします。

6 「すべてのプログラム」ラジオボタンを選択して、[次へ] をクリックします。



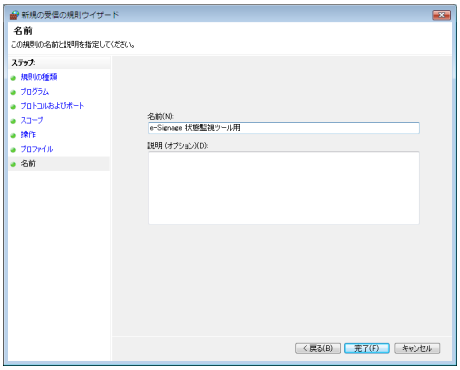
7 「プロトコルの種類」のメニューから「ICMPv4」を選択します。

8 「プロトコルおよびポート」、「スコープ」、「操作」、「プロファイル」の順に必要に応じて設定します。[次へ] をクリックすると、次の項目の設定画面に進みます。



これらの項目については、ネットワーク管理者に確認の上、設定するようにしてください。

9 「名前」として“e-Signage 状態監視ツール用”と入力し、[完了] をクリックします。



10 右上の ボタンをクリックして、ダイアログボックスを順に閉じます。

● e-Signage をアンインストールする

番組の表示中や作成中など、頻繁に e-Signage が不正終了する場合は、プログラムの修正を行ってください。それでも改善されない場合は、いったん e-Signage をアンインストールし、再インストールすることをお勧めします。

e-Signage をアンインストールしても、作成した番組やスケジュール、コンテンツファイルは削除されません。e-Signage をインストールすると再び利用できます。

1 **パソコンを起動します。**

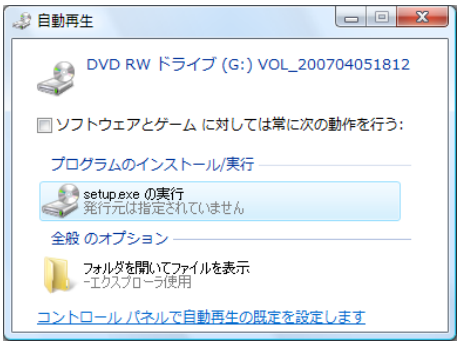
2 **すべてのアプリケーションソフトを終了します。**

3 **e-Signage セットアッププログラム（Setup.exe）を起動します。**
ご提供の Setup.exe をダブルクリックすると、セットアッププログラムが起動されます。

インストール中、セキュリティの警告画面（発行元は確認できませんでした。）が表示された場合は、［実行］をクリックしてください。

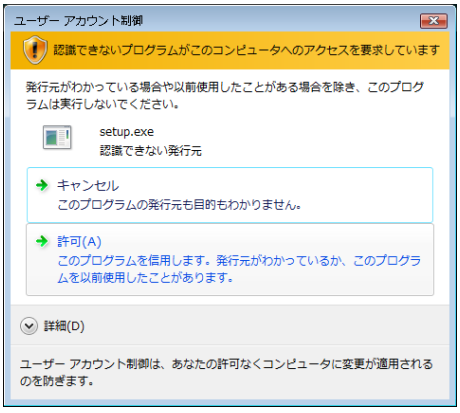
「e-Signage CD-ROM」をお持ちの方は

①「e-Signage CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットします。
自動的にセットアッププログラムが起動された場合は、手順 4 へ進んでください。しばらく待っても起動しないときは、CD-ROM 内の Setup.exe をダブルクリックしてください。



②自動再生の画面で「setup.exe の実行」をクリックします。
自動再生の画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の Setup.exe をダブルクリックしてください。

③ユーザーアカウント制御画面が表示されたときは、［許可］（Windows Vista）または［はい］（Windows 7/8）をクリックします。



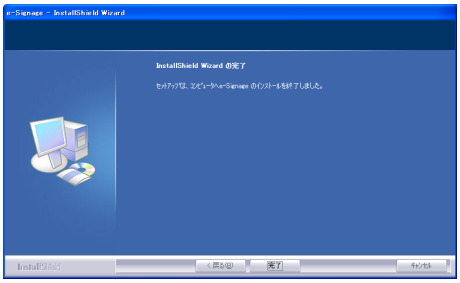
4 **「削除」ラジオボタンを選択し、［次へ］をクリックします。**

「変更」ラジオボタンを選択した場合は、ライセンスコードの再入力が必要です。

5 **[はい] をクリックします。**
アンインストールが開始されます。

e-Signage サーバスケジューラや e-Signage クライアントスケジューラが起動している場合は、メッセージが表示されます。その場合は、[はい] をクリックしてください。e-Signage サーバスケジューラや e-Signage クライアントスケジューラを終了し、アンインストールを続けます。

6 **[完了] をクリックします。**
これで、アンインストールは完了です。



ランチャー画面の起動と終了

ランチャー画面の起動と終了方法、およびランチャー画面の概要について説明します。

●ランチャー画面を起動する

1 **デスクトップの e-Signage ショートカットアイコンをダブルクリックします。**
e-Signage のランチャー画面が起動します。

Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［e-Signage］の順にクリックしても、起動できます。

●ランチャー画面を終了する

1 **ランチャー画面の ✕ をクリックします。**
ランチャー画面が終了します。

●ランチャー画面について

ランチャー画面は、操作を始めるための画面です。
番組の作成や配信など、目的別に 6 種類のボタンが用意されています。

他のツールやダイアログボックスが既に起動している場合は、最前面に表示されます。

①ボタン解説ウィンドウ

各ボタンの上にマウスカーソルを重ねると、ボタンの説明を表示します。

②番組作成・編集（☞30 ページ）

「番組エディタ」が起動します。画面サイズや画面レイアウト、表示するコンテンツやテロップなどを設定し、番組を作成します。

③タイムテーブル作成・編集（☞66 ページ）

「タイムテーブルエディタ」が起動します。作成した番組を表示したい時間に割り当て、1 日のタイムテーブルを作成します。

④スケジュール作成・編集（☞76 ページ）

「スケジュールエディタ」が起動します。作成したタイムテーブルを実行したい日に割り当て、スケジュールを作成します。

⑤スケジュール配信（☞90 ページ）

「スケジュール配信ツール」が起動します。作成したスケジュールを指定したパネルへ配信します。

⑥パネル管理（☞84 ページ）

［パネル管理］ダイアログボックスが起動します。ネットワーク版で、複数のパネルに番組を配信する場合に、パネルを登録して管理します。

e-Signage ネットワーク版のみの機能です。

⑦環境設定（☞88 ページ）

［環境設定］ダイアログボックスが起動します。ランチャーのバージョン情報を表示します。入手したライセンスコードの登録もできます。

番組作成・編集

パネルに表示する番組（コンテンツ）を作成する方法について説明します。

番組エディタの基本画面について

●番組エディタを起動する

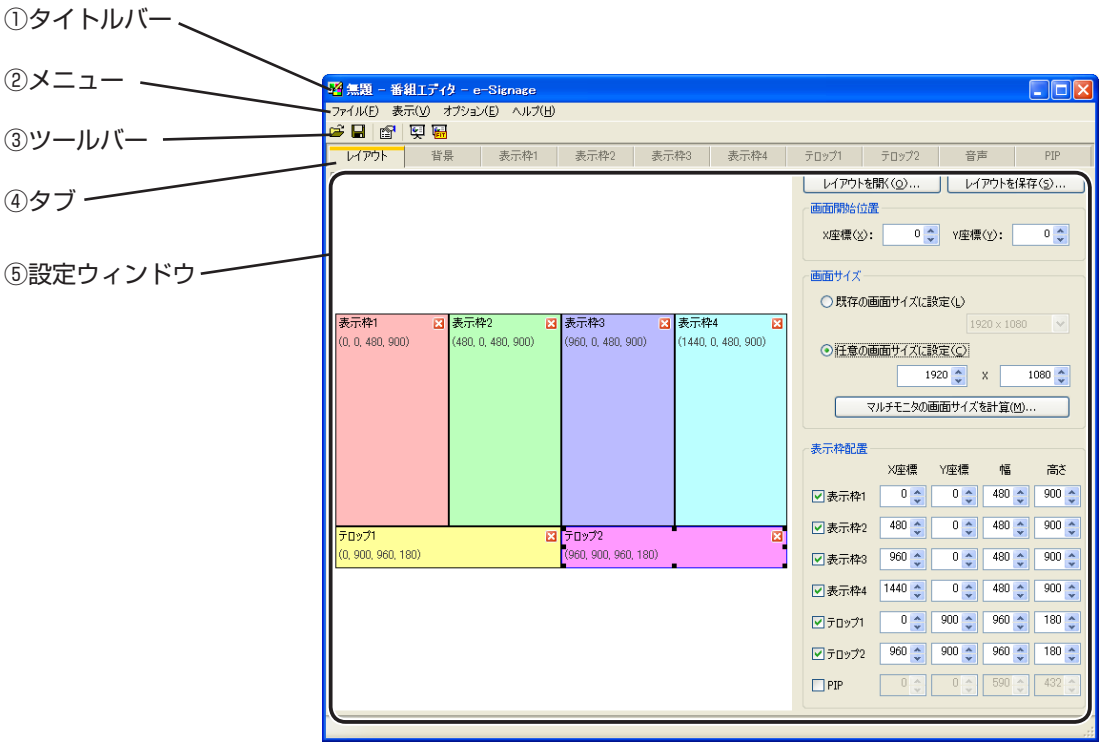
1 **ランチャー画面で** **をクリックします。**

「番組エディタ」が起動します。

起動直後は、新しい番組を作成するためにあらかじめ用意された表示枠 1 ～ 4、テロップ 1、2 が配置されています。この画面を元に内容を設定し、番組を完成させます。

- Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［番組エディタ］の順にクリックしても、起動できます。
- はじめて起動したときは、［コンテンツのプレビュー］ウィンドウも表示されます。（☞38 ページ）
- QuickTime Player や PowerPoint Viewer がインストールされていない場合は、メッセージが表示されます。

●番組エディタの基本画面



①タイトルバー

番組名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、番組を保存すると、その番組名に変わります。開いた番組の内容が変更されると、番組名の後ろに「＊（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「表示」、「オプション」、「ヘルプ」の 4 種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容	参照ページ
ファイル	番組の新規作成	新しい番組を開きます。	−
	番組を開く	保存されている番組を読み込みます。	☞49 ページ
	番組の上書き保存	現在編集中の番組を保存します。	☞47 ページ
	番組に名前をつけて保存	現在編集中の番組に別の名前を付けて保存します。	☞48 ページ
	番組の削除	保存されている番組の中から番組を指定して削除します。	☞50 ページ
	番組のプロパティ	番組のプロパティを表示・変更します。	☞51 ページ
	番組のインポート	他のパソコンでエクスポートした番組を利用するために、読み込みます。	☞53 ページ
	番組のエクスポート	他のパソコンで利用するために、保存されている番組の中から番組を書き出します。	☞52 ページ
	番組作成・編集の終了	番組エディタを終了します。	−
表示	番組のプレビュー［オリジナルサイズ］	現在編集中の番組のプレビューをオリジナルサイズで表示します。	☞49 ページ
	番組のプレビュー［画面にフィット］	現在編集中の番組のプレビューを画面の大きさにフィットさせて表示します。	☞49 ページ
	番組のプレビュー時に表示条件の設定を行う	番組のプレビューするときに、表示条件を設定する場合、チェックします。	☞50 ページ
	コンテンツのプレビュー	［コンテンツのプレビュー］ウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。	☞38 ページ
	最新の情報に更新	e-Signage を起動後、コンテンツフォルダ内のコンテンツファイルを追加・削除した場合に、コンテンツフォルダ内の内容を更新できます。	−
オプション	設定	表示枠やテロップをグリッド単位で操作するときに、グリッドの詳細を設定します。 また、Pro WEB サーバー版を使用する場合にチェックします。初期値はチェック無しです。	☞35 ページ
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。	−

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは、次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容	参照ページ
	番組を開く	保存されている番組を読み込みます。	☞49 ページ
	番組の保存	現在編集中の番組を保存します。	☞47 ページ
	番組のプロパティ	番組のプロパティを表示・変更します。	☞51 ページ
	番組のプレビュー［オリジナルサイズ］	現在編集中の番組のプレビューを表示します。	☞49 ページ
	番組のプレビュー［画面にフィット］	現在編集中の番組のプレビューを画面の大きさにフィットさせて表示します。	☞49 ページ

④タブ

「レイアウト」、「背景」、「表示枠 1」、「表示枠 2」、「表示枠 3」、「表示枠 4」、「テロップ 1」、「テロップ 2」、「音声」、「PIP」の 10 種類のタブがあります。クリックすると、各項目の設定ウィンドウに切り替わります。

⑤設定ウィンドウ

選択したタブの詳細を設定します。

番組を作成する

●使用できるコンテンツファイル

コンテンツとして使用できるファイル形式は次の通りです。

コンテンツの名前	ファイル形式
背景、 表示枠 1 ～ 4	MPEG、MPEG1、MPEG2、MPEG4、 WMV（Windows Media Video（Windows Media Player で再生可能な形式））、 Flash（Flash Player で再生可能な形式）、背景・表示枠用条件付きコンテンツ（.dcv）、 MOV（QuickTime Player で再生可能な形式）、 PowerPoint、HTML、JPEG、BMP、GIF、PNG RSS 設定ファイル（.erc）
テロップ 1，2	テロップエディタで作成したテロップ、テロップ用条件付きコンテンツ（.dct）
音声	WAVE、MP3、AU、AIFF、 WMA（Windows Media Audio（Windows Media Player で再生可能な形式））、 MOV（QuickTime Player で再生可能な形式）、 MIDI、音声用条件付きコンテンツ（.dca）

音声ファイルはレイアウトで配置することはできません。番組の表示時に再生される音声および音楽（BGM）として使用されます。

コンテンツファイルは拡張子によって、タイプを認識します。
タイプに応じて、各ソフトウェアをパソコンにインストールしておく必要があります。

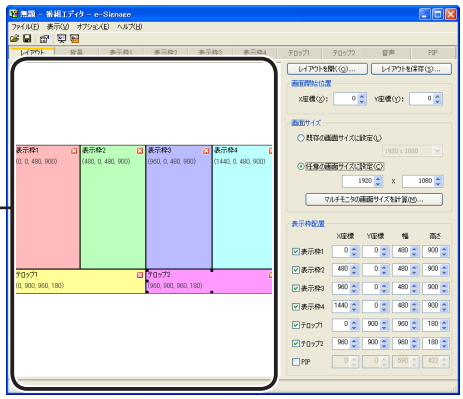
拡張子	コンテンツタイプ	必要なソフトウェア
.avi .mpeg .mpg .wmv .asf	動画	Windows Media Player
.mov※		QuickTime Player
.swf	Flash	Flash Player
.ppt .pps .pptx .ppsx	PowerPoint	PowerPoint Viewer
.htm .html	HTML	Internet Explorer
.tlp	テロップ	なし
.wav .mp3 .au .aif .aiff .wma .mid .midi	音声	Windows Media Player
.mov※		QuickTime Player
.jpeg .jpg .gif .png .bmp	静止画	なし
.erc	RSS 設定ファイル	なし

※ Windows7 以降の場合は、Windows Media Player で再生することができます。
ただし、QuickTime Player がインストールされていない場合は、コンテンツの内容が正しく表示されないことがあるため、QuickTime Player のインストールをお勧めします。

- JPEG ファイルは RGB 形式に対応しています。CMYK 形式には対応していません。
  また、JPEG2000 には対応していません。
- アニメーション GIF には対応していません。
- PowerPoint のコンテンツを同時に２つ以上表示することはできません。
- PowerPoint のコンテンツでは、以下のことはできません。
  マクロの実行、プログラムの実行、リンクオブジェクトの表示、埋め込みオブジェクトの表示
- PowerPoint のコンテンツでアニメーションを多用すると、文字がつぶれて表示されることがあります。
- コンテンツで使用するフォントは、表示用 PC にもインストールされている必要があります。
- HTML ファイルや WEB ページを拡大・縮小して表示することはできません。
- 再生音量の調整は、動画や音声に対応しています。Flash や PowerPoint などには対応していません。

●各コンテンツを配置（レイアウト）する

［レイアウト］ウィンドウで画面および各コンテンツのサイズや位置などを設定します。



［レイアウト］ウィンドウ

レイアウトウィンドウ中央に「レイアウトをロックしています。」と表示されているときは、レイアウトを編集できません。
［番組のプロパティ］ダイアログボックス（☞51 ページ）の「レイアウトをロックし、編集できないようにする」チェックボックスのチェックを外してください。

1 ［レイアウト］タブが選択されていることを確認します。

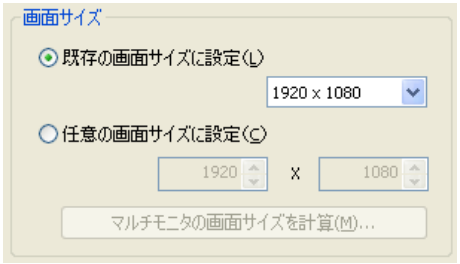
選択されていない場合は、［レイアウト］タブをクリックします。

2 「画面開始位置」を設定します。

背景の左上座標をパネルのどの位置（座標：-9999 ～ 9999）にするかを設定します。
通常は、「X 座標」、「Y 座標」とも「0」を指定します。（デフォルト）

3 「画面サイズ」を設定します。

画面サイズが背景のサイズになります。
「既存の画面サイズに設定」ラジオボタンを選択し、プルダウンメニューからサイズを選択します。
通常は、パネルのサイズ（解像度）を設定してください。



・プルダウンメニューに設定したいサイズがない場合は、「任意の画面サイズに設定」ラジオボタンを選択し、サイズを入力します。

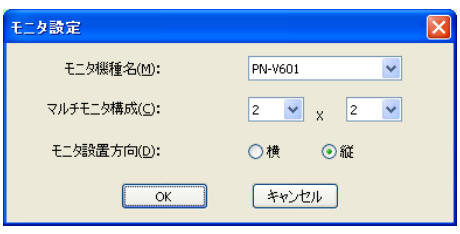
・プリセットされているプルダウンメニューの画面サイズを変更するときは、e-Signage をインストールしたフォルダ（C: ￥Program Files ￥SHARP ￥e-Signage（デフォルト））にある「ScreenSize.dat」を編集し、

1280,1024
1920,1080
1366,768

のように各行に「“幅”，“高さ”」を記述します。番組エディタを起動したときは、先頭行の画面サイズが選択されます。

・複数のパネルを組みあわせて、１つのパネルのように表示するときは、[マルチモニタの画面サイズを計算] をクリックすると、機種名と設置方法を選ぶだけで画面サイズが設定できます。

・「マルチモニタの画面サイズを計算」をクリックすると、モニタ設定画面が表示されます。モニタの機種名、マルチモニタ構成、モニタ設置方向をそれぞれ設定します。



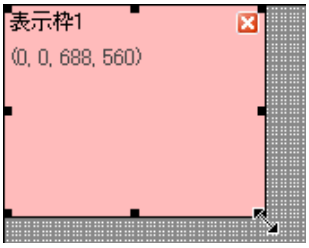
4 「表示枠配置」を設定します。

① 表示する表示枠、テロップ、PIP のチェックボックスをチェックします。

表示枠、PIP 枠およびテロップの右上にある をクリックしても非表示になります。

② 表示枠およびテロップの「X 座標」、「Y 座標」、「幅」、「高さ」をそれぞれ設定します。

・PIP 枠は「X 座標」、「Y 座標」のみ変更可能です。PIP 枠のサイズは、レイアウトウィンドウ上でマウスをドラッグすることで変更できます（下記）。



・表示枠、PIP 枠およびテロップをクリックすると、周りに 8 箇所のグリップが表示され、選択状態になります。このグリップをマウスでドラッグすることで、表示枠、PIP 枠およびテロップのサイズ変更を視覚的に操作することができます。
また、グリップ以外をマウスでドラッグすることで、表示枠、PIP 枠およびテロップを移動することができます。

・【Shift】キーを押しながらドラッグすると、縦横比を保持したままサイズ変更ができます。

・【↑】【↓】【←】【→】キーを押しても、移動できます。

・【Shift】キーを押しながら【↑】【↓】【←】【→】キーを押しても、サイズ変更できます。

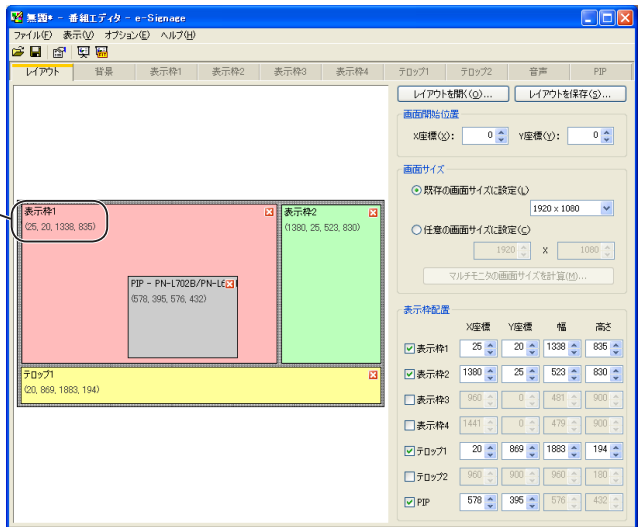
・PIP 枠のサイズは、［PIP］タブの「項目」の「サイズ」で「値」を選択して変更することもできます。

・グリッドを利用して、グリッド単位で正確に操作することができます。（☞35 ページ）

例えば、
表示枠 1　：X 座標 =25、　Y 座標 =20、 幅 =1338、高さ =835
表示枠 2　：X 座標 =1380、Y 座標 =25、 幅 =523、 高さ =830
テロップ 1 ：X 座標 =20、　Y 座標 =869、幅 =1883、高さ =194
PIP　　：X 座標 =578、　Y 座標 =395
を配置した場合は、次のようになります。

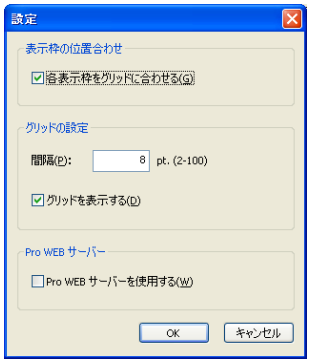
・各表示枠、テロップの左上に、名前および（左上の頂点の X 座標，左上の頂点の Y 座標，幅，高さ）が表示されています。

・PIP 枠は 1pt 単位での移動はできません。利用するインフォメーションディスプレイにより配置可能な位置は異なります。



グリッドを利用する

グリッドを利用すると、マウスのドラッグ時にグリッド単位で移動でき、正確に位置を合わせることができます。グリッドは次の方法で設定します。



1 **［オプション］メニューから［設定］を選択します。**
［設定］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「表示枠の位置合わせ」を設定します。**
グリッド単位で操作する場合は、「各表示枠をグリッドに合わせる」チェックボックスのチェックを入れます。
1pt 単位で操作する場合は、チェックをはずします。

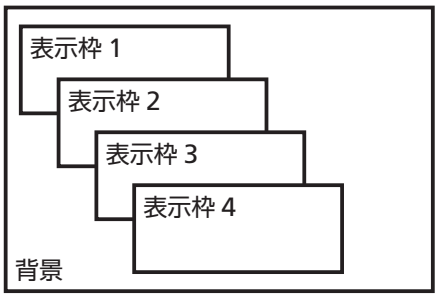
3 **グリッドの「間隔」を設定します。**
2 ～ 100pt の範囲で入力します。（デフォルト 8pt）

- 「グリッドを表示する」チェックボックスでグリッドの表示 / 非表示を切り替えることができます。グリッドを非表示にしても、「各表示枠をグリッドに合わせる」チェックボックスのチェックを入れている場合は、グリッド単位で移動、サイズ変更ができます。
- 「各表示枠をグリッドに合わせる」チェックボックスのチェックを入れているときでも、次の場合はグリッドを無視して 1pt 単位で操作できます。
  - 【Ctrl】キーを押しながらドラッグすると、グリッドを無視してサイズ変更ができます。
  - 【Shift】キーと【Ctrl】キーを押しながらドラッグすると、縦横比を保持したままグリッドを無視してサイズ変更ができます。
  - 【Ctrl】キーを押しながら【↑】【↓】【←】【→】キーを押すと、1pt 単位で移動ができます。
  - 【Shift】キーと【Ctrl】キーを押しながら【↑】【↓】【←】【→】キーを押すと、1pt 単位でサイズ変更ができます。

表示優先順位について

番組を表示したときに、各表示枠が重なっている場合は、次の順で前面から背面に表示されます。

「表示枠 4」→「表示枠 3」→「表示枠 2」→「表示枠 1」→「背景」



- 表示の優先順位を設定することはできません。
- 表示枠や背景のコンテンツが PowerPoint や EXE ファイル、RSS 設定ファイルの場合、表示優先順位に関係なく前面に表示されます。
- テロップは、背景、表示枠より前面に表示されます。
- PIP 枠は、背景、表示枠、テロップより前面に表示されます。
- 背景に動画を表示させた場合、その動画が他の表示枠よりも前面に表示されることがあります。動画は背景ではなく、表示枠 1 ～ 4 のいずれかに設定してください。

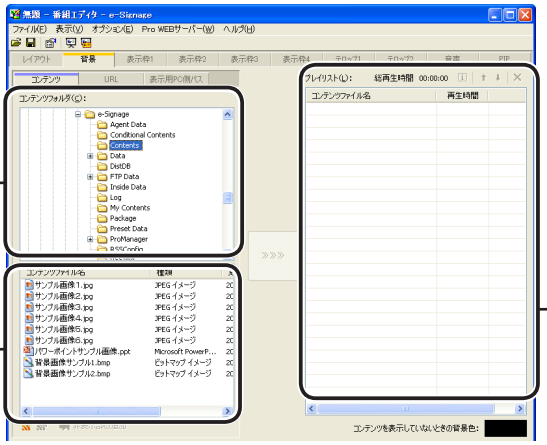
作成したレイアウトを利用する

［レイアウトを保存］をクリックして作成したレイアウトを保存しておくと、次回番組作成時に［レイアウトを開く］をクリックしてレイアウトを開いて利用することができます。

レイアウト保存では、表示枠の設定内容は保存されません。
画面開始位置、画面サイズ、表示枠配置のみです。

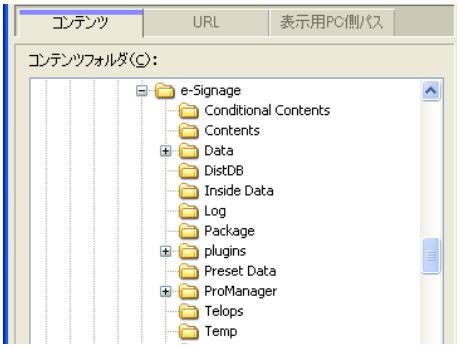
●背景 / 表示枠 1 ～ 4 を設定する

背景および配置した表示枠 1 ～ 4 にコンテンツの内容、再生順序や再生時間などを設定します。



1 **[背景]タブまたは[表示枠 1]～[表示枠 4]タブをクリックします。**

2 **「コンテンツフォルダ」ツリーから使用するコンテンツファイルが保存されているフォルダを選択します。**
［コンテンツ］タブが選択されていることを確認し、選択されていない場合は、［コンテンツ］タブをクリックしてください。



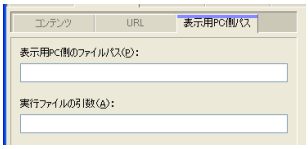
「URL」または［表示用 PC 側パス］を指定して表示することもできます。

［URL］タブ

指定した「URL」の HTML をコンテンツとして表示します。
表示用 PC から参照できる「URL」を入力してください。
ご使用のパソコンがインターネットに接続できる環境であれば、
［URL の確認］をクリックすると、入力した URL に接続されます。
正しく接続されるか、また正しく表示されるかを確認してください。

- ホームページには著作権がありますので、注意してください。
- 表示するページにエラーがある場合は、正しく表示できません。
- 表示するページにプラグインなどが必要な場合は、対象のプラグインが表示用 PC にインストールされている必要があります。

［表示用 PC 側パス］タブ

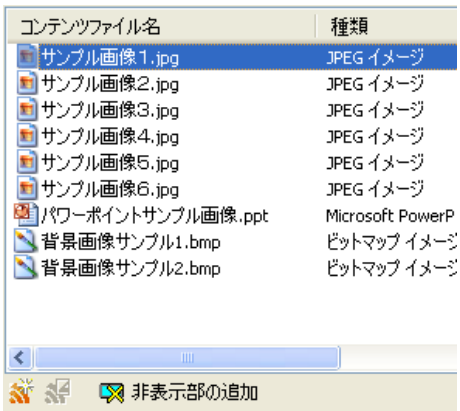


「表示用 PC 側のファイルパス」で指定したコンテンツファイルを表示します。EXE ファイルを指定することができます。表示用 PC から参照できるパスを入力してください。EXE ファイルの場合、「実行ファイルの引数」を付加することもできます。

・頻繁に更新されないファイルサイズの大きなコンテンツファイルを表示する場合には、そのファイルをあらかじめ表示用 PC に配置し、それぞれを参照するパスのみを送信することで番組コンテンツ送信にかかる時間を短縮できます。
・表示用 PC の絶対パスまたは、マイコンテンツフォルダ (☞106 ページ) からの相対パスで指定してください。
・次の引数が利用できます。
　%L　：表示枠の左上 X
　%T　：表示枠の左上 Y
　%W：表示枠の幅
　%H　：表示枠の高さ
・e-Signage では、指定された実行形式ファイルを指定時間に起動 / 終了するのみで、起動された実行形式ファイルの動作を保証するものではありません。
・実行するプログラムの仕様によっては、正常に起動 / 終了できなかったり、正しい位置にウィンドウを表示できない場合があります。

3 「コンテンツファイル」リストから使用するコンテンツファイルを選択します。

背景および表示枠 1 ～ 4 で使用できるファイル形式は、32 ページを参照してください。



・【Ctrl】キーや【Shift】キーを押しながらクリックすると、複数のコンテンツファイルを同時に選択することができます。
・［コンテンツのプレビュー］ウィンドウで、コンテンツファイルのプレビューを確認することができます。(☞38 ページ)
・HTML コンテンツを使用する場合、HTML 内部で使用している画像や動画などを、必ず対象の HTML ファイルと同じ位置か、下位のフォルダ位置に置いてください（添付ファイル）。
コンテンツファイルのプロパティから追加できます。(☞39 ページ)
添付ファイルは、すべて相対パスで記述するように HTML ファイルを作成する必要があります。

4 »» をクリックします。

プレイリストの最後にコンテンツファイルが登録されます。
プレイリストの詳細は、38 ページを参照してください。

・手順 3 でコンテンツファイルをダブルクリック、または「コンテンツファイル」リストのコンテンツファイルを「プレイリスト」にドラッグしても、登録できます。
・プレイリストのコンテンツファイルは、【Ctrl】キーを押しながらドラッグ＆ドロップするとコピーすることができます。

5 必要に応じて手順 1 ～ 4 を繰り返し、その他の表示枠も設定します。

・[表示枠 1] ～ [表示枠 4] タブで、「コンテンツファイル」リストの下にあるボタン（ ）「非表示部の追加」をクリックするとプレイリストに非表示部を追加できます。非表示部も他のコンテンツファイルと同じように再生時間や再生順序を設定できます。
非表示部に設定した表示枠は、表示されません。

・「コンテンツファイル」リストの下にあるボタン（ ）または（ ）をクリックすることで、RSS 設定ファイルの新規作成または編集を行うことができます。(☞54 ページ)

コンテンツのプレビュー

[コンテンツのプレビュー] ウィンドウでコンテンツファイルのプレビューを確認することができます。
[表示] メニューから [コンテンツのプレビュー] をクリックして表示できます。
次のファイルは、プレビューがすぐに表示されません。[コンテンツのプレビュー] ウィンドウに表示されたアイコン（テロップの場合は文字列）をクリックすると、プレビューが表示されます。
・2MB 以上のファイル
・動画ファイル
・PowerPoint（全画面プレビューになります。）
・テロップ（全画面プレビューになります。）

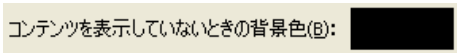
プレイリストについて

プレイリストの上から順にコンテンツファイルが再生されます。
再生時間は、コンテンツを再生する時間です。
総再生時間には、プレイリストに登録されているコンテンツの再生時間の合計が表示されます。
総再生時間は、実際の再生時間と異なる場合があります。
（再生設定で「次のコンテンツを再生する」に設定されている場合や条件付きコンテンツが使用されている場合など。）

プレイリストの右上にあるボタンをクリックすると、次のような操作ができます。

アイコン	メニュー名	内容
	登録コンテンツの プロパティ表示	選択されているコンテンツファイルのプロパティを表示します。詳細は、39 ページを参照してください。
	登録コンテンツを上へ移動	選択されているコンテンツファイルの順番を 1 つ前（上）に移動します。（複数のコンテンツファイルを移動することはできません。）
	登録コンテンツを下へ移動	選択されているコンテンツファイルの順番を 1 つ後（下）に移動します。（複数のコンテンツファイルを移動することはできません。）
	登録コンテンツの削除	選択されているコンテンツファイルをプレイリストから削除します。【Delete】キーを押しても削除できます。

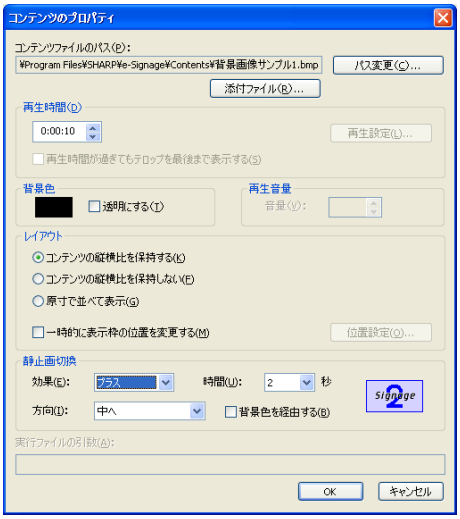
コンテンツを表示していないときの背景色



コンテンツが再生されていないときに、表示枠の範囲を指定した色で塗りつぶして表示します。
色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、背景色を変更できます。

コンテンツのプロパティ

プレイリストのコンテンツファイルを選択し、 をクリックすると、［コンテンツのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。
次の内容の確認や設定ができます。



①コンテンツファイルのパス

コンテンツファイルのパスが表示されます。

- ［添付ファイル］をクリックして表示された［添付ファイル］ダイアログボックスでファイルを追加できます。
- ［パス変更］をクリックして表示された［ファイルを開く］ダイアログボックスでファイルを変更できます。

HTML コンテンツを使用する場合、HTML 内部で使用している画像や動画などを、必ず対象の HTML ファイルと同じ位置か、下位のフォルダ位置に置いてください。HTML ファイル内の添付ファイルの参照パスは、すべて相対パスで記述してください。

②再生時間

再生時間を設定できます。

- コンテンツタイプが動画、音声、テロップのとき、設定した再生時間よりも前にコンテンツ再生が終了した場合の動作を設定することができます。設定するときは、[再生設定] をクリックしてください。
- 「再生時間が過ぎてもテロップを最後まで表示する」チェックボックスのチェックをはずした場合、テロップの再生時間が過ぎると再生が途中でも強制的に終了します（コンテンツタイプがテロップのとき有効）。
- プレイリストに同じコンテンツファイルを連続で並べた場合、再生時間が過ぎるとコンテンツの先頭に戻って再生を再開します。

③背景色

コンテンツタイプが静止画で、「コンテンツの縦横比を保持する」ラジオボタンをチェックした場合に、コンテンツの背景色を指定した色で塗りつぶして表示します。
色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、背景色を変更できます。
「透明にする」チェックボックスをチェックすると、背景色が透明になります。

背景の場合、背景色を透明にすることはできません。

④再生音量

再生音量を設定できます。

⑤レイアウト

・「コンテンツの縦横比を保持する」/「コンテンツの縦横比を保持しない」/「原寸で並べて表示」ラジオボタン
「コンテンツの縦横比を保持しない」は、コンテンツタイプが静止画または Flash のとき選択できます。
「原寸で並べて表示」は、コンテンツタイプが静止画のとき選択できます。

・「一時的に表示枠の位置を変更する」チェックボックス
コンテンツの表示位置を一時的に変えたいときは、このチェックボックスをチェックし、［位置設定］をクリックしてください。コンテンツごとに表示枠の位置とサイズを指定することができます。表示位置は、背景表示枠を超えて設定できません。

⑥静止画切換

コンテンツタイプが静止画の場合、画面切換時の効果を設定できます。
それぞれのプルダウンメニューから選択します。
「時間」については、直接数値を入力することもできます。（0.1 ～ 999.9 秒）
「背景色を経由する」チェックボックスをチェックすると、画面切換時に背景色を表示する効果が加わります。

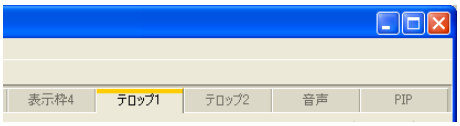
⑦実行ファイルの引数

実行ファイルの引数を表示します。

●テロップを設定する

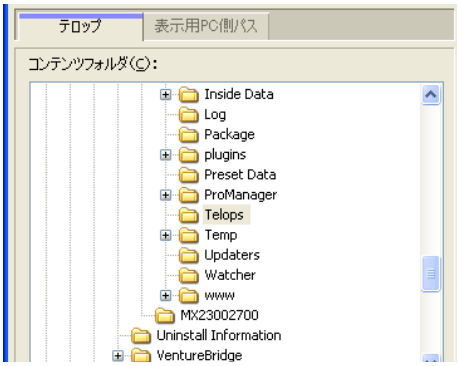
テロップの内容、再生順序や再生時間などを設定します。
あらかじめテロップで表示する文章を入力したテロップファイルが必要です。
テロップファイルの作成方法については、42 ページを参照してください。

1 **［テロップ 1］または［テロップ 2］タブをクリックします。**



2 **「コンテンツフォルダ」ツリーから使用するテロップファイルが保存されているフォルダを選択します。**

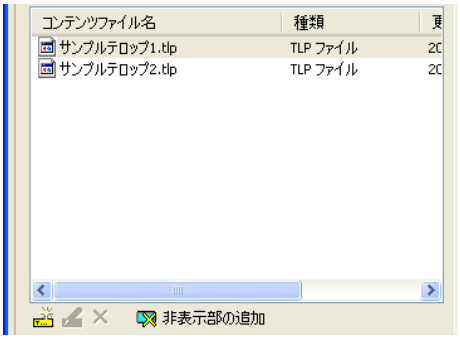
［テロップ］タブが選択されていることを確認し、選択されていない場合は、［テロップ］タブをクリックしてください。



［表示用 PC 側パス］タブの「表示用 PC 側のファイルパス」で指定したコンテンツファイルを表示することもできます。表示用 PC の絶対パスまたは、マイコンテンツフォルダ (☞106 ページ) からの相対パスで指定してください。

3 **「コンテンツファイル」リストから使用するテロップファイルを選択します。**

テロップ 1、2 で使用できるファイル形式は、テロップファイル（.tlp）とテロップ用条件付きコンテンツファイル（.dct）のみです。



・【Ctrl】キーや【Shift】キーを押しながらクリックすると、複数のテロップファイルを同時に選択することができます。
・テロップファイルのプレビューを確認することができます。ただし、全画面プレビューになります。（☞38 ページ）

「コンテンツファイル」リストの下にあるボタンをクリックすると、次のような操作ができます。

アイコン	メニュー名	内容
	テロップの新規作成	テロップエディタが起動し、テロップの新規作成ができます。
	テロップの編集	テロップエディタが起動し、「コンテンツファイル」リストで選択されているテロップの編集ができます。
	テロップの削除	「コンテンツファイル」リストで選択されているテロップの削除ができます。
	非表示部の追加	プレイリストに非表示部を追加できます。非表示部も他のコンテンツファイルと同じように再生時間や再生順序を設定できます。

テロップエディタの詳細は、42 ページを参照してください。

4 **をクリックします。**

プレイリストの最後にテロップファイルが登録されます。
プレイリストの詳細は、38 ページを参照してください。

手順 3 でテロップファイルをダブルクリック、または「コンテンツファイル」リストのテロップファイルを「プレイリスト」にドラッグしても、登録できます。

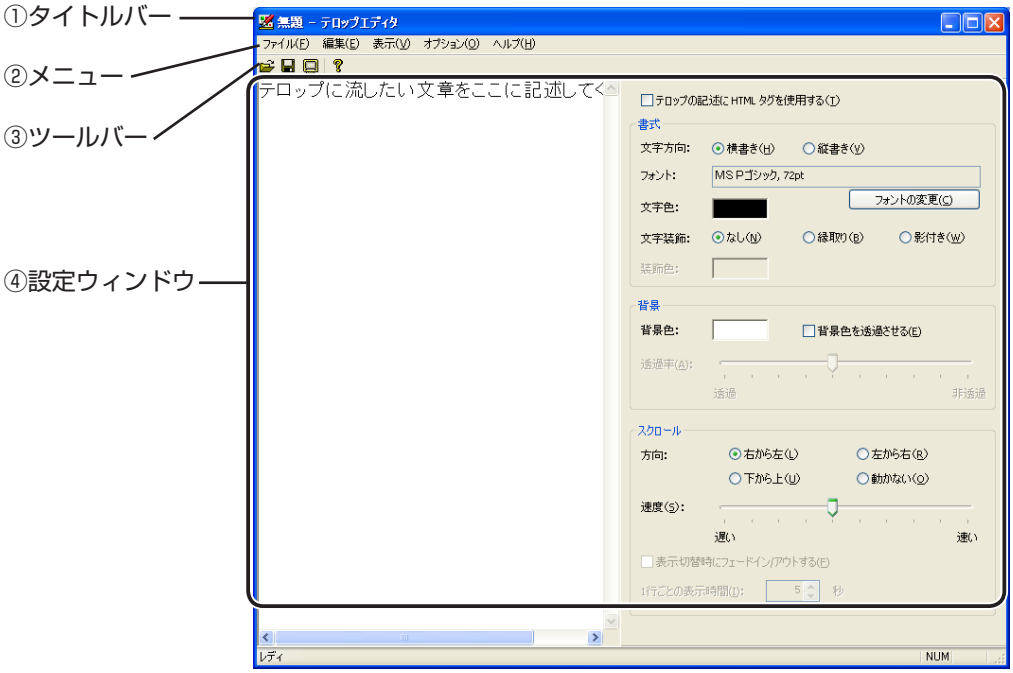
5 **必要に応じて手順 1 ～ 4 を繰り返し、その他のテロップも設定します。**

テロップファイルを作成する

テロップで流す文章を作成します。

1 **［テロップ 1］タブまたは［テロップ 2］タブをクリックし、「コンテンツファイル」リストの下にある をクリックします。**

「テロップエディタ」が起動します。



①タイトルバー

ファイル名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、ファイルを保存すると、そのファイル名に変わります。

開いたファイルの内容が変更されると、ファイル名の後ろに「*（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「編集」、「表示」、「オプション」、「ヘルプ」の 5 種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容
ファイル	テロップファイルの新規作成	新しいテロップファイルを開きます。
	テロップファイルを開く	保存されているテロップファイルを読み込みます。
	テロップファイルを保存	現在編集中のテロップファイルを保存します。
	別名で保存	現在編集中のテロップファイルに別の名前を付けて保存します。
	終了	テロップエディタを終了します。
編集	切り取り	「テロップ編集エディットボックス」で選択されている文字列を切り取ります。
	コピー	「テロップ編集エディットボックス」で選択されている文字列をコピーします。
	貼り付け	「テロップ編集エディットボックス」のカーソルの位置に、［切り取り］または［コピー］した文字列を貼り付けます。
	元に戻す	「テロップ編集エディットボックス」の直前の操作を元に戻します。
表示	テロップのプレビュー	現在編集中のテロップファイルのプレビューを表示します。 プレビューを終了するときは、【Esc】キーを押します。 プレビュー中にテロップ以外のウィンドウをクリックすると、【Esc】キーを押しても終了できません。いったんプレビューをクリックしてから【Esc】キーを押してください。
オプション	設定	テロップファイルの保存形式を設定します。（MBCS/UNICODE 形式が選択できます。）
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

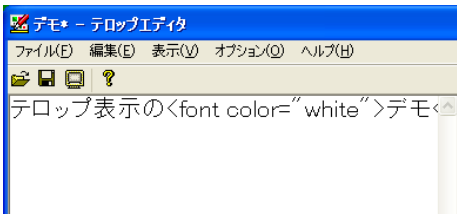
アイコン	メニュー名	内容
	テロップを開く	保存されているテロップファイルを読み込みます。
	テロップの上書き保存	現在編集中のテロップファイルを保存します。
	テロップのプレビュー	現在編集中のテロップファイルのプレビューを表示します。 プレビューを終了するときは、【Esc】キーを押します。 プレビュー中にテロップ以外のウィンドウをクリックすると、【Esc】キーを押しても終了できません。いったんプレビューをクリックしてから【Esc】キーを押してください。
	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

④設定ウィンドウ

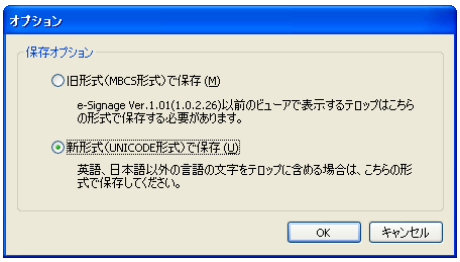
詳細は手順 2 以降を参照してください。

2 「テロップ編集エディットボックス」にテロップに流したい文章を入力します。

テロップの 1 行の文字数が多いほど、メモリを消費します。文字列長が長くなり過ぎないように、適当な箇所で改行することをお勧めします。



英語、日本語以外の言語の文字をテロップに含める場合は、［オプション］メニューから［設定］を選択して表示される［オプション］ダイアログボックスで、「新形式（UNICODE 形式）で保存」ラジオボタンを選択してください。
また、手順 3 の②でその言語に対応したフォントに変更してください。



「テロップの記述に HTML タグを使用する」チェックボックスをチェックすると、「テロップ編集エディットボックス」内で、次の HTML タグを使用して、フォントの色や大きさなどを指定できます。

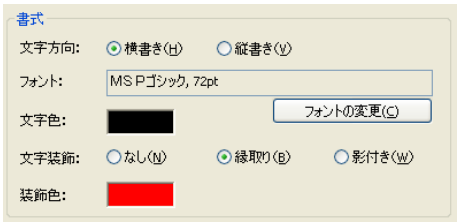
タグ	説明
<FONT>	テキストの色（COLOR）、大きさ（SIZE）、種類（FACE）を指定できます。
<B>	テキストを太字にします。
<I>	テキストを斜体（イタリック）にします。
<U>	テキストに下線（アンダーライン）を引きます。
<S>	打ち消し線を引きます。
<BIG>	テキストのサイズをひとまわり大きくします。
<SMALL>	テキストのサイズをひとまわり小さくします。

3 「書式」を設定します。

文字方向やフォント、文字装飾を設定します。

①「文字方向」の「縦書き」または「横書き」ラジオボタンを選択します。

② [フォントの変更] をクリックすると表示される [フォント] ダイアログボックスで、フォントを変更します。



・表示用 PC にも同じフォントがインストールされている必要があります。
・フォントの種類によっては、文字サイズを正確に取得できないものがあり、テロップが表示途中で途切れる場合があります。

③「文字色」を設定します。
色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、変更できます。

④「文字装飾」を「なし」、「縁取り」、「影付き」ラジオボタンから選択します。
「縁取り」または「影付き」を選択した場合は、「装飾色」の矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、装飾色を変更できます。

4 「背景」を設定します。

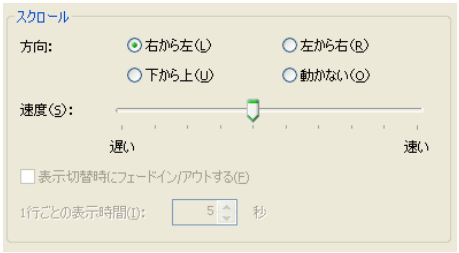
テロップの背景を設定します。

①「背景色」を設定します。
色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、変更できます。

②「背景色を透過させる」チェックボックスをチェックすると、背景色を透過させることができます。
「透過率」のスライダーを左右にドラッグして、透過率（10 段階）を設定します。

・背景色を透過させない場合は、チェックしないでください。スライダーを右端の非透過にしても、完全に非透過にはなりません。
・チェックすると、背景色に設定されている色自体が透過されますので、「文字色」や「装飾色」が「背景色」と同じ場合は、「文字色」や「装飾色」も透過されます。
・動画の上に透過 / 半透過テロップを配置した場合は、効果が得られない場合があります。

5 「スクロール」を設定します。



テロップのスクロール方向と速度を設定します。

①「方向」を「右から左」、「左から右」、「下から上」または「動かない」ラジオボタンから選択します。

・「書式」で「縦書き」ラジオボタンを選択した場合は、「右から左」、「左から右」ラジオボタンを選択することはできません。
・「動かない」を選択した場合は、テロップが指定された範囲の中央に 1 行ずつ表示されます。（はみ出した部分は表示されません。）

②「速度」のスライダーを左右にドラッグして、スクロール速度（10 段階）を設定します。

・テロップの速度は、同じ設定でもパソコンの性能によって異なる場合があります。
・縦書きのテロップを使用する場合、すべての文字を全角にしてください。
・「背景色を透過させる」チェックボックスをチェックした場合、非透過のテロップと比較してスクロール速度が遅くなる場合があります。運用前にテロップを表示してテストすることをお勧めします。

「動かない」ラジオボタンを選択した場合

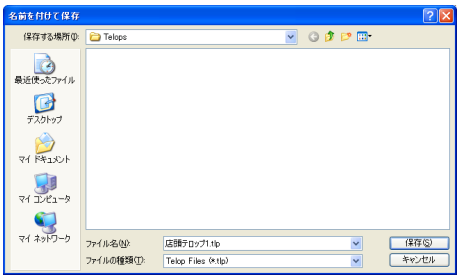
③「1 行の表示時間」を設定します。（0 ～ 9999 秒）
テロップが 1 行ずつ表示されます。その表示時間を設定します。

④ フェードイン・フェードアウトするかどうか設定します。
テロップの表示が切り替わるとき、現在表示されているテロップが除々に消え、次のテロップが除々に表示されるようにする場合は、「表示切替時にフェードイン／フェードアウト」チェックボックスをチェックしてください。

動画の上にフェードイン / フェードアウトするテロップを配置した場合は、効果が得られない場合があります。

6 ［ファイル］メニューから［テロップファイルを保存］をクリックします。
または をクリックします。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。



7 「ファイル名」に名前を入力し、［保存］をクリックします。

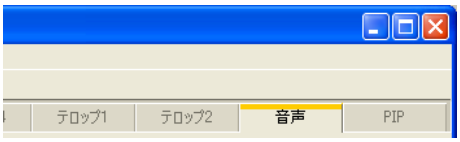
これでテロップファイルの作成は完了です。

●音声および音楽を設定する

番組表示時の音声および音楽（BGM）を設定します。

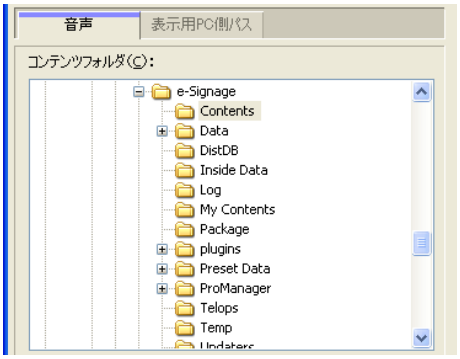
他の表示枠に音声付のコンテンツファイルを設定した場合は、両方が再生されます。

1 **［音声］タブをクリックします。**



2 **「コンテンツフォルダ」ツリーから使用するコンテンツファイルが保存されているフォルダを選択します。**

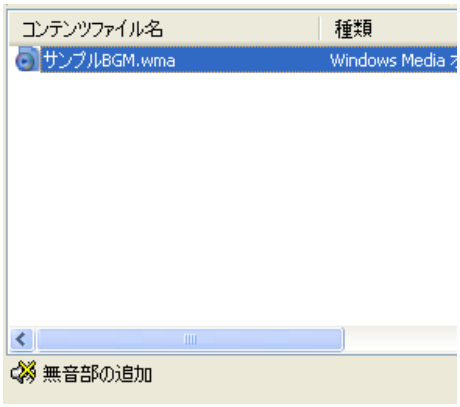
［音声］タブが選択されていることを確認し、選択されていない場合は、［音声］タブをクリックしてください。



［表示用 PC 側パス］タブの［表示用 PC 側のファイルパス］で指定したコンテンツファイルを再生することもできます。表示用 PC の絶対パスまたは、マイコンテンツフォルダ（☞106 ページ）からの相対パスで指定してください。

3 **「コンテンツファイル」リストから使用するコンテンツファイルを選択します。**

音声で使用できるファイル形式は、32 ページを参照してください。



- 【Ctrl】キーや【Shift】キーを押しながらクリックすると、複数のコンテンツファイルを同時に選択することができます。
- 音声はレイアウトで配置することはできません。音声として使用するコンテンツファイルに動画を選択した場合、［コンテンツのプレビュー］ウィンドウではプレビューが表示されますが、番組の表示時には、音声のみが使用されます。
- 「コンテンツファイル」リストの下にあるボタン（ ）「無音部の追加」をクリックすると、プレイリストに無音部を追加できます。無音部も他のコンテンツファイルと同じように再生時間や再生順序を設定できます。

4 **»» をクリックします。**

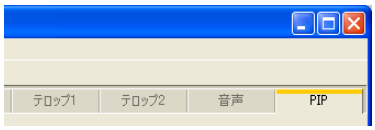
プレイリストの最後にコンテンツファイルが登録されます。
プレイリストの詳細は、38 ページを参照してください。

手順 3 でコンテンツファイルをダブルクリック、または「コンテンツファイル」リストのコンテンツファイルを「プレイリスト」にドラッグしても、登録できます。

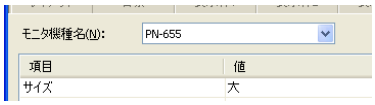
● PIP を設定する

PIP（Picture In Picture）機能を使用するときに配置した PIP 枠のサイズ、画面比率、入力ソース、音声ソース等を設定します。インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）のみ使用できます。

1 **［PIP］タブをクリックします。**



2 **「モニタ機種名」を選択します。**



3 **各項目の値を設定します。**

「値」のセルをクリックすると、プルダウンメニューが表示されます。

※ 表示される項目、値は選択されている「モニタ機種名」により異なります。

※ PIP の位置、サイズは、映像信号により多少ずれることがあります。

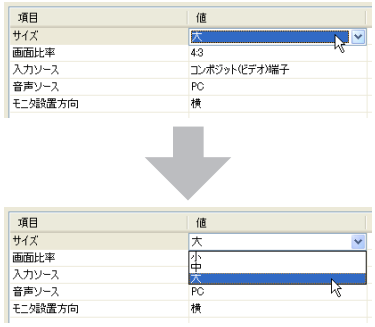
①「サイズ」を選択します。
画面比率によってサイズが異なります。

②「画面比率」を選択します。
※ 表示する映像に合わせて選択してください。

③「入力ソース」を選択します。

④「音声ソース」を選択します。

⑤「モニタ設置方向」を選択します。
※インフォメーションディスプレイ本体の設定を変更することはできません。ディスプレイの設定に合わせて値を選択してください。



●番組を保存する

作成した番組は、2 通りの方法で保存できます。

番組を上書き保存する

現在編集中の番組の名前を変えずに上書き保存します。

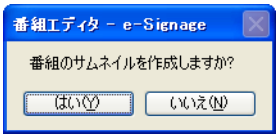
1 **［ファイル］メニューから［番組の上書き保存］をクリックします。**
または をクリックします。

サムネイル作成の確認メッセージが表示されます。

「番組エディタ」の起動直後は、タイトルバーに「無題」と表示されます。この場合上書き保存をすると、[番組を保存する] ダイアログボックスが表示されます。以降の手順は次の「番組を別名で保存する」の手順 2 を参照してください。

2 **サムネイルを作成する場合は［はい］、作成しない場合は［いいえ］をクリックします。**

［はい］をクリックすると、サムネイル作成のため、小さな番組プレビューが表示されます。このプレビュー画面が消えるまで操作しないでください。
番組サムネイルの詳細は、48 ページを参照してください。



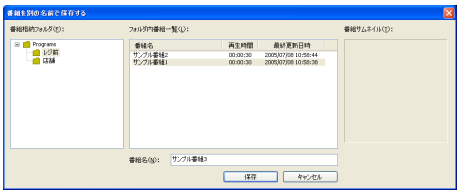
既にサムネイルを作成している場合は、［いいえ］をクリックしても番組サムネイルは削除されません。前のサムネイルが表示されます。

番組に名前を付けて保存する

現在編集中の番組に別の名前を付けて保存します。

1 **［ファイル］メニューから［番組に名前をつけて保存］をクリックします。**
［番組を別の名前で保存する］ダイアログボックスが表示されます。

2 **番組を保存する番組格納フォルダを選びます。**
番組格納フォルダの詳細は、下記を参照してください。



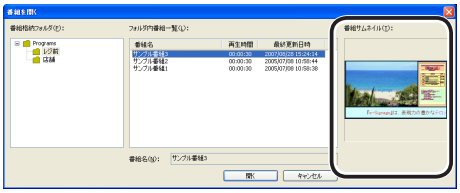
3 **「番組名」に名前を入力し、［保存］をクリックします。**
サムネイル作成の確認メッセージが表示されます。

4 **サムネイルを作成する場合は［はい］、作成しない場合は［いいえ］をクリックします。**
［はい］をクリックすると、サムネイル作成のため、小さな番組プレビューが表示されます。このプレビュー画面が消えるまで操作しないでください。
番組サムネイルの詳細は、下記を参照してください。

既にサムネイルを作成している場合は、［いいえ］をクリックしても番組サムネイルは削除されません。前のサムネイルが表示されます。

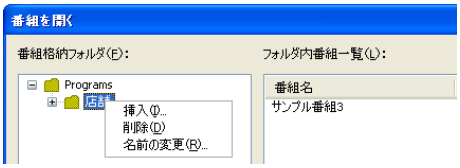
番組サムネイルについて

番組サムネイルを作成すると、番組を開く、保存、削除、インポート、エクスポートの各ダイアログボックス、およびタイムテーブルエディタの［番組］タブで、番組サムネイルが表示されます。

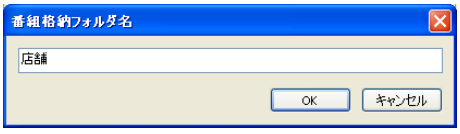


・動画部分が表示されない場合があります。
・PIP 機能を使用している場合、PIP 部分は表示されません。

番組格納フォルダについて



・番組の内容により、番組格納フォルダを区別して保存することができます。
・選択した番組格納フォルダ内の番組が「フォルダ内番組一覧」に表示されます。
・番組格納フォルダを右クリックすると表示されるメニューでは、次の操作ができます。



・挿入　：選択したフォルダの下に新しい番組格納フォルダを追加します。［番組格納フォルダ名］ダイアログボックスに名前を入力し、［OK］をクリックします。
・削除　：選択したフォルダを削除します。フォルダ内に番組がある場合は、削除できません。
・名前の変更：選択したフォルダの名前を変更します。［番組格納フォルダ名］ダイアログボックスに名前を入力し、［OK］をクリックします。

・第 1 階層の「Programs」フォルダは、削除や名前の変更はできません。
・フォルダ内に番組があるときは、削除できません。

・フォルダをドラッグ & ドロップして、フォルダの場所を変更できます。
・「フォルダ内番組一覧」の番組を別のフォルダにドラッグ & ドロップして、番組を移動できます。

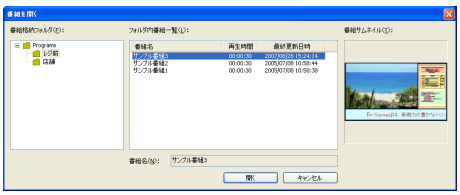
●番組を開く

保存されている番組の中から番組を指定して読み込み、利用することができます。
変更箇所のみを編集し、別の名前で保存すると、効率よく番組を作成できます。

1 **［ファイル］メニューから［番組を開く］をクリックします。**
または をクリックします。
［番組を開く］ダイアログボックスが表示されます。

2 **番組が保存されている番組格納フォルダを選びます。**

3 **「番組一覧」から番組を選択し、［開く］をクリックします。**
選択した番組が番組エディタに読み込まれ、編集できるようになります。



開いた番組を編集した後、上書き保存をしてしまうと、編集した内容が元のファイルに反映されますので、注意してください。

●作成した番組を確認する

作成した番組をプレビュー表示して、確認することができます。
２つのプレビューで共通の内容になります。

1 **オリジナルサイズでプレビュー表示するときは、［表示］メニューから［番組のプレビュー［オリジナルサイズ］］をクリックします。**
または をクリックします。
現在編集中の番組のプレビューがオリジナルサイズで表示されます。

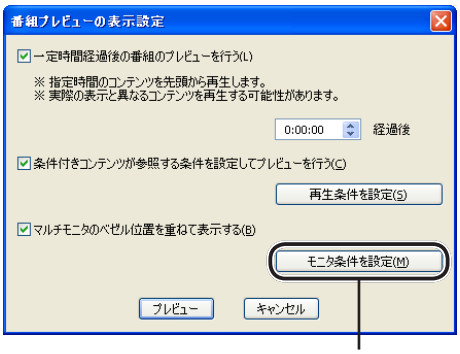
・【F5】キーを押してもプレビューを表示できます。
・［表示］メニューの［番組のプレビュー時に条件表示の設定を行う］にチェックすると、指定した日・時刻の番組、指定したパネルで表示する番組など、番組の条件を指定してプレビューを表示することができます。

画面にフィットさせてプレビュー表示するときは、［表示］メニューから［番組のプレビュー［画面にフィット］］をクリックします。
または をクリックします。
現在編集中の番組のプレビューが画面の大きさにフィットさせて表示されます。

2 **プレビューを確認します。**
コンテンツタイプが PowerPoint およびテロップの場合は、表示優先順位に関係なく、最前面に表示されます。
PowerPoint のデータは、自動的に画面切り替え（自動スライドショー）するように設定し、繰り返し再生するように設定してください。
番組表示中は、マウスやキーボードで操作（ウィンドウをクリックするなど）を行わないでください。
ウィンドウの表示順序が変わったり、コンテンツ再生内容が変わる可能性があります。

・プレビューを終了するときは、プレビュー画面をクリックして【Esc】キーを押します。
・作成した番組の画面サイズがパソコンのモニタの表示解像度より大きい場合は、プレビューを全画面表示することができません。

番組プレビューの表示設定について



［モニタ条件を設定］をクリックして、条件を設定します。

［表示］メニューの「番組プレビュー時に表示条件の設定を行う」にチェックすると、番組のプレビューをする時に、「番組プレビューの表示設定」画面が表示され、条件の設定を行った後、「プレビューボタン」をクリックすると、設定した条件でプレビューを行います。

・一定時間経過後の番組のプレビューを行う：
指定時間経過後の番組をプレビュー表示します。本機能を利用して番組プレビューを行った際、最初に表示されるコンテンツは必ずコンテンツの先頭から再生されるため、次のコンテンツへの切換タイミングは番組を先頭から再生する場合とは異なる可能性があります。

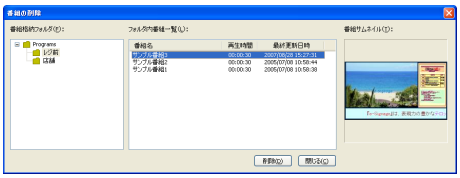
・条件付きコンテンツが参照する条件を設定してプレビューを行う：
［再生条件を設定］をクリックして条件を設定します。
条件付きコンテンツ再生時には［再生条件設定］で設定された条件に合うコンテンツが表示されます。
・「再生日」　：再生する番組の日を設定します。
・「再生時刻」：再生する番組の時刻を設定します。
・「パネル名」：再生する番組のパネルを設定します。
・「グループ」：再生するグループ名を設定します。
・「コメント」：番組を再生するパネルのコメントを設定します。

・マルチモニタのベゼル位置を重ねて表示する：
番組をマルチモニタで表示するときの、パネル間のベゼルの位置をプレビューで表示します。
※ベゼルの位置は、目安としてお考えください。
・「モニタ機種名」　：モニタの機種名を選択します。
・「マルチモニタ構成」：マルチモニタの構成を選択します。

●番組を削除する

不要になった番組を削除することができます。

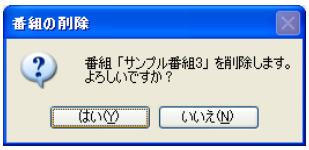
1 **［ファイル］メニューから［番組の削除］をクリックします。**
［番組の削除］ダイアログボックスが表示されます。



2 **番組が保存されている番組格納フォルダを選びます。**

3 **「番組一覧」から番組を選択し、［削除］をクリックします。**

4 **［はい］をクリックします。**
選択した番組が削除されます。



5 **［閉じる］をクリックします。**

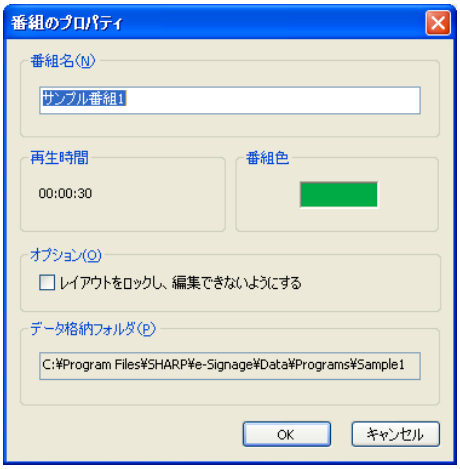
●番組のプロパティを表示する

番組名や番組色を変更することができます。

1 **［ファイル］メニューから［番組のプロパティ］をクリックします。**
または をクリックします。
［番組のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

「番組名」「再生時間」「番組色」、「オプション」、「データ格納フォルダ」が確認できます。

- 「番組名」を変更できます。
- 色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、番組色を変更できます。
- 「レイアウトをロックし、編集できないようにする」チェックボックスをチェックすると、レイアウトが編集できなくなります。番組エディタ操作中の操作ミスによるレイアウトの変更を防ぐときにチェックしてください。



「番組色」はタイムテーブルエディタで番組を表示する際の色です。

2 **［OK］をクリックします。**

再生時間は、番組に含まれるプレイリストが一通り再生される時間の目安です。コンテンツの再生設定で「コンテンツの再生を終了した時に次のコンテンツを再生する」が指定されている場合や条件付きコンテンツが含まれている場合には、表示されている再生時間と異なる場合があります。

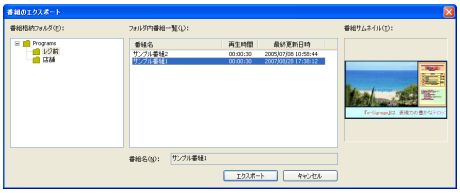
●番組をインポート / エクスポートする

番組をエクスポートする

作成した番組を他のパソコンの e-Signage で利用するときは、エクスポート機能で番組を書き出します。

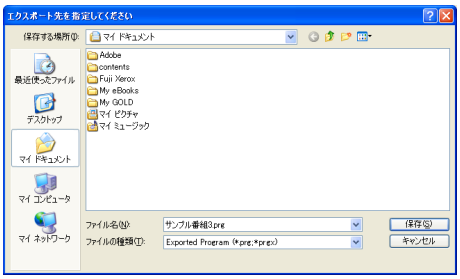
1 **［ファイル］メニューから［番組のエクスポート］をクリックします。**
［番組のエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。

2 **番組が保存されている番組格納フォルダを選びます。**

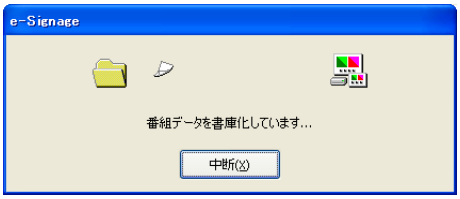


3 **「番組一覧」から番組を選択し、［エクスポート］をクリックします。**
［エクスポート先を指定してください］ダイアログボックスが表示されます。

4 **保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。**
［番組のエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。



エクスポート中は右のような画面が表示されます。エクスポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。



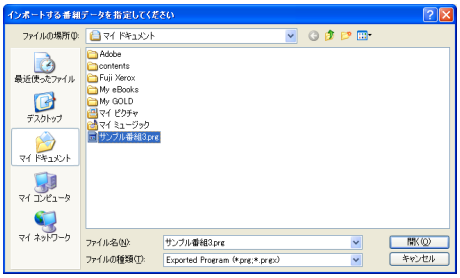
5 **［OK］をクリックします。**
これで番組のエクスポートは完了です。

番組をインポートする

他のパソコンの e-Signage で作成した番組を利用するときは、エクスポートされた番組をインポート機能で読み込みます。

1 **［ファイル］メニューから［番組のインポート］をクリックします。**
［インポートする番組データを指定してください］ダイアログボックスが表示されます。

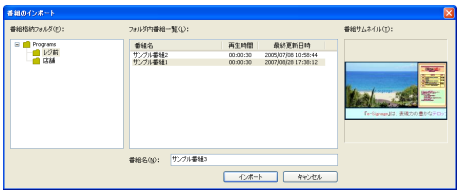
2 **インポートするファイル（.prg）または（.prgx）を選択し、［開く］をクリックします。**
［番組のインポート］ダイアログボックスが表示されます。



インポートの準備中は右のような画面が表示されます。インポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。

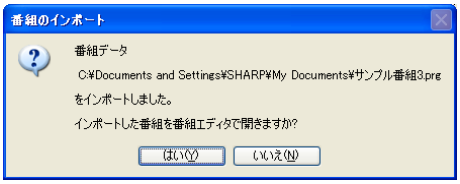
3 **番組を保存する番組格納フォルダを選びます。**

4 **「番組名」に名前を入力し、［インポート］をクリックします。**



5 **コンテンツのインポート先フォルダを選択し、[OK] をクリックします。**

6 **［はい］をクリックします。**
入力したファイル名で番組が保存されます。
これで番組のインポートは完了です。



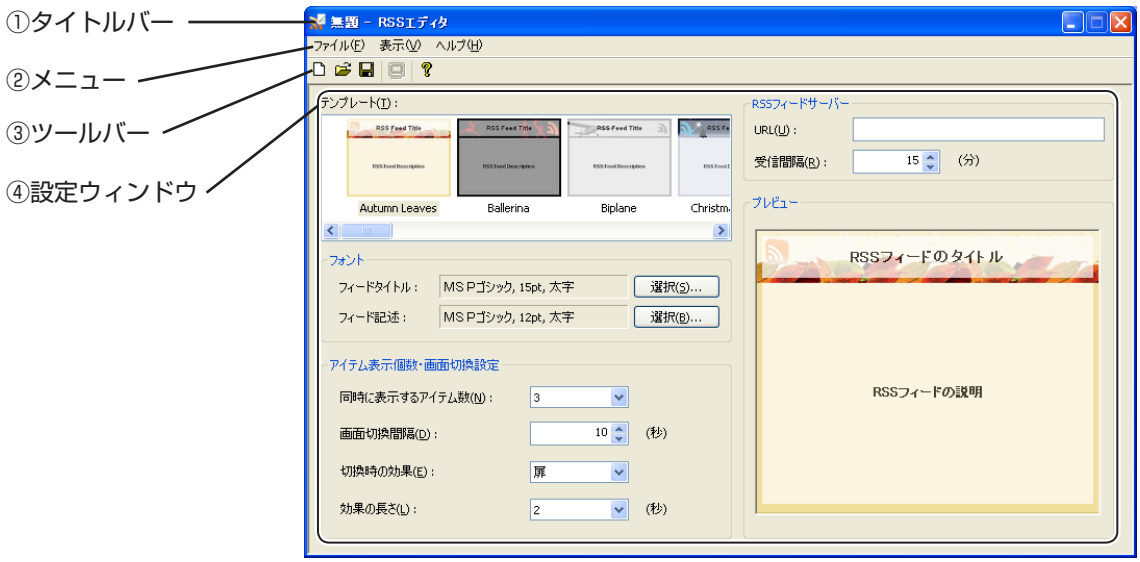
RSS エディタ

e-Signage では、RSS フィードをイントラネットやインターネット上のサーバーから受信し、表示用 PC で表示することができます。
作成された RSS 設定ファイル（.erc ファイル）は、番組エディタでコンテンツとして利用できます。

● RSS 設定ファイルを作成する

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［RSS エディタ］の順にクリックします。**
「RSS エディタ」が起動します。

● RSS エディタの基本画面



①タイトルバー

ファイル名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、ファイルを保存すると、そのファイル名に変わります。開いたファイルの内容が変更されると、ファイル名の後ろに「＊（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「表示」、「ヘルプ」のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容
ファイル	新規作成	新しいファイルを開きます。
	開く	保存されている RSS 設定ファイルを読み込みます。
	上書き保存	現在編集中の RSS 設定ファイルを保存します。
	名前を付けて保存	現在編集中の RSS 設定ファイルに別の名前を付けて保存します。
	終了	RSS エディタを終了します。

メニュー名		内容
表示	基本	テンプレートを利用して RSS 設定ファイルを編集します。
	拡張	デザインをユーザー独自に指定して RSS 設定ファイルを編集します。 CSS(スタイルシート) を利用することもできます。
	プレビュー	現在編集中の RSS 設定ファイルのプレビューを表示します。 プレビューウィンドウのサイズで表示されます。
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容
	新規作成	RSS 設定ファイルを新規作成します。
	開く	保存されている RSS 設定ファイルを読み込みます。
	上書き保存	現在編集中の RSS 設定ファイルを保存します。
	プレビュー	現在編集中の RSS 設定ファイルのプレビューを表示します。プレビューを終了するときは、【Esc】キーを押します。
	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

④設定ウィンドウ

詳細は手順 2 以降を参照してください。

2 「テンプレート」を選択します。

RSS フィードの画面表示のデザインを、用意されているテンプレートから選択します。

3 「RSS フィードサーバー」を設定します。

①「URL」

RSS フィードを取得するサーバーの URL を入力します。

②「受信間隔」

RSS フィードを何分ごとに取得するかを指定します。（最大 60 分）

4 フォントを指定します。

①フィードタイトル

RSS フィードのタイトル部分に表示されるフォントを設定します。[選択] をクリックしてフォントを指定します。

②フィード記述

RSS フィードの本文部分に表示されるフォントを選択します。[選択] をクリックしてフォントを指定します。

5 **アイテム表示個数・画面切換設定を指定します。**

①「同時に表示するアイテム数」
画面上に表示されるアイテム個数をリストボックスより選択します。（最大 7 個）

②「画面切換間隔」
画面上に表示されるアイテムを何秒間隔で切り換えるかを指定します。

③「切換時の効果」
アイテムを更新するときのスライドショーエフェクトを指定します。

④「効果の長さ」
スライドショーエフェクトの秒数を指定します。

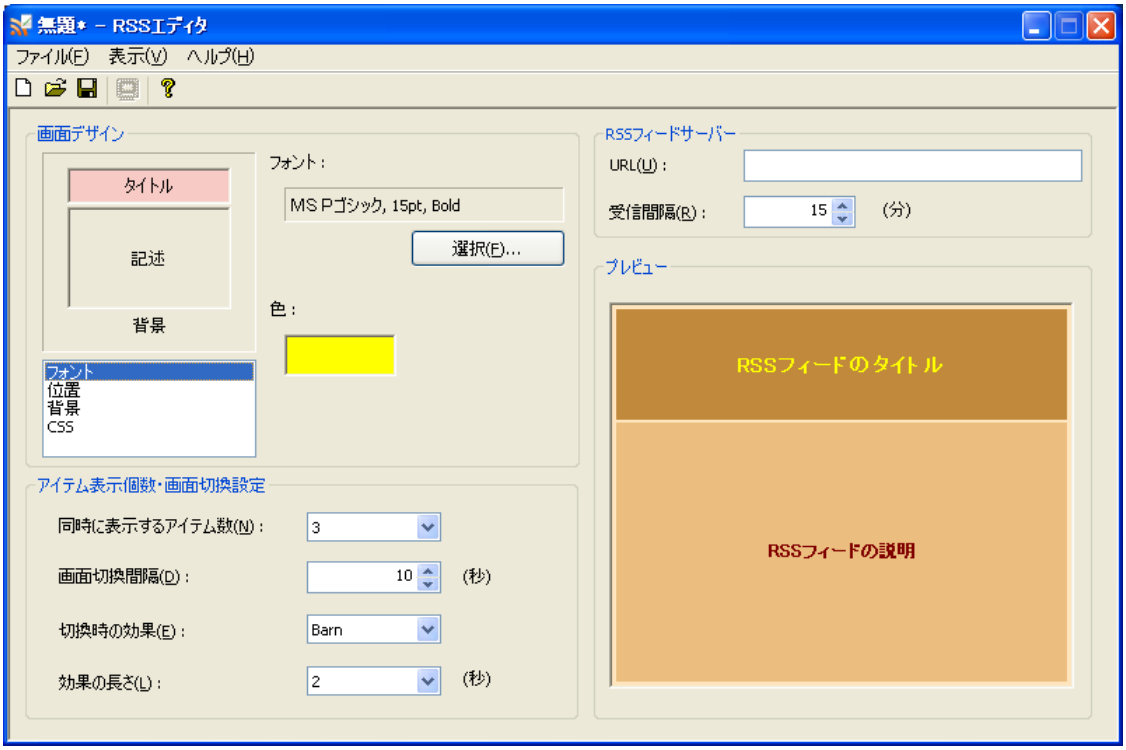
6 **［ファイル］メニューから［上書き保存］をクリックします。または** **をクリックします。**

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されますので [保存] をクリックします。
RSS 設定ファイルは、以下のフォルダに保存されます。
・C:\ProgramData\SHARP\e-Signage\RSSConfig (Windows Vista/7/8)
・C:\Program Files\SHARP\e-Signage\RSSConfig (Windows XP)

これで RSS 設定ファイルの作成は完了です。

・RSS フィードの表示には、表示用 PC の Internet Explorer が利用されます。
・表示用 PC にインストールされる Internet Explorer のバージョンによって表示内容が異なることがあります。

[表示] メニューから [拡張] をクリックすると、画面デザインをより詳細に指定することができます。

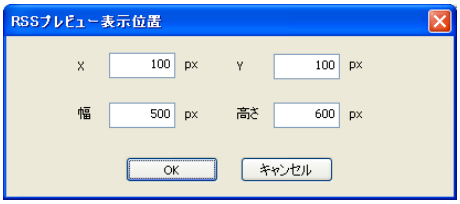


①「タイトル」「記述」「背景」
　クリックすると、それぞれの要素（フォント、位置、背景、CSS）を設定することができます。
②要素
「フォント」
　[選択] をクリックし、フォントの種類、スタイル、サイズを指定します。
　パレットをクリックして表示される [色の設定] ダイアログでフォント色を指定します。
「位置」
　RSS フィードの横位置と縦位置をリストボックスから選択します。
「背景」
　背景画像または背景色をラジオボタンより選択します。
「CSS」
　カスケード・スタイルシート（CSS）で指定したスタイルを記述します。

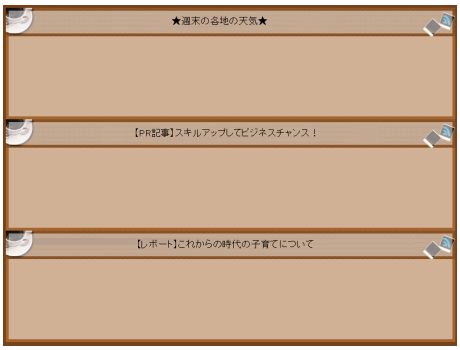
「画面デザイン」以外の項目は、基本モードの操作と同様です。

●プレビューを表示する

1. **[表示] メニューの [プレビュー] をクリック、または** **をクリックします。**
2. **プレビューウィンドウの表示位置、表示サイズを入力します。**



3. **プレビューウィンドウでプレビューを確認します。**
4. **【ESC】キーを押してプレビューウィンドウを閉じます。**



条件付きコンテンツ

番組エディタでプレイリストを作るときに、コンテンツの大部分が同じで、一部分のみ違うプレイリストを複数作る場合があります。このようなときは、条件付きコンテンツを使用すれば、指定した条件に従って、異なる部分のみを変更するプレイリストを表示できます。

e-Signage 条件付きコンテンツエディタの基本画面について

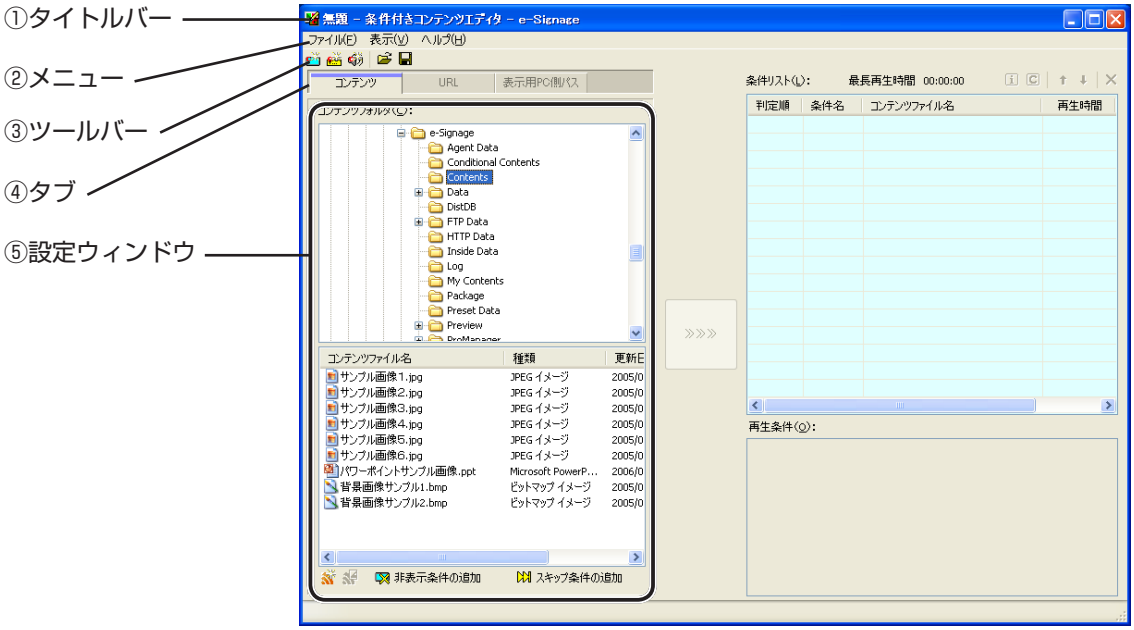
● e-Signage 条件付きコンテンツエディタを起動する

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［条件付きコンテンツエディタ］の順にクリックします。**

「条件付きコンテンツエディタ」が起動します。

※ 番組エディタのプレイリストから、「条件付きコンテンツに置き換える」を選択して、プレイリストに登録かつ編集することも可能です。

● e-Signage 条件付きコンテンツエディタの基本画面



①タイトルバー

ファイル名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、ファイルを保存すると、そのファイル名に変わります。

開いたファイルの内容が変更されると、ファイル名の後ろに「＊（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「表示」、「ヘルプ」の 3 種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容
ファイル	条件付きコンテンツの新規作成	新しいファイルを開きます。
	条件付きコンテンツを開く	保存されている条件付きコンテンツを読み込みます。
	条件付きコンテンツの上書き保存	現在編集中の条件付きコンテンツを保存します。
	条件付きコンテンツに名前を付けて保存	現在編集中の条件付きコンテンツに別の名前を付けて保存します。
	条件付きコンテンツ作成・編集の終了	条件付きコンテンツエディタを終了します。
表示	コンテンツのプレビュー	現在編集中の条件付きコンテンツのプレビューを表示します。 プレビューウィンドウのサイズで表示されます。
	最新の情報に更新	e-Signage を起動後、条件付きコンテンツフォルダ内のコンテンツファイルを追加・削除した場合に、コンテンツフォルダ内の内容を更新できます。
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容
	背景・表示枠用条件付きコンテンツの新規作成	背景・表示枠用の条件付きコンテンツを新規作成します。
	テロップ用条件付きコンテンツの新規作成	テロップ用の条件付きコンテンツを新規作成します。
	音声用条件付きコンテンツの新規作成	音声用の条件付きコンテンツを新規作成します。
	条件付きコンテンツを開く	保存されている条件付きコンテンツを読み込みます。
	条件付きコンテンツの保存	条件付きコンテンツを保存します。

④タブ

「コンテンツ」、「ＵＲＬ」、「表示用 PC 側パス」の 3 種類のタブがあります。クリックすると、各項目の設定ウィンドウに切り替わります。

⑤設定ウィンドウ

選択したタブの詳細を設定します。

条件付きコンテンツを作成する

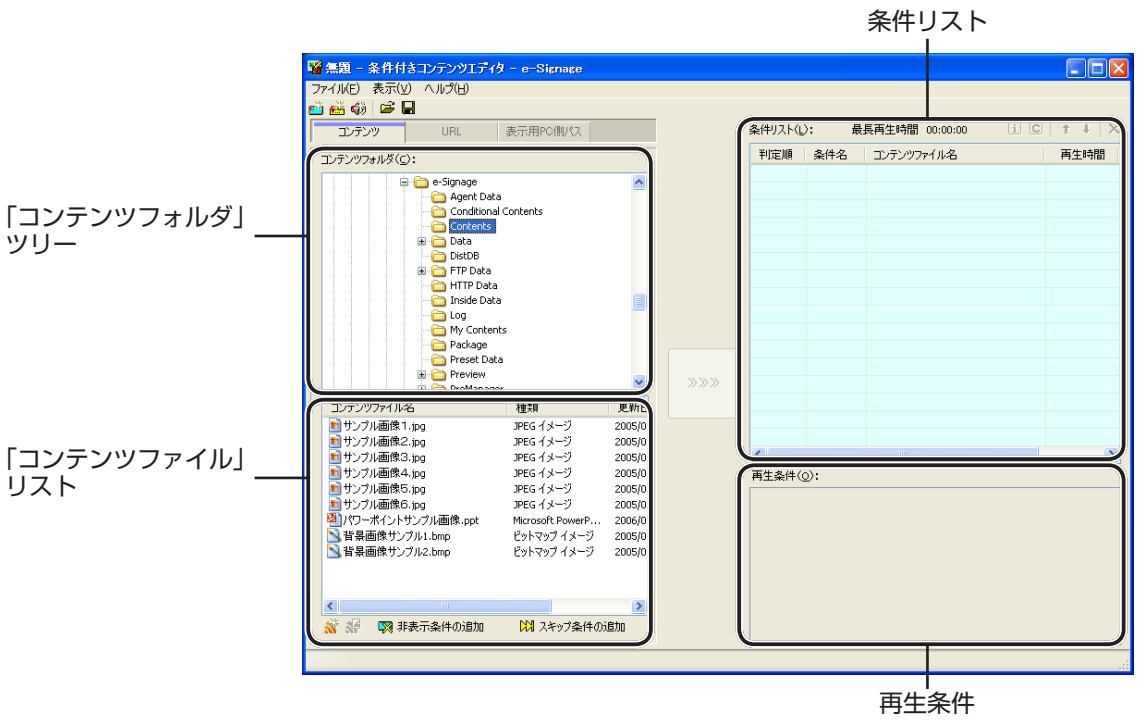
●使用できるコンテンツファイル

コンテンツとして使用できるファイル形式は次の通りです。

条件付きコンテンツの種類	使用できるファイルの拡張子
背景、表示枠	.jpg, .jpeg, .gif, .png, .bmp, .avi, .mpeg, .mpg, .wmv, .asf, .mov, .swf, .ppt, .pps, .htm, .html, .exe
テロップ	.tlp
音声	.wav, .mp3, .au, .aif, .aiff, .wma, .mid, .midi, .mov
RSS 設定ファイル	.erc

●条件付きコンテンツを設定する

条件付きコンテンツの条件名、再生開始日時や表示用 PC のパネル属性などを設定します。



1 「コンテンツフォルダ」ツリーから使用するコンテンツファイルが保存されているフォルダを選択します。

「URL」または［表示用 PC 側パス］を指定して表示することもできます。

［URL］タブ

指定した「URL」の HTML をコンテンツとして表示します。
表示用 PC から参照できる「URL」を入力してください。
ご使用のパソコンがインターネットに接続できる環境であれば、［URL の確認］をクリックすると、入力した URL に接続されます。
正しく接続されるか、また正しく表示されるかを確認してください。

［表示用 PC 側パス］タブ

「表示用 PC 側のファイルパス」で指定したコンテンツファイルを表示します。EXE ファイルを指定することができます。表示用 PC から参照できるパスを入力してください。EXE ファイルの場合、「実行ファイルの引数」を付加することもできます。

・頻繁に更新されないファイルサイズの大きなコンテンツファイルを表示する場合には、そのファイルをあらかじめ表示用 PC に配置し、それぞれを参照するパスのみを送信することで番組コンテンツ送信にかかる時間を短縮できます。
・表示用 PC の絶対パスまたは、マイコンテンツフォルダ (☞106 ページ) からの相対パスで指定してください。
・次の引数が利用できます。
　%L　：表示枠の左上 X
　%T　：表示枠の左上 Y
　%W：表示枠の幅
　%H　：表示枠の高さ
・e-Signage では、指定された実行形式ファイルを指定時間に起動 / 終了するのみで、起動された実行形式ファイルの動作を保証するものではありません。
・実行するプログラムの仕様によっては、正常に起動 / 終了できなかったり、正しい位置にウィンドウを表示できない場合があります。

2 「コンテンツファイル」リストから使用するコンテンツファイルを選択します。

背景および表示枠で使用できるファイル形式は、60 ページを参照してください。

・［コンテンツのプレビュー］ウィンドウで、コンテンツファイルのプレビューを確認することができます。(☞62 ページ)
・HTML コンテンツを使用する場合、HTML 内部で使用している画像や動画などを、必ず対象の HTML ファイルと同じ位置か、下位のフォルダ位置に置いてください（添付ファイル）。
コンテンツファイルのプロパティから追加できます。(☞63 ページ)
添付ファイルは、すべて相対パスで記述するように HTML ファイルを作成する必要があります。

3 **»»をクリックします。**

条件リストの最後にコンテンツファイルが登録されます。

条件リストに対して再生条件を設定する詳細な方法は、64 ページを参照してください。

・手順 3 でコンテンツファイルをダブルクリック、または「コンテンツファイル」リストのコンテンツファイルを「条件リスト」にドラッグしても、登録できます。

・画面左下の をクリックすると、コンテンツを非表示にする条件を設定することができます。

・画面左下の をクリックすると、コンテンツの音声を流さない条件を設定することができます。

・画面左下の をクリックすると、条件付きコンテンツをスキップして次のプレイリストを再生する条件を設定することができます。

・再生条件を設定すると条件リストの下の枠に、選択した条件リストの再生条件が表示されます。

・条件リストのコンテンツファイルは、【Ctrl】キーを押しながらドラッグ＆ドロップするとコピーすることができます。

・「コンテンツファイル」リストの下にあるボタン（ ）または（ ）をクリックすることで、RSS 設定ファイルの新規作成または編集を行うことができます。（☞54 ページ）

コンテンツのプレビュー

［コンテンツのプレビュー］ウィンドウでコンテンツファイルのプレビューを確認することができます。

［表示］メニューから［コンテンツのプレビュー］をクリックして表示できます。

次のファイルは、プレビューがすぐに表示されません。［コンテンツのプレビュー］ウィンドウに表示されたアイコン（テロップの場合は文字列）をクリックすると、プレビューが表示されます。

・2MB 以上のファイル
・動画ファイル
・PowerPoint（全画面プレビューになります。）
・テロップ（全画面プレビューになります。）

条件付きコンテンツについて

リストの再生時に上から順に、条件チェックを行い、条件にマッチした最初のコンテンツのみが表示されます。どの条件にもマッチしなかった場合は、スキップされます。

再生時間は、コンテンツを再生する時間です。

最長再生時間には、条件リストに登録されているコンテンツの中で最も再生時間が長いコンテンツの再生時間が表示されます。

条件リストの右上にあるボタンをクリックすると、次のような操作ができます。

アイコン	メニュー名	内容
	登録コンテンツの プロパティ表示	選択されているコンテンツファイルのプロパティを表示します。 詳細は、下記を参照してください。
	登録コンテンツの再生条件を設定	選択されているコンテンツの再生条件を設定します。 詳細は、64 ページを参照してください。
	登録コンテンツを上へ移動	選択されているコンテンツファイルの順番を1つ前(上)に移動します。 (複数のコンテンツファイルを移動することはできません。)
	登録コンテンツを下へ移動	選択されているコンテンツファイルの順番を1つ後(下)に移動します。 (複数のコンテンツファイルを移動することはできません。)
	登録コンテンツの削除	選択されているコンテンツファイルを条件リストから削除します。 【Delete】キーを押しても削除できます。

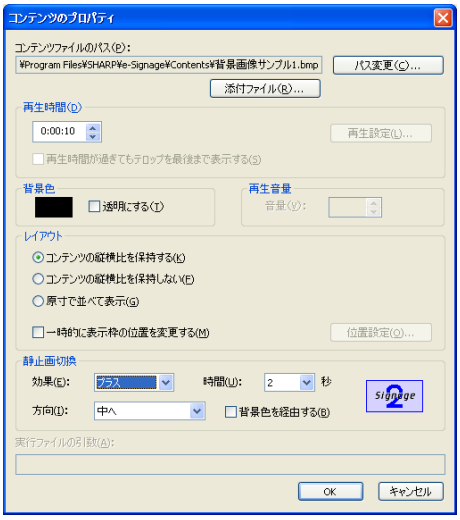
コンテンツのプロパティ

条件リストのコンテンツファイルを選択し、 をクリックすると、[コンテンツのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
次の内容の確認や設定ができます。

①コンテンツファイルのパス

コンテンツファイルのパスが表示されます。

- [添付ファイル]をクリックして表示された[添付ファイル]ダイアログボックスでファイルを追加できます。
- [パス変更]をクリックして表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスでファイルを変更できます。



HTML コンテンツを使用する場合、HTML 内部で使用している画像や動画などを、必ず対象の HTML ファイルと同じ位置か、下位のフォルダ位置に置いてください。HTML ファイル内の添付ファイルの参照パスは、すべて相対パスで記述してください。

②再生時間

再生時間を設定できます。

- コンテンツタイプが動画、音声、テロップのとき、設定した再生時間よりも前にコンテンツ再生が終了した場合の動作を設定することができます。設定するときは、[再生設定]をクリックしてください。
- 「再生時間が過ぎてもテロップを最後まで表示する」チェックボックスのチェックをはずした場合、テロップの再生時間が過ぎると再生が途中でも強制的に終了します(コンテンツタイプがテロップのとき有効)。

③背景色
コンテンツタイプが静止画で、「コンテンツの縦横比を保持する」ラジオボタンをチェックした場合に、コンテンツの背景色を指定した色で塗りつぶして表示します。
色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、背景色を変更できます。
「透明にする」チェックボックスをチェックすると、背景色が透明になります。

背景表示枠で再生される場合、背景色を透明にすると黒で表示されます。

④再生音量
再生音量を設定できます。

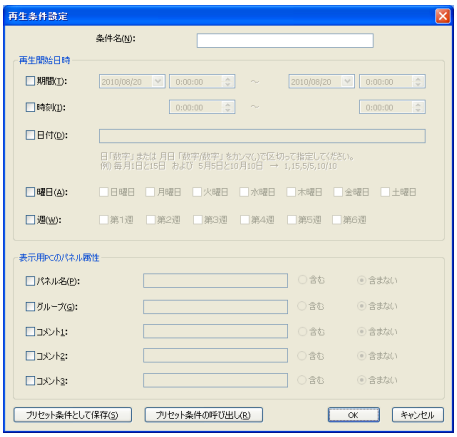
⑤レイアウト
・「コンテンツの縦横比を保持する」/「コンテンツの縦横比を保持しない」/「原寸で並べて表示」ラジオボタン
「コンテンツの縦横比を保持しない」は、コンテンツタイプが静止画または Flash のとき選択できます。
「原寸で並べて表示」は、コンテンツタイプが静止画のとき選択できます。
・「一時的に表示枠の位置を変更する」チェックボックス
コンテンツの表示位置を一時的に変えたいときは、このチェックボックスをチェックし、［位置設定］をクリックしてください。コンテンツごとに表示枠の位置とサイズを指定することができます。

⑥静止画切換
コンテンツタイプが静止画の場合、画面切換時の効果を設定できます。
それぞれのプルダウンメニューから選択します。
「時間」については、直接数値を入力することもできます。（0.1 ～ 999.9 秒）
「背景色を経由する」チェックボックスをチェックすると、画面切換時に背景色を表示する効果が加わります。

⑦実行ファイルの引数
実行ファイルの引数を表示します。

再生条件設定

条件リストのコンテンツファイルを選択し、 をクリックすると、［コンテンツのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。
リスト内のファイルを選択して右クリックし、「再生条件設定」を選択しても表示することができます。
次の内容の確認や設定ができます。
複数の条件を設定した場合、すべての条件に一致した時に再生を行います。

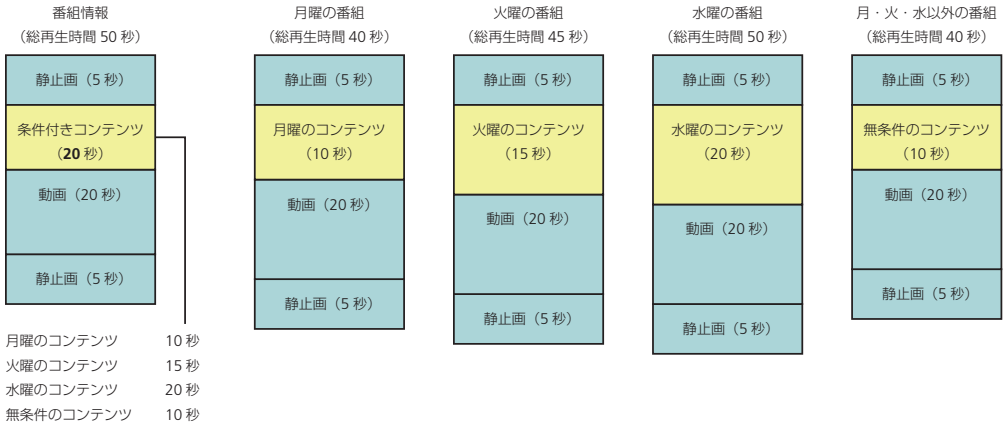


①条件名
再生条件名を設定できます。
②期間
開始日と終了日を設定できます。
③時刻
開始時間と終了時間を設定できます。
④日付
再生する日を設定できます。
⑤曜日
再生する曜日を設定できます。
日曜日と月曜日のように複数の曜日を選択できます。

⑥週
毎月の何週目に再生するかを設定できます。第 1 週と第 3 週のように、複数の週を設定できます。
⑦パネル名
入力した文字を含むパネルで再生する、または含まれないパネルで再生するを設定できます。
⑧グループ
入力した文字を含むグループで再生する、または含まれないグループで再生する、を設定できます。
⑨コメント
入力した文字を含むコメントが設定されたパネルで再生する、または含まれないパネルで再生するを設定できます。

- 再生条件設定のうち、パネル名、グループ、コメントの条件は、条件付きコンテンツの再生時に表示用 PC 側のクライアントスケジューラで設定されているパネル属性情報が参照されます。
- あらかじめ表示用 PC にパネル属性情報を設定しておくことで、複数の表示用 PC に同一の条件付きコンテンツを配信して表示用 PC 毎にコンテンツを表示させることができます。
- 表示用 PC にパネル属性情報を設定する方法は、107 ページを参照ください。

条件付きコンテンツと総再生時間の関係



この中での最長時間が条件付きコンテンツエディタで終了した時点で、番組エディタに反映されます。

タイムテーブル作成・編集

番組エディタで作成した番組を 1 日のどの時間に表示するかを設定する方法について説明します。

タイムテーブルエディタの基本画面について

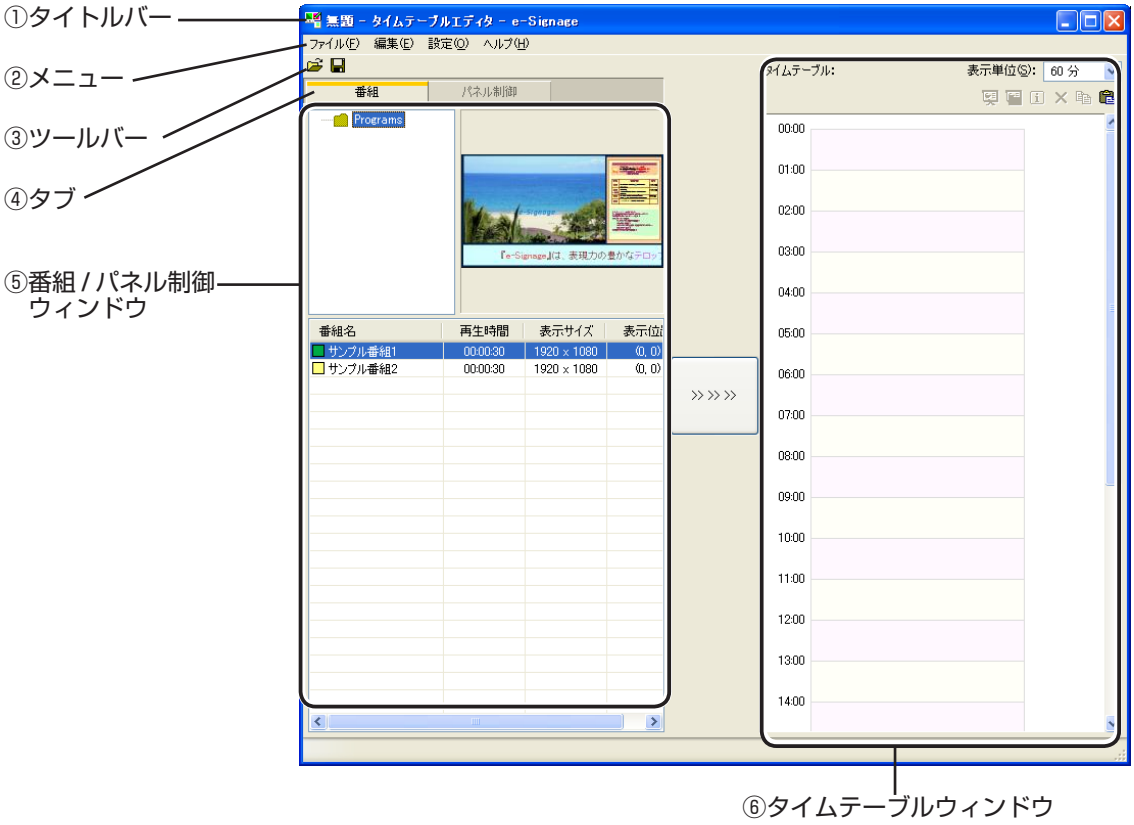
●タイムテーブルエディタを起動する

1 **ランチャー画面で** **をクリックします。**
「タイムテーブルエディタ」が起動します。

起動直後は、何も番組が配置されていない新しいタイムテーブルが表示されます。この画面を元に内容を設定し、タイムテーブルを完成させます。

Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［タイムテーブルエディタ］の順にクリックしても、起動できます。

●タイムテーブルエディタの基本画面



①タイトルバー

タイムテーブル名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、タイムテーブルを保存すると、そのタイムテーブル名に変わります。
開いたタイムテーブルの内容が変更されると、タイムテーブル名の後ろに「*（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「編集」、「設定」、「ヘルプ」の 4 種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容	参照ページ
ファイル	タイムテーブルの新規作成	新しいタイムテーブルを開きます。	−
	タイムテーブルを開く	保存されているタイムテーブルを読み込みます。	☞72 ページ
	タイムテーブルの保存	現在編集中のタイムテーブルを保存します。	☞71 ページ
	タイムテーブルに名前を付けて保存	現在編集中のタイムテーブルに別の名前を付けて保存します。	☞72 ページ
	タイムテーブルの削除	保存されているタイムテーブルの中からタイムテーブルを指定して削除します。	☞73 ページ
	タイムテーブルの実行テスト	現在編集中のタイムテーブルを実行テストします。 e-Signage スタンドアロン版（PN-SS01）では、登録されているタイムテーブルデータ、スケジュールデータが全て消去されますので、ご注意ください。	☞72 ページ
	タイムテーブルのプロパティ	タイムテーブルのプロパティを表示します。	☞73 ページ
	タイムテーブルのインポート	他のパソコンでエクスポートしたタイムテーブルを利用するために、読み込みます。	☞75 ページ
	タイムテーブルのエクスポート	他のパソコンで利用するために、保存されているタイムテーブルの中からタイムテーブルを書き出します。	☞74 ページ
	終了	タイムテーブルエディタを終了します。	−
編集	すべてを選択	タイムテーブルに配置されている番組をすべて選択します。	−
	削除	選択されている番組をタイムテーブルから削除します。【Delete】キーを押しても削除できます。	−
	コピー	選択されている番組をコピーします。	−
	貼り付け	コピーした番組をタイムテーブルに配置します。 タイムテーブル上の番組を選択しているときは番組終了時刻のすぐ後に、選択していないときは 00:00 に貼り付けられます。	−
設定	タイムテーブルの開始時刻と終了時刻の設定	タイムテーブルを目的の時間帯（開始時刻と終了時刻）に設定します。営業時間などの時間帯を設定したいときに利用します。	☞71 ページ
ヘルプ	パネルの対応情報	パネル制御の機種別対応表を表示します。	☞69 ページ
	バージョン情報	バージョン情報を表示します。	−

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容	参照ページ
	タイムテーブルを開く	保存されているタイムテーブルを読み込みます。	☞72 ページ
	タイムテーブルの保存	現在編集中のタイムテーブルを保存します。	☞71 ページ

④タブ

「番組」、「パネル制御」の 2 種類のタブがあります。クリックすると、各項目の設定ウィンドウに切り替わります。

⑤番組 / パネル制御ウィンドウ

［番組］タブを選択している場合は、番組格納フォルダ、番組サムネイル、番組一覧が表示されます。
番組格納フォルダおよび番組サムネイルの詳細は、48 ページを参照してください。
［パネル制御］タブを選択している場合は、パネル制御コマンドの一覧が表示されます。

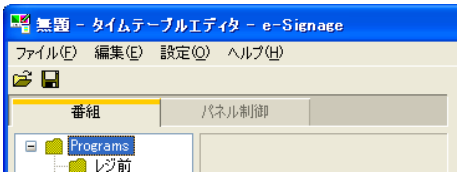
⑥タイムテーブルウィンドウ

タイムテーブルが表示されます。

タイムテーブルを作成する

●作成した番組をタイムテーブルに登録する

1 **［番組］タブが選択されていることを確認します。**
選択されていない場合は、［番組］タブをクリックします。
番組格納フォルダ、番組サムネイル、番組一覧が表示されます。
番組一覧には、「番組名」、「再生時間」、「表示サイズ」、「表示位置」 の 4 項目があります。

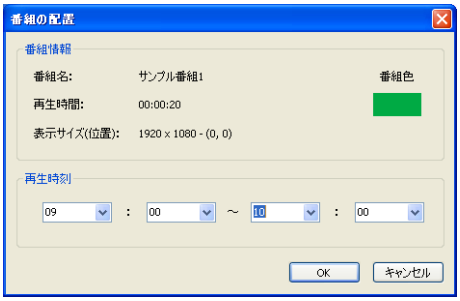


アイコンの色は「番組色」を示します。「番組エディタ」の［ファイル］メニューから［番組のプロパティ］をクリックして変更できます。(☞51 ページ)

2 **番組が保存されている番組格納フォルダを選びます。**

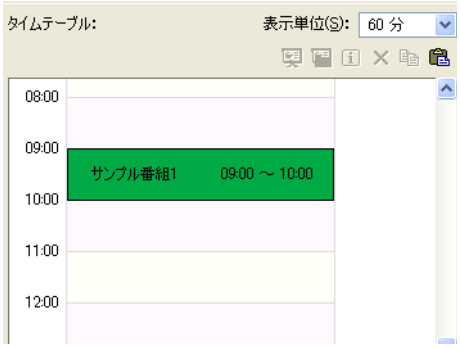
3 **「番組一覧」から使用する番組を選択し、 »»» をクリックします。**
または番組をダブルクリックします。
［番組の配置］ダイアログボックスが表示されます。

4 **「再生時刻」を設定します。**
番組を表示する時間帯になります。
00:00 ～ 24:00 の間で指定してください。



5 **［OK］をクリックします。**
タイムテーブルに番組が登録されます。

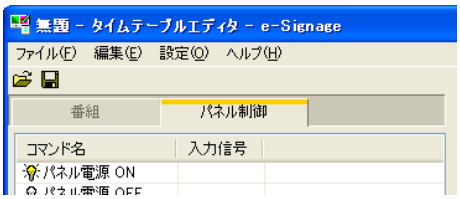
「番組一覧」の番組を「タイムテーブル」にドラッグしても、登録できます。また、登録された番組はタイムテーブルで変更できます。(☞70 ページ)



6 **必要に応じて手順 2 ～ 4 を繰り返し、1 日に表示したい全ての番組を設定します。**

●パネル制御をタイムテーブルに登録する

1 **［パネル制御］タブをクリックします。**
パネル制御コマンド一覧が表示されます。

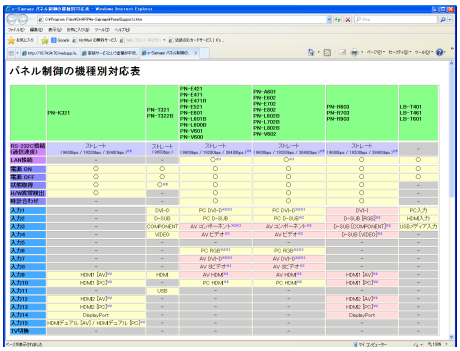


「コマンド名」「入力信号」の 2 項目があります。
各コマンドの内容は次の通りです。

コマンド名	内容
パネル電源 ON※1	パネル（ディスプレイ）の電源を ON にします。
パネル電源 OFF	パネル（ディスプレイ）をスタンバイ状態にします。
パネル入力切換（入力“番号”）	パネル（ディスプレイ）の入力ソースを切り替えます。
TV 切換※2	パネル（ディスプレイ）の入力ソースを「TV 入力」に切り替えます。 TV に切り替えたときのチャンネル指定はできません。TV で直前まで選択されていたチャンネルが表示されます。

※ 1　LB-46GX35、LB-52GX35 では使用できません。
※ 2　インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）、LB-1085、LB-T401、LB-T461、LB-T601 では、使用できません。

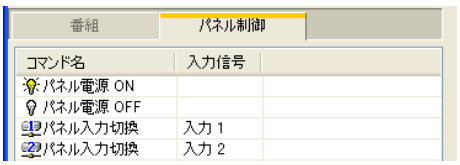
・パネル（ディスプレイ）が対応しているコマンドは、「パネル制御の機種別対応表」で確認することができます。
・「パネル制御の機種別対応表」を表示するには、パネル制御コマンド一覧の左下にあるボタン（ ）「パネルの対応情報」をクリックします。または［ヘルプメニュー］から［パネルの対応情報］をクリックします。



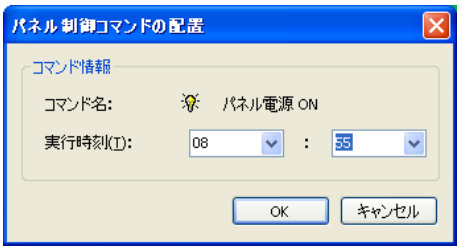
パネル制御の機種別対応表の内容は次の通りです。

項目名	内容
RS-232C 接続	ストレートケーブルとクロスケーブルのどちらで接続するべきか表示します。 対応している通信速度を表示します。
LAN 接続	LAN 接続に対応しているか表示します。
電源 ON	「パネル電源 ON」のパネル制御コマンドに対応しているか表示します。
電源 OFF	「パネル電源 OFF」のパネル制御コマンドに対応しているか表示します。
状態取得	状態取得（☞121 ページ）に対応しているか表示します。
H/W 異常検出	ハード異常の検出に対応しているかを表示します。
時計合わせ	時計合わせ（☞110、111 ページ）に対応しているか表示します。
入力“番号”	パネル（ディスプレイ）のどの入力に対応しているか表示します。
TV 切換	TV 切換に対応しているか表示します。

2 **「パネル制御コマンド一覧」から使用するパネル制御コマンドを選択し、»»» をクリックします。**
［パネル制御コマンドの配置］ダイアログボックスが表示されます。



3 **「実行時刻」を設定します。**
コマンドの実行をする時間になります。
00:00 ～ 24:00 の間で指定してください。



4 **［OK］をクリックします。**
タイムテーブルにパネル制御コマンドが登録され、制御コマンドのアイコン（パネル電源 ON：、パネル電源 OFF：、パネル入力切換：、パネル入力切換：）がタイムテーブルの右側に表示されます。

「パネル制御コマンド一覧」のコマンドを「タイムテーブル」にドラッグしても、登録できます。

5 **必要に応じて手順 2 ～ 4 を繰り返し、1 日に実行したい全てのパネル制御コマンドを設定します。**

●タイムテーブルを調整する

タイムテーブルの右上にあるボタンをクリックすると、次のような操作ができます。

アイコン	メニュー名	内容
	登録番組のプレビュー	選択されている番組のプレビューをオリジナルサイズで表示します。
	登録番組のプレビュー（画面にフィット）	選択されている番組のプレビューを画面の大きさにフィットさせて表示します。
	登録番組 / コマンドのプロパティ	選択されている番組 / パネル制御コマンドのプロパティを表示します。
	登録番組 / コマンドの削除	選択されている番組 / パネル制御コマンドをタイムテーブルから削除します。【Delete】キーを押しても削除できます。
	番組 / 制御コマンドのコピー	選択されている番組 / パネル制御コマンドをコピーします。
	番組 / 制御コマンドの貼り付け	コピーした番組 / パネル制御コマンドをタイムテーブルに配置します。タイムテーブル上の番組を選択しているときは番組終了時刻のすぐ後に、選択していないときは 00:00 に貼り付けられます。

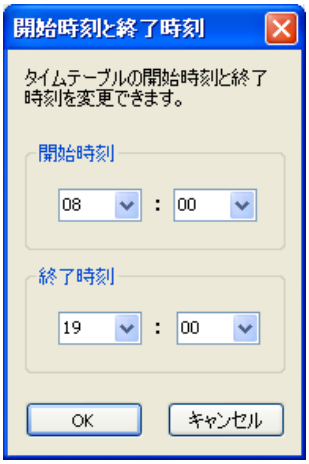
タイムテーブルに配置された番組やパネル制御コマンドをクリックすると、選択状態になります。
グリップをマウスでドラッグすることで、番組およびパネル制御コマンドの再生時刻、実行時刻の変更を視覚的に操作することができます。
また、グリップ以外をマウスでドラッグすることで、番組およびパネル制御コマンドを移動することができます。

開始時刻と終了時刻を変更する

1 **［設定］メニューから［タイムテーブルの開始時刻と終了時刻の設定］をクリックします。**
［開始時刻と終了時刻］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「開始時刻」と「終了時刻」をそれぞれ設定します。**
00:00 ～ 24:00 の間で指定してください。

3 **［OK］をクリックします。**
タイムテーブルに開始時刻と終了時刻が反映されます。



表示単位を変更する

「表示単位」プルダウンメニューから「60 分 /30 分 /15 分 /10 分 /5 分」から選択できます。

●タイムテーブルを保存する

作成したタイムテーブルは、2 通りの方法で保存できます。

タイムテーブルを上書き保存する

現在編集中のタイムテーブルの名前を変えずに上書き保存します。

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルの保存］をクリックします。**
または をクリックします。
同じファイル名で上書き保存されます。

「タイムテーブルエディタ」の起動直後は、タイトルバーに「無題」と表示されます。この場合上書き保存をすると、［タイムテーブルの保存］ダイアログボックスが表示されます。以降の手順は次の「タイムテーブルを別名で保存する」の手順 2 を参照してください。

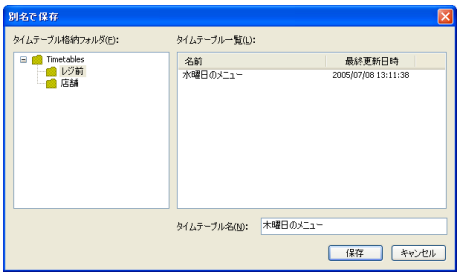
タイムテーブルに名前を付けて保存する

現在編集中のタイムテーブルに別の名前を付けて保存します。

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルに名前を付けて保存］をクリックします。**
［別名で保存］ダイアログボックスが表示されます。

2 **タイムテーブルを保存するタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

3 **「タイムテーブル名」に名前を入力し、［保存］をクリックします。**
別のファイル名で保存されます。



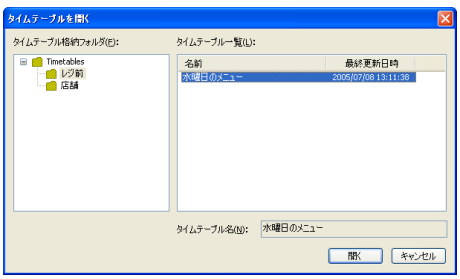
●タイムテーブルを開く

保存されているタイムテーブルの中からタイムテーブルを指定して読み込み、利用することができます。
変更箇所のみを編集し、別の名前で保存すると、効率よくタイムテーブルを作成できます。

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルを開く］をクリックします。**
または をクリックします。
［タイムテーブルを開く］ダイアログボックスが表示されます。

2 **タイムテーブルが保存されているタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

3 **「タイムテーブル一覧」からタイムテーブルを選択し、［開く］をクリックします。**
選択したタイムテーブルがタイムテーブルエディタに読み込まれ、編集できるようになります。



開いたタイムテーブルを編集した後、上書き保存をしてしまうと、編集した内容が元のファイルに反映されますので、注意してください。

●作成したタイムテーブルを確認する

作成したタイムテーブルをプレビュー表示して、確認することができます。

e-Signage スタンドアロン版（PN-SS01）では、登録されているスケジュールデータ、タイムテーブルデータが全て消去されます。

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルの実行テスト］をクリックします。**
プレビューが表示されます。

2 **プレビューを確認します。**

・プレビューを終了するときは、プレビュー画面をクリックして【Esc】キーを押し、表示を停止したあと、タスクトレイの e-Signage クライアントスケジューラより、スケジュール情報を削除してください。(☞105 ページ)
・作成した番組の画面サイズがパソコンのモニタの表示解像度より大きい場合は、プレビューで番組の画面全体を表示することができません。

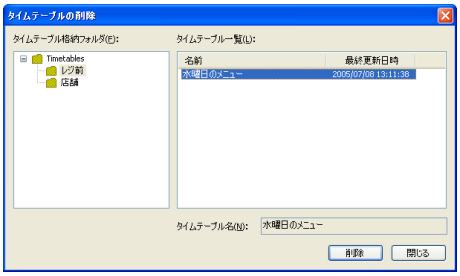
●タイムテーブルを削除する

不要になったタイムテーブルを削除することができます。

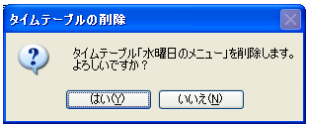
1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルの削除］をクリックします。**
［タイムテーブルの削除］ダイアログボックスが表示されます。

2 **タイムテーブルが保存されているタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

3 **「タイムテーブル一覧」からタイムテーブルを選択し、［削除］をクリックします。**



4 **［はい］をクリックします。**
選択したタイムテーブルが削除されます。

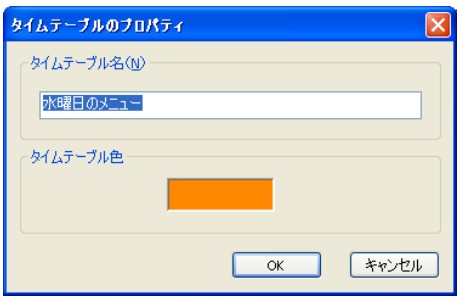


5 **［閉じる］をクリックします。**

●タイムテーブルの名前や色を変更する

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルのプロパティ］をクリックします。**
［タイムテーブルのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

「タイムテーブル名」「タイムテーブル色」が確認できます。
- 「タイムテーブル名」を変更できます。
- 色が表示されている矩形をクリックすると表示される［色の設定］ダイアログボックスで、タイムテーブル色を変更できます。



「タイムテーブル色」はスケジュールエディタでタイムテーブルを表示する際の色です。

2 **［OK］をクリックします。**

●タイムテーブルをインポート / エクスポートする

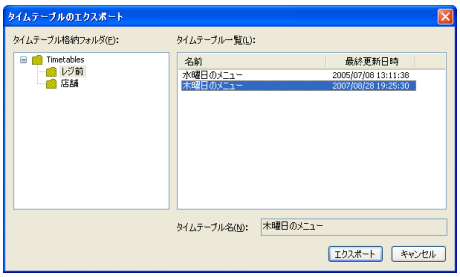
タイムテーブルをエクスポートする

作成したタイムテーブルを他のパソコンの e-Signage で利用するときは、エクスポート機能でタイムテーブルを書き出します。エクスポートしたタイムテーブルデータには、タイムテーブルに登録されている番組も含まれます。

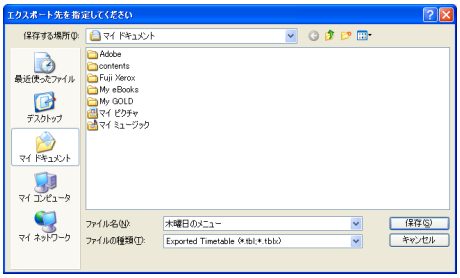
1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルのエクスポート］をクリックします。**
［タイムテーブルのエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。

2 **タイムテーブルが保存されているタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

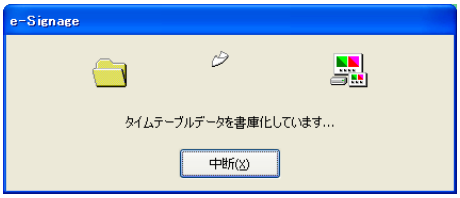
3 **「タイムテーブル一覧」からタイムテーブルを選択し、［エクスポート］をクリックします。**
［エクスポート先を指定してください］ダイアログボックスが表示されます。



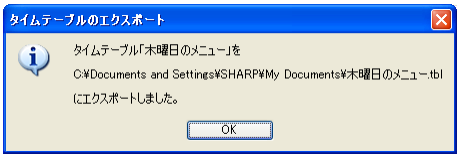
4 **保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。**
［タイムテーブルのエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。



エクスポート中は右のような画面が表示されます。エクスポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。



5 **［OK］をクリックします。**
これでタイムテーブルのエクスポートは完了です。

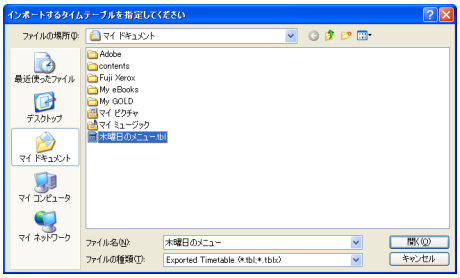


タイムテーブルをインポートする

他のパソコンの e-Signage で作成したタイムテーブルを利用するときは、エクスポートされたタイムテーブルをインポート機能で読み込みます。

1 **［ファイル］メニューから［タイムテーブルのインポート］をクリックします。**
［インポートするタイムテーブルデータを指定してください］ダイアログボックスが表示されます。

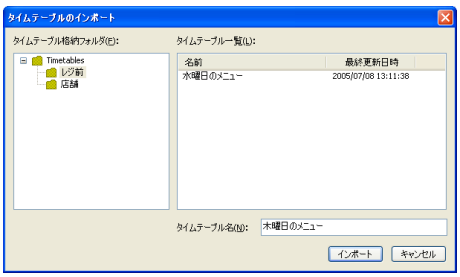
2 **インポートするファイル（.tbl）または（.tblx）を選択し、［開く］をクリックします。**
［タイムテーブルのインポート］ダイアログボックスが表示されます。



インポートの準備中は右のような画面が表示されます。インポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。

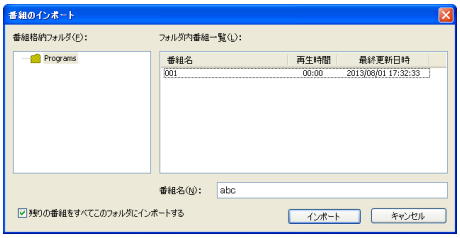
3 **タイムテーブルを保存するタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

4 **「タイムテーブル名」に名前を入入力し、［インポート］をクリックします。**



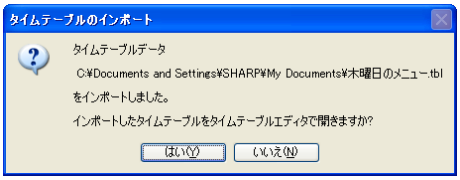
5 **「番組名」に名前を入力し［インポート］をクリックします。**

インポート先のパソコンに既に同じ番組名がある場合、確認ダイアログボックスが表示されます。上書きするか、番組名を変更してインポートするか選択してください。
複数の番組が含まれている場合は残りの番組も全て同じ格納フォルダにインポートすることができます。



6 **コンテンツのインポート先のフォルダを選択し、［ＯＫ］をクリックします。**

7 **［はい］をクリックします。**
入力したファイル名でタイムテーブルが保存されます。
これでタイムテーブルのインポートは完了です。



スケジュール作成・編集

タイムテーブルエディタで作成したタイムテーブルをどの日に表示するかを設定する方法について説明します。

スケジュールエディタの基本画面について

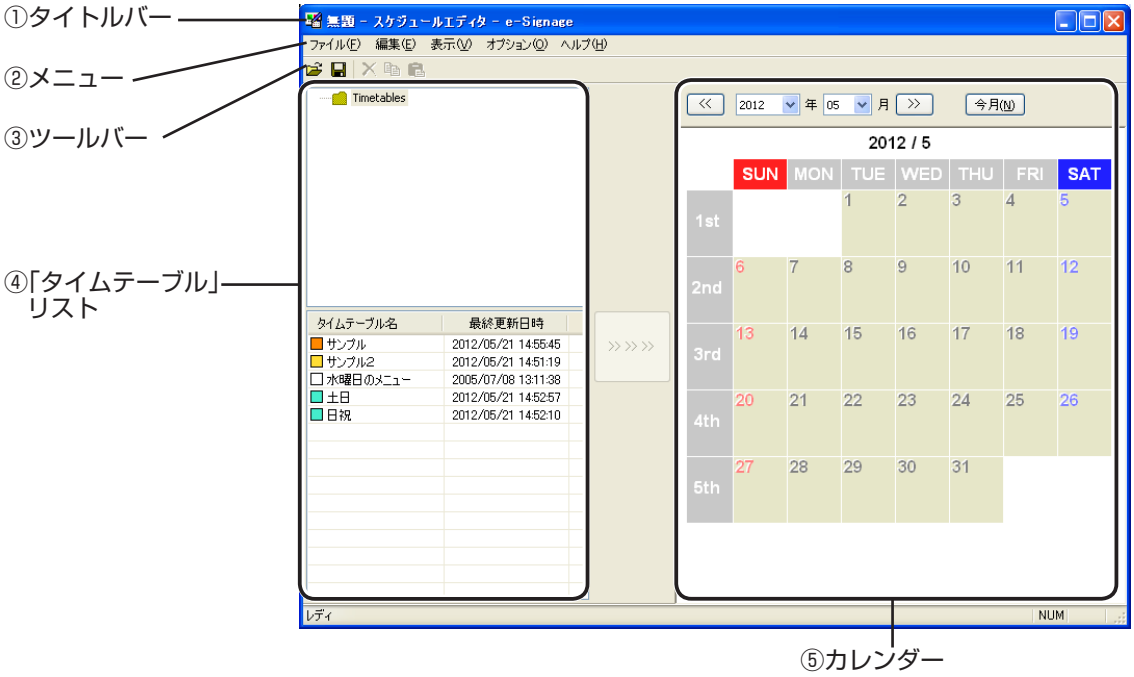
●スケジュールエディタを起動する

1 ランチャー画面で をクリックします。
「スケジュールエディタ」が起動します。

起動直後は、何もタイムテーブルが配置されていない新しいスケジュールが表示されます。この画面を元に内容を設定し、スケジュールを完成させます。

Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［スケジュールエディタ］の順にクリックしても、起動できます。

●スケジュールエディタの基本画面



①タイトルバー

スケジュール名が表示されます。起動直後は「無題」と表示され、スケジュールを保存すると、そのスケジュール名に変わります。
開いたスケジュールの内容が変更されると、スケジュール名の後ろに「＊（アスタリスク）」が表示されます。

②メニュー

「ファイル」、「編集」、「表示」、「ヘルプ」の４種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容	参照ページ
ファイル	スケジュールの新規作成	新しいスケジュールを開きます。	－
	スケジュールを開く	保存されているスケジュールを読み込みます。	☞80 ページ

メニュー名		内容	参照ページ
ファイル	スケジュールの上書き保存	現在編集中のスケジュールを保存します。	☞80 ページ
	スケジュールに名前を付けて保存	現在編集中のスケジュールに別の名前を付けて保存します。	☞80 ページ
	スケジュールの削除	保存されているスケジュールの中からスケジュールを指定して削除します。	☞81 ページ
	スケジュールのプロパティ	スケジュール名を表示、変更します。	☞81 ページ
	スケジュールのインポート	他のパソコンでエクスポートしたスケジュールを利用するために、読み込みます。	☞82 ページ
	スケジュールのエクスポート	他のパソコンで利用するために、保存されているスケジュールの中からスケジュールを書き出します。	☞82 ページ
	終了	スケジュールエディタを終了します。	−
編集	タイムテーブルの追加	「タイムテーブル」リストで選択されているタイムテーブルをスケジュールに追加します。	☞78 ページ
	タイムテーブルの削除	「カレンダー」で選択されているタイムテーブルを削除します。【Delete】キーを押しても削除できます。	☞79 ページ
	タイムテーブルのコピー	選択されているタイムテーブルをコピーします。	−
	タイムテーブルの貼り付け	コピーしたタイムテーブルをスケジュールに配置します。	−
	すべてを選択	スケジュールに配置されているタイムテーブルをすべて選択します。	−
オプション	設定	Pro WEB サーバー版を使用する場合はチェックします。初期値はチェック無しです。	−
表示	前の月を表示	カレンダーで現在表示されている月の前の月を表示します。	☞79 ページ
	次の月を表示	カレンダーで現在表示されている月の次の月を表示します。	☞79 ページ
	今月を表示	カレンダーを今月の表示にします。	☞79 ページ
	最新の情報に更新	「タイムテーブル」リストを最新の状態にします。	−
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。	−

③ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容	参照ページ
	スケジュールを開く	保存されているスケジュールを読み込みます。	☞80 ページ
	スケジュールの上書き保存	現在編集中のスケジュールを保存します。	☞80 ページ
	タイムテーブルの削除	「カレンダー」で選択されているタイムテーブルを削除します。【Delete】キーを押しても削除できます。	☞79 ページ
	タイムテーブルのコピー	選択されているタイムテーブルをコピーします。	−
	タイムテーブルの貼り付け	コピーしたタイムテーブルをスケジュールに配置します。	−

④「タイムテーブル」リスト

タイムテーブル格納フォルダ、およびタイムテーブルエディタで作成したタイムテーブルの一覧が表示されます。タイムテーブルの一覧には、「タイムテーブル名」「最終更新日」の 2 項目があります。

アイコンの色は「タイムテーブルの色」を示します。「タイムテーブルエディタ」の［ファイル］メニューから［タイムテーブルのプロパティ］をクリックして変更できます。（☞79 ページ）

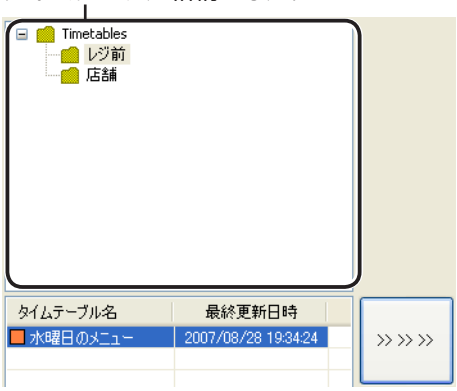
⑤カレンダー

スケジュールをカレンダーで表示し、このカレンダーにタイムテーブルを配置します。

スケジュールを作成する

●作成したタイムテーブルをスケジュールに登録する

タイムテーブル格納フォルダ



1 **タイムテーブルが保存されているタイムテーブル格納フォルダを選びます。**

2 **「タイムテーブル」リストから使用するタイムテーブルを選択し、[»»»]をクリックします。**
またはタイムテーブルをダブルクリックします。
または［編集］メニューから［タイムテーブルの追加］をクリックします。
［タイムテーブルの追加］ダイアログボックスが表示されます。

3 **「追加期間」を設定します。**
番組を表示する期間になります。
「追加オプション」を設定しない場合は、「開始」から「終了」期間までの全ての日にタイムスケジュールが追加されます。

「追加オプション」を利用すると、追加期間内の指定した曜日または週のみにタイムテーブルを追加できます。

①「曜日指定」チェックボックスをチェックし、「日」～「土」チェックボックスをチェックすると、追加期間中の指定した曜日だけにタイムテーブルを追加します。

②「週指定」チェックボックスをチェックし、「第 1 週」～「第 6 週」チェックボックスをチェックすると、追加期間中の指定した週だけにタイムテーブルを追加します。

③「曜日指定」と「週指定」をそれぞれ指定した場合は、両方の条件を満たした日だけをタイムテーブルに追加します。
例えば、「曜日指定」を「水」、「週指定」を「第 2 週」と設定した場合は、毎月第 2 週の水曜日になります。

4 **［OK］をクリックします。**
スケジュールにタイムテーブルが登録されます。

「タイムテーブル」リストのタイムテーブルを「カレンダー」にドラッグしても、登録できます。また、登録されたタイムテーブルはカレンダーで変更できます。

5 **必要に応じて手順 2 ～ 3 を繰り返し、表示したい全てのタイムテーブルをスケジュールに設定します。**

カレンダーについて

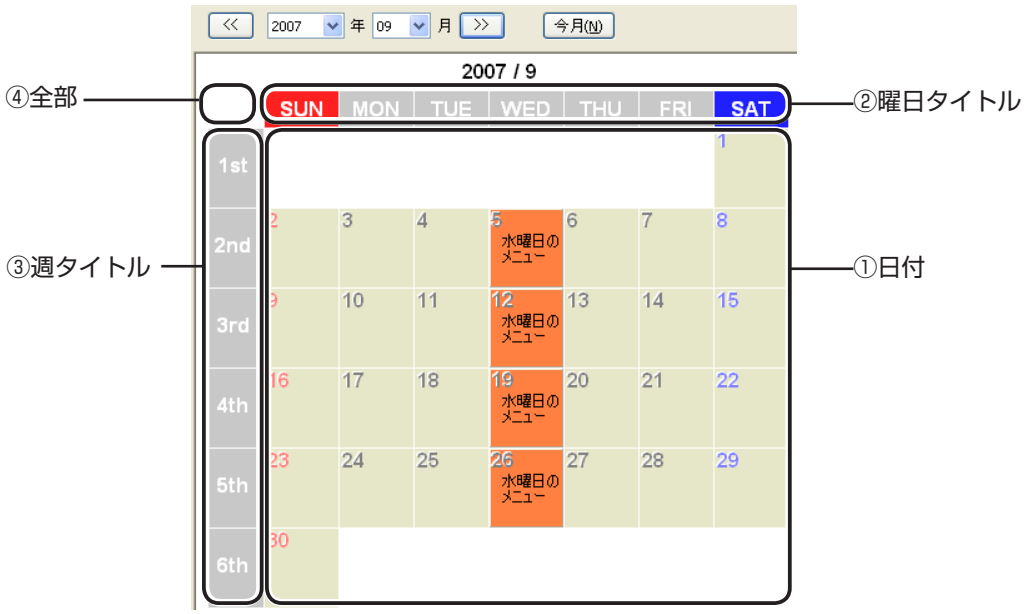
タイムテーブルが登録されている日は、「タイムテーブルの色」と「タイムテーブル名」が表示されます。

カレンダーの上にあるボタンとプルダウンメニューで、次の操作ができます。

アイコン	メニュー名	内容
<<	前の月を表示	現在表示されている月の前の月を表示します。
2005	年を選択	現在表示されている月の選択した年を表示します。
07	月を選択	現在表示されている年の選択した月を表示します。
>>	次の月を表示	現在表示されている月の次の月を表示します。
今月(N)	今月を表示	今月の表示にします。

・【Ctrl】キーや【Shift】キーを押しながらクリックすると、複数の日を同時に選択することができます。
・タイムテーブルを選択して【Delete】キーを押すと、カレンダーから削除できます。

タイムテーブルをドラッグする場所により、登録される日が変わります。
既にタイムテーブルが登録されている日には、上書きされません。



①日付　　：ドラッグした日に登録されます。
②曜日タイトル：表示されている月のドラッグした曜日に登録されます。
③週タイトル　：表示されている月のドラッグした週に登録されます。
④全部　　：表示されている月の全部の日に登録されます。

●スケジュールを保存する

作成したスケジュールは、2 通りの方法で保存できます。

スケジュールを上書き保存する

現在編集中のスケジュールの名前を変えずに上書き保存します。

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールの上書き保存］をクリックします。**
または をクリックします。
同じスケジュール名で上書き保存されます。

「スケジュールエディタ」の起動直後は、タイトルバーに「無題」と表示されます。この場合上書き保存をすると、［スケジュールの上書き保存］ダイアログボックスが表示されます。以降の手順は次の「スケジュールに名前を付けて保存する」の手順 2 を参照してください。

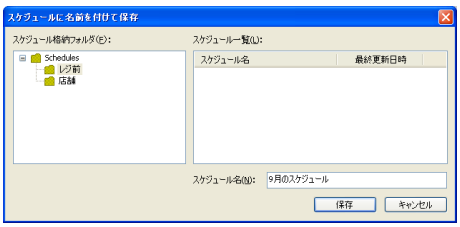
スケジュールに名前を付けて保存する

現在編集中のスケジュールに別の名前を付けて保存します。

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールに名前を付けて保存］をクリックします。**
［スケジュールに名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

2 **スケジュールを保存するスケジュール格納フォルダを選びます。**

3 **「スケジュール名」に名前を入力し、［保存］をクリックします。**
別のスケジュール名で保存されます。



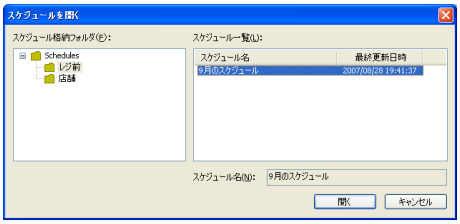
●スケジュールを開く

保存されているスケジュールの中からスケジュールを指定して読み込み、利用することができます。
変更箇所のみを編集し、別の名前で保存すると、効率よくスケジュールを作成できます。

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールを開く］をクリックします。**
または をクリックします。
［スケジュールを開く］ダイアログボックスが表示されます。

2 **スケジュールが保存されているスケジュール格納フォルダを選びます。**

3 **「スケジュール一覧」からスケジュールを選択し、［開く］をクリックします。**
選択したスケジュールがスケジュールエディタに読み込まれ、編集できるようになります。



開いたスケジュールを編集した後、上書き保存をしてしまうと、編集した内容が元のスケジュールに反映されますので、注意してください。

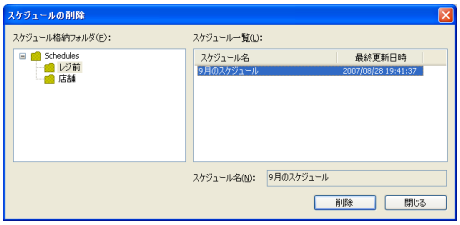
●スケジュールを削除する

不要になったスケジュールを削除することができます。

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールの削除］をクリックします。**
［スケジュールの削除］ダイアログボックスが表示されます。

2 **スケジュールが保存されているスケジュール格納フォルダを選びます。**

3 **「スケジュール一覧」からスケジュールを選択し、［削除］をクリックします。**



4 **［はい］をクリックします。**
選択したスケジュールが削除されます。

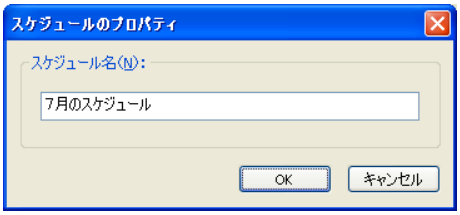
5 **［閉じる］をクリックします。**

●スケジュール名を変更する

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールのプロパティ］をクリックします。**
［スケジュールのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

「スケジュール名」の確認と変更ができます。

2 **［OK］をクリックします。**



●スケジュールをインポート / エクスポートする

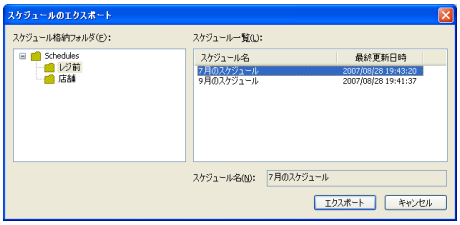
スケジュールをエクスポートする

作成したスケジュールを他のパソコンの e-Signage で利用するときは、エクスポート機能でスケジュールを書き出します。エクスポートしたスケジュールデータには、スケジュールに登録されている番組およびタイムテーブルも含まれます。

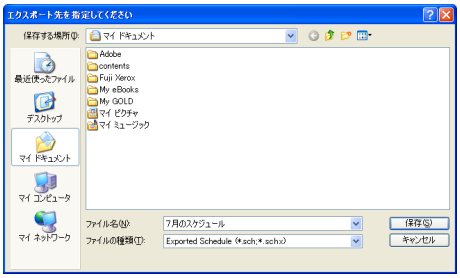
1 **［ファイル］メニューから［スケジュールのエクスポート］をクリックします。**
［スケジュールのエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。

2 **スケジュールが保存されているスケジュール格納フォルダを選びます。**

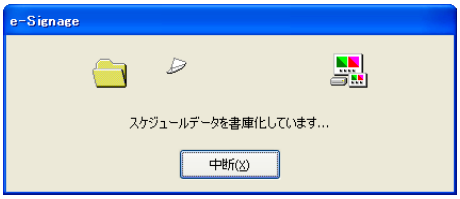
3 **「スケジュール一覧」からスケジュールを選択し、［エクスポート］をクリックします。**
［エクスポート先を指定してください］ダイアログボックスが表示されます。



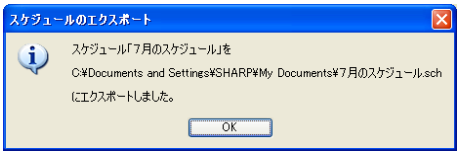
4 **保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。**
［スケジュールのエクスポート］ダイアログボックスが表示されます。



エクスポート中は右のような画面が表示されます。エクスポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。



5 **［OK］をクリックします。**
これでスケジュールのエクスポートは完了です。

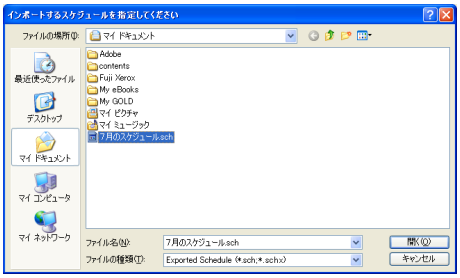


スケジュールをインポートする

他のパソコンの e-Signage で作成したスケジュールを利用するときは、エクスポートされたスケジュールをインポート機能で読み込みます。

1 **［ファイル］メニューから［スケジュールのインポート］をクリックします。**
［インポートするスケジュールデータを指定してください］ダイアログボックスが表示されます。

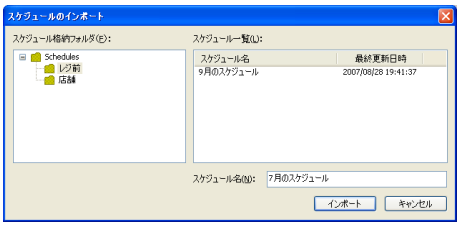
2 **インポートするファイル（.sch）または（.schx）を選択し、［開く］をクリックします。**
［スケジュールのインポート］ダイアログボックスが表示されます。



インポートの準備中は右のような画面が表示されます。インポートを中止したいときは、［中断］をクリックしてください。

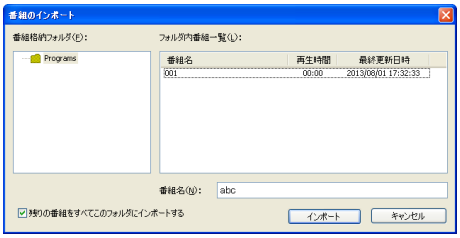
3 **スケジュールを保存するスケジュール格納フォルダを選びます。**

4 **「スケジュール名」に名前を入力し、［インポート］をクリックします。**



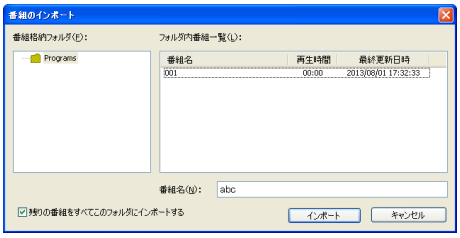
5 **「タイムテーブル名」に名前を入力し［インポート］をクリックします。**

インポート先のパソコンに既に同じタイムテーブル名がある場合、確認ダイアログボックスが表示されます。上書きするか、タイムテーブル名を変更してインポートするか選択してください。
複数のタイムテーブルが含まれている場合は残りのタイムテーブル全て指定フォルダにインポートすることができます。



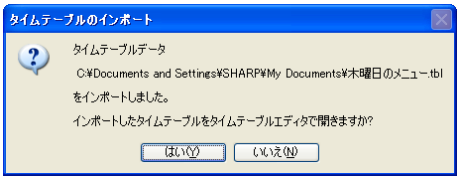
6 **「番組名」に名前を入力し［インポート］をクリックします。**

インポート先のパソコンに既に同じ番組名がある場合、確認ダイアログボックスが表示されます。上書きするか、番組名を変更してインポートするか選択してください。
複数の番組が含まれている場合は残りの番組も全て同じ格納フォルダにインポートすることができます。



7 **コンテンツのインポート先のフォルダを選択し、［ＯＫ］をクリックします。**

8 **［はい］をクリックします。**
入力したファイル名でスケジュールが保存されます。
これでスケジュールのインポートは完了です。



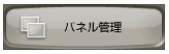
パネル管理・環境設定

e-Signage ネットワーク版で、複数のパネルに番組を配信する場合は、管理するパネルをあらかじめ設定しておく必要があります。

パネルを管理する

e-Signage ネットワーク版のみの機能です。

●パネル管理を起動する

1 ランチャー画面で 

をクリックします。
［パネル管理］ダイアログボックスが起動します。

●パネル管理の基本画面

①「登録パネル一覧」ツリー

②ボタン

①「登録パネル一覧」ツリー

登録されているパネルの一覧が表示されます。
パネルアイコン（ ）をドラッグ＆ドロップして、パネルの属性（「すべてのパネル」または「任意のグループ」）を変更できます。

管理できるパネルの数は、ライセンスによって異なります。（最大 100 台）

②ボタン

［パネル管理］ダイアログボックスには、6 つのボタンがあります。各ボタンの内容は次の通りです。

ボタン名	内容	参照ページ
パネルの追加	新しく管理するパネルを追加します。	☞ 下記
グループの追加	新しいグループを追加します。	☞86 ページ
編集	選択したパネルやグループの内容を変更します。	☞ 下記、86 ページ
削除	選択したパネルやグループを削除します。	☞87 ページ
手動制御	手動制御するパネルや制御コマンドを設定します。	☞87 ページ
閉じる	［パネル管理］ウィンドウを終了します。	−

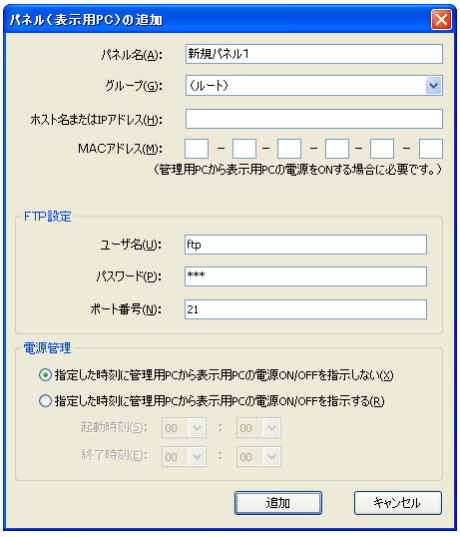
●パネルを追加・編集する

1 **新しく管理するパネルを追加する場合は、［パネルの追加］をクリックします。**
［パネル（表示用 PC）の追加］ダイアログボックスが表示されます。

既にあるパネルを編集する場合は、［編集］をクリックします。
［パネル（表示用 PC）の編集］ダイアログボックスが表示されます。

［パネル（表示用 PC）の追加］ダイアログボックスおよび［パネル（表示用 PC）の編集］ダイアログボックスの設定項目は同じです。追加後に編集し直すことができます。

2 **各項目を設定します。**



① パネル名（必須）
パネルに識別しやすい名前を付けてください。
（全角 25 文字以内）

② グループ
登録されているグループの中からパネルを追加するグループを選択します。
どのグループにも属さない場合は、「なし」を選択してください。どのグループにも属さないパネルは、「すべてのパネル」の下に追加されます。

「登録パネル一覧」ツリーのグループおよびグループに属したパネルを選択した状態で、［パネルの追加］をクリックした場合は、そのグループが表示されています。

③ ホスト名または IP アドレス（必須）
サーバからアクセス可能な表示用 PC のホスト名または IP アドレスを設定します。

同じホスト名および IP アドレスのパネルを 2 つ以上作成することはできません。

④ MAC アドレス
管理用 PC から表示用 PC の電源を ON する場合は、表示用 PC の MAC アドレスを入力します。

⑤ FTP 設定
表示用 PC の FTP サービスで設定した「ユーザ名（半角英数字 30 文字以内）」、「パスワード（半角英数字 30 文字以内）」、「ポート番号（1 ～ 32000）」を入力します。

・パネル追加時に設定する FTP 設定をあらかじめ設定しておくことができます。（☞89 ページ）
・e-Signageのビューア版をインストールした場合、独自のFTPサーバがインストールされサービスとして起動されます。デフォルトのTCP/IPポート番号は20と21になっています。もし、他のサービスなどでこのポート番号が使用されている場合には、ポート番号を変更してください。また、表示用 PC の e-Signage クライアントスケジューラの FTP 設定も同じポート番号に設定しておく必要があります。（☞108 ページ）

⑥ 電源管理
指定した時刻に表示用 PC の電源を ON/OFF したい場合は、「指定した時刻に管理用 PC から表示用 PC の電源 ON/OFF を指示する」ラジオボタンを選択し、「起動時刻」と「終了時刻」を設定します。（5 分単位）

3 **［追加］または［変更］をクリックします。**

●グループを追加・編集する

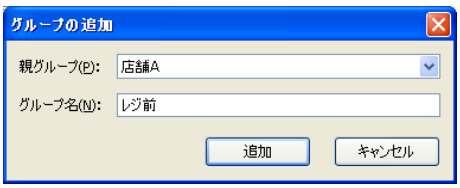
1 **グループを追加する場合は、［グループの追加］をクリックします。**
［グループの追加］ダイアログボックスが表示されます。

グループを編集する場合は、編集するグループを選択し、［編集］をクリックします。
［グループの編集］ダイアログボックスが表示されます。

・グループの下にグループを作成することもできます。

2 **親グループを選びます。**

3 **「グループ名」を入力します。**
（全角 25 文字以内）



4 **［追加］または［変更］をクリックします。**

●パネルを手動制御する

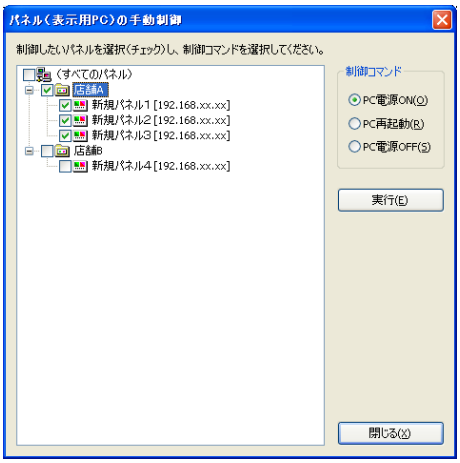
表示用 PC を手動制御する場合に設定します。

表示用 PC を手動制御（表示用 PC 電源 ON）する場合は、表示用 PC のマジックパケットによる WakeOnLAN 機能が有効になっている必要があります。
表示用 PC が、同一セグメント LAN の外にある場合、使用しているルータの仕様や設定によっては、マジックパケットが通過できない場合があります。詳しくは、ネットワーク管理者に相談してください。

1 **［手動制御］をクリックします。**
［パネル（表示用 PC）の手動制御］ダイアログボックスが表示されます。

2 **制御したいパネルまたはグループのチェックボックスをチェックします。**
「制御コマンド」を選択します。
送信できる制御コマンドは次の 3 種類です。
- PC 電源 ON
- PC 再起動
- PC 電源 OFF

3 **［実行］をクリックします。**
制御コマンドが送信されます。



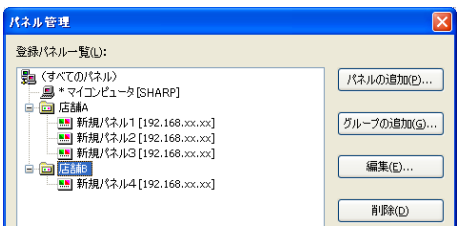
●パネル・グループを削除する

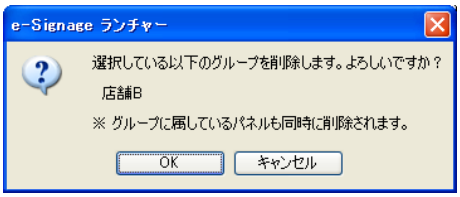
1 **削除したいパネルまたはグループを選択します。**

グループを選択した場合は、グループに属している全てのパネルが削除されます。

2 **［削除］をクリックします。**
確認メッセージが表示されます。

3 **［OK］をクリックします。**





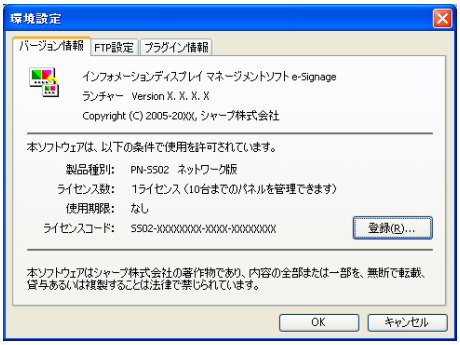
環境設定

環境設定では、バージョン情報の確認とパネル追加時の設定値をあらかじめ設定しておくことができます。

●環境設定を起動する

1 **ランチャー画面で**

をクリックします。
［環境設定］ダイアログボックスが起動します。



［プラグイン情報］タブには、アドオンモジュールがインストールされている場合、その情報が表示されます。

●バージョン情報を確認する

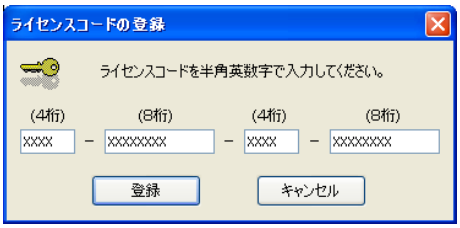
［バージョン情報］タブでは、ご使用の e-Signage のバージョン情報が表示されています。
e-Signage で不具合などが発生し、当社にお問い合わせいただいた際には、このバージョン情報をご確認させていただく場合がございます。

ライセンスコードを登録する

インストール時に仮のライセンスコードを入力してご使用の場合は、2 ヶ月間の試用期限があります。
試用期限が過ぎる前に、本製品に同梱されているライセンス証書に記載されている手順に従って、ライセンスコードを入手し、ライセンスコードを登録してください。
ライセンスコードは次の方法で登録します。

1 **［登録］をクリックします。**
［ライセンスコードの登録］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「ライセンスコード」を入力し、［登録］をクリックします。**



Windows Vista/7/8 の場合、ユーザーアカウント制御画面が表示されたときは、「許可」（Windows Vista）または［はい］（Windows 7/8）をクリックしてください。

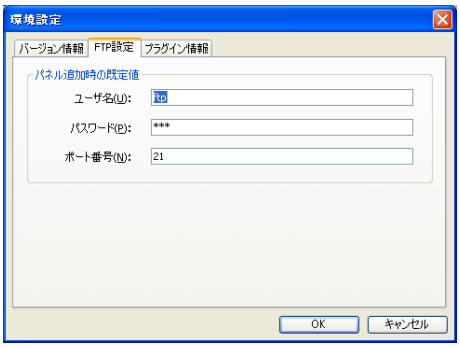
●管理パネル追加時の既定値を設定する

管理パネルを追加するときの FTP 設定をあらかじめ既定値として設定しておくことができます。

1 **［FTP 設定］タブをクリックします。**

2 **「パネル追加時の既定値」を設定します。**

- ユーザ名（半角英数字 30 文字以内）
- パスワード（半角英数字 30 文字以内）
- ポート番号（1 ～ 32000）



デフォルトでは次の値に設定されています。

・ユーザ名　：ftp
・パスワード　：ftp
・ポート番号　：21

・e-Signage のビューア版をインストールした場合、独自の FTP サーバがインストールされサービスとして起動されます。デフォルトのTCP/IP ポート番号は 20 と 21 になっています。もし、他のサービスなどでこのポート番号が使用されている場合には、ポート番号を変更してください。また、表示用 PC の e-Signage クライアントスケジューラの FTP 設定も同じポート番号に設定しておく必要があります。（☞108 ページ）
・セキュリティ上の問題がある場合は、値を変更してください。

スケジュール配信

スケジュールエディタで作成したスケジュールを表示用 PC に配信する方法について説明します。

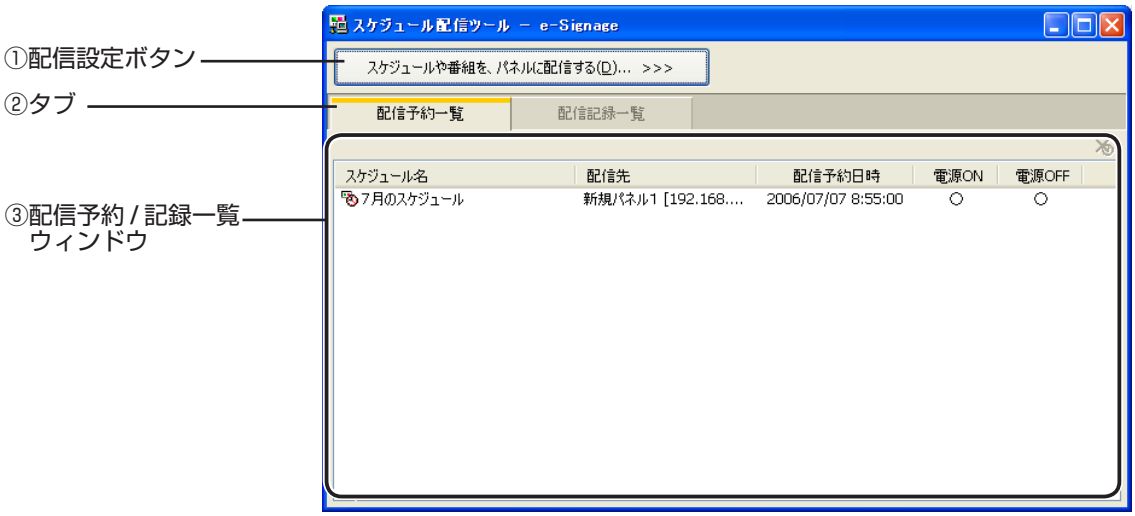
スケジュール配信ツールの基本画面について

●スケジュール配信ツールを起動する

1 ランチャー画面で をクリックします。
「スケジュール配信ツール」が起動します。

Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム（プログラム）］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［スケジュール配信ツール］の順にクリックしても、起動できます。

●スケジュール配信ツールの基本画面



①配信設定ボタン

e-Signage のシステムや配信方法の詳細を設定するためのウィザードを起動します。

②タブ

「配信予約一覧」、「配信記録一覧」の 2 種類のタブがあります。クリックすると、各項目の一覧ウィンドウに切り替わります。

③配信予約 / 記録一覧ウィンドウ

選択したタブの詳細を表示します。

スケジュールを配信する

スケジュールを配信するには、次の方法があります。
・ネットワーク経由で表示用 PC に配信する（ネットワーク版のみ）
・自分自身（マイコンピュータ）へ配信する
・USB メモリなどの外部機器を使用して配信する

配信ツールで配信できるスケジュール（番組やコンテンツを含みます）の最大合計サイズは16GB、個々のコンテンツの最大サイズは 4GB です。それを超えるデータは配信できません。

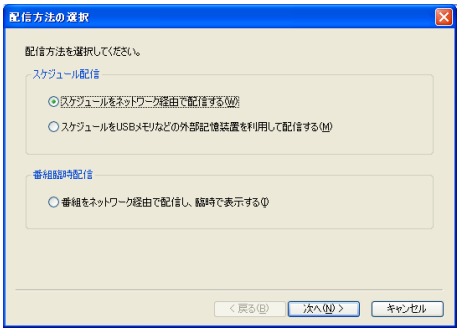
●ネットワーク経由で配信する

スケジュールをネットワーク経由で表示用 PC に配信する方法について説明します。

e-Signage ネットワーク版での説明です。

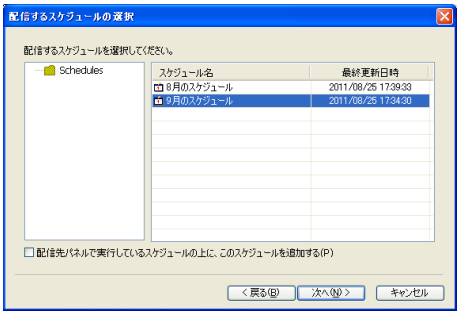
1 **［スケジュールや番組を、パネルに配信する］をクリックします。**
［配信方法の選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「スケジュールをネットワーク経由で配信する」ラジオボタンを選択し、［次へ］をクリックします。**
［配信するスケジュールの選択］ダイアログボックスが表示されます。



3 **スケジュールを選択します。**
表示用 PC 側の現在のスケジュールに、選択したスケジュールを追加する場合は、「配信先パネルで実行しているスケジュールの上に、このスケジュールを追加する」チェックボックスをチェックします。チェックしていない場合は、表示用 PC 側の現在のスケジュールを選択したスケジュールに置き換えます。

スケジュールの置換は、1 日単位で行います。時間単位の変更はできません。

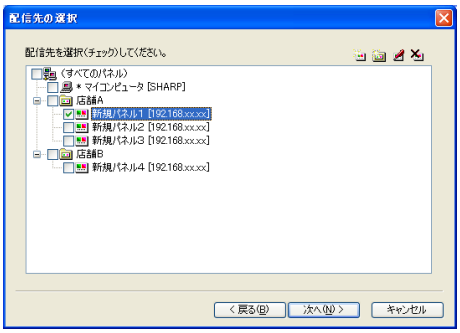


4 **［次へ］をクリックします。**
［配信先の選択］ダイアログボックスが表示されます。

5 **配信する全てのパネルおよびグループのチェックボックスをチェックします。**

右上にあるボタンをクリックすると、[パネル管理] ウィンドウ（☞84 ページ）と同じように、パネルやグループの追加・編集ができます。

各ボタンの内容は次の通りです。

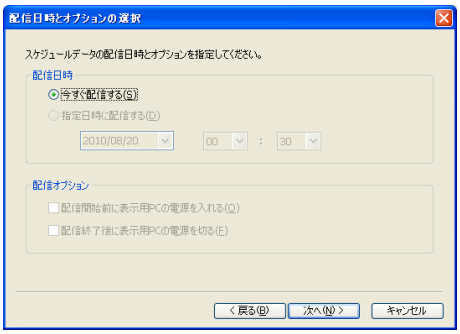


ボタン	ボタン名	内容	参照ページ
	パネル（表示用 PC）の追加	新しく管理するパネルを追加します。	☞85 ページ
	グループの追加	新しいグループを追加します。	☞86 ページ
	パネル / グループの編集	選択したパネルやグループの内容を変更します。	☞85、86 ページ
	パネル / グループの削除	選択したパネルやグループを削除します。	☞87 ページ

6 **[次へ] をクリックします。**

[配信日時とオプションの選択] ダイアログボックスが表示されます。

7 **「配信日時」を選択します。**



- 「今すぐ配信する」ラジオボタン
  配信ウィザード終了後、すぐにスケジュールを配信します。
- 「指定日時に配信する」ラジオボタン
  設定した日時にスケジュールを配信します。

8 **「配信オプション」を設定します。**

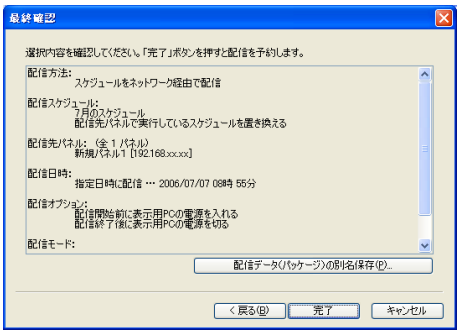
- 「配信開始前に表示用 PC の電源を入れる」チェックボックス
  スケジュールの配信時に表示用 PC が起動していない場合に、表示用 PC の電源を入れた後で、スケジュールを配信します。
- 「配信終了後に表示用 PC の電源を切る」チェックボックス
  スケジュールの配信を終了した後で、表示用 PC の電源を切ります。

9 **[次へ] をクリックします。**

[最終確認] ダイアログボックスが表示されます。

10 **内容を確認し、[完了] をクリックします。**

配信予約または配信が実行されます。

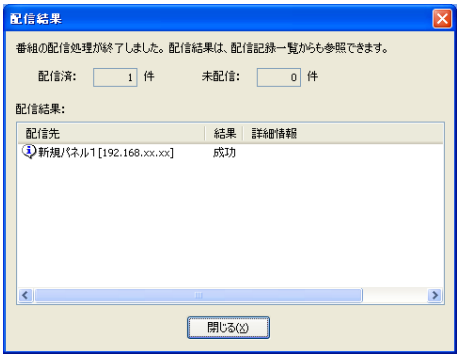


配信データをパッケージして番組やタイムテーブル、コンテンツを含むスケジュール情報を 1 つのファイルとして保存できます。

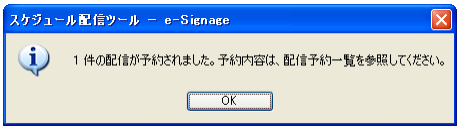
[配信データ (パッケージ) の別名保存] をクリックし、表示された [パッケージの別名保存] ダイアログボックスで、保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、[保存] をクリックします。

本機能は、通常利用する必要はありません。

11 **手順 7 で「今すぐ配信する」ラジオボタンを選択した場合は、右のような画面が表示されるので、成功したことを確認し、[閉じる] をクリックします。**



手順 7 で「指定日時に配信する」ラジオボタンを選択した場合は、右のような画面が表示されるので、[OK] をクリックします。



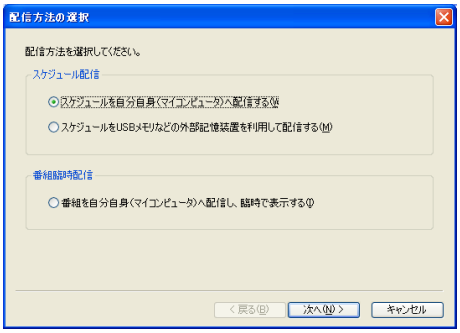
・スケジュールや番組の配信には時間がかかります。また、複数パネルに同時配信でも、実際は順番に配信されます。そのため、スケジュールや番組の配信には、時間差が発生します。
・新しいスケジュールを配信すると、古いスケジュールは不要になります。不要になったスケジュールやそれに付随するコンテンツは、e-Signage クライアントスケジューラが次回起動するときに自動的に削除されます。

●自分自身（マイコンピュータ）へ配信する

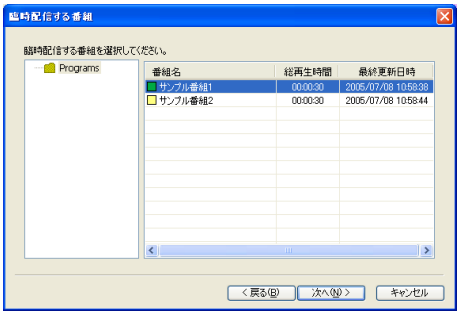
e-Signage スタンドアロン版での説明です。

1 **[スケジュールや番組を、パネルに配信する] をクリックします。**
[配信方法の選択] ダイアログボックスが表示されます。

2 **「スケジュールを自分自身（マイコンピュータ）へ配信する」ラジオボタンを選択し、[次へ] をクリックします。**
[配信するスケジュールの選択] ダイアログボックスが表示されます。



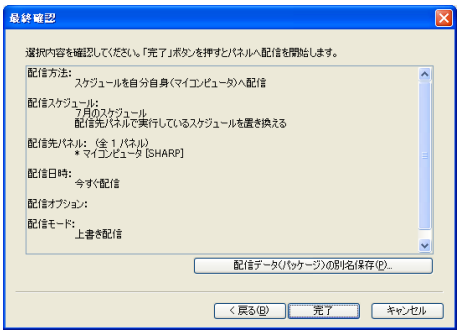
3 **スケジュールを選択します。**
自分自身（マイコンピュータ）の現在のスケジュールに、選択したスケジュールを追加する場合は、「配信先パネルで実行しているスケジュールの上に、このスケジュールを追加する」チェックボックスをチェックします。チェックしていない場合は、自分自身（マイコンピュータ）の現在のスケジュールを選択したスケジュールに置き換えます。



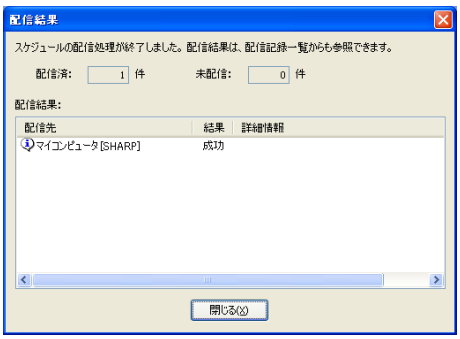
4 **［次へ］をクリックします。**
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。

5 **内容を確認し、［完了］をクリックします。**
配信が実行されます。

配信データをパッケージして番組やタイムテーブル、コンテンツを含むスケジュール情報を 1 つのファイルとして保存できます。
[配信データ（パッケージ）の別名保存] をクリックし、表示された [パッケージの別名保存] ダイアログボックスで、保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。
本機能は、通常利用する必要はありません。



6 **右のような画面が表示されるので、成功したことを確認し、［閉じる］をクリックします。**

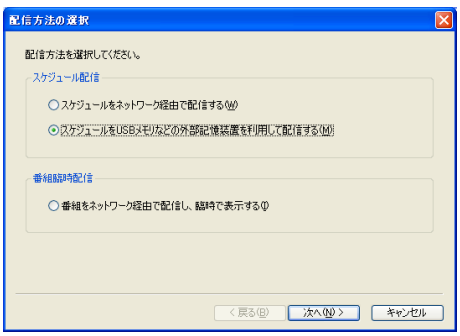


● USB メモリなどの外部記憶装置を利用して配信する

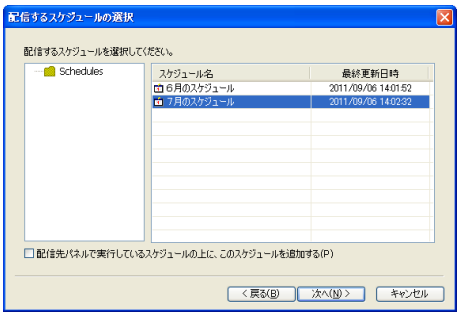
・転送が完了するまで、USB メモリなどの外部記憶装置をパソコンから取り外さないでください。
・USB メモリなどの外部記憶装置によっては、正常に配信できない場合があります。
・表示用 PC は「通常モード」に設定してください。「コンテンツ直接配信モード」に設定しているとスケジュール配信できません。（☞112 ページ）

1 **［スケジュールや番組を、パネルに配信する］をクリックします。**
［配信方法の選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「スケジュールを USB メモリなどの外部記憶装置を利用して配信する」ラジオボタンを選択し、［次へ］をクリックします。**
［配信するスケジュールの選択］ダイアログボックスが表示されます。

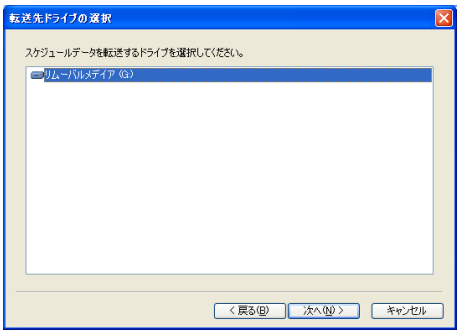


3 **スケジュールを選択します。**
表示用 PC の現在のスケジュールに、選択したスケジュールを追加する場合は、「配信先パネルで実行しているスケジュールの上に、このスケジュールを追加する」チェックボックスをチェックします。チェックしていない場合は、表示用 PC の現在のスケジュールを選択したスケジュールに置き換えます。



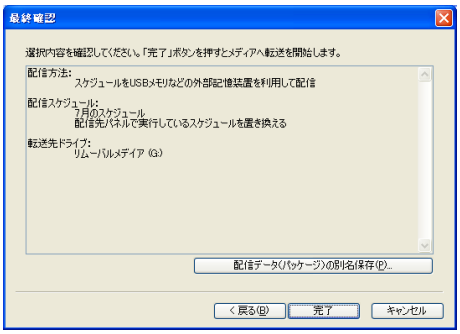
4 **［次へ］をクリックします。**
［転送先ドライブの選択］ダイアログボックスが表示されます。

5 **転送先ドライブを選択します。**



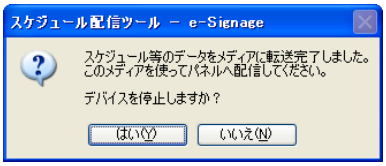
6 **［次へ］をクリックします。**
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。

7 **内容を確認し、［完了］をクリックします。**
配信が実行されます。

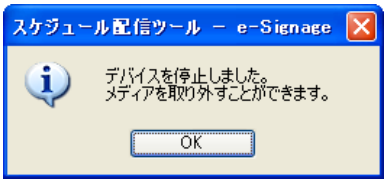


配信データをパッケージして番組やタイムテーブル、コンテンツを含むスケジュール情報を 1 つのファイルとして保存できます。
[配信データ (パッケージ) の別名保存] をクリックし、表示された [パッケージの別名保存] ダイアログボックスで、保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。
本機能は、通常利用する必要はありません。

8 **［はい］をクリックします。**
再度確認メッセージが表示されます。



9 **［OK］をクリックします。**



10 **転送した USB メモリなどの外部記憶装置をパソコンから取り外します。**

手順 8 で［いいえ］をクリックした場合は、タスクトレイの安全な取り外しアイコン（ ）から取り外してください。

11 **表示用 PC に USB メモリなどの外部記憶装置を挿入します。**
自動的にスケジュールが配信され、完了すると USB メモリなどの外部記憶装置は自動的に停止します。メッセージを確認し、取り外してください。

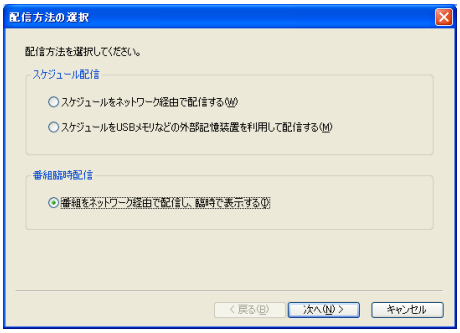
番組を臨時で表示する

●ネットワーク経由で配信し、臨時で表示する

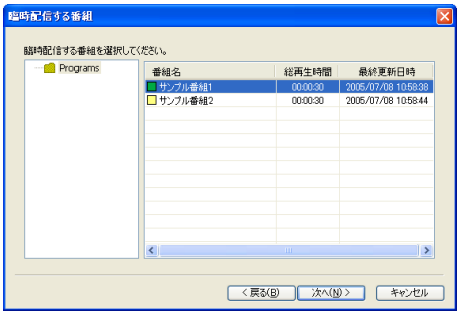
・e-Signage ネットワーク版のみの機能です。
・通常のスケジュール配信と臨時配信が重複する場合、臨時配信が優先されて処理されます。

1 **［スケジュールや番組を、パネルに配信する］をクリックします。**
［配信方法の選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「番組をネットワーク経由で配信し、臨時で表示する」ラジオボタンを選択し、［次へ］をクリックします。**
［臨時配信する番組］ダイアログボックスが表示されます。

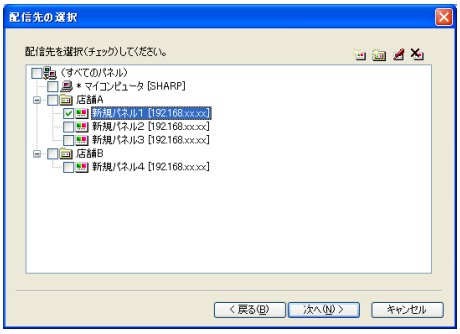


3 **番組を選択し、［次へ］をクリックします。**
［配信先の選択］ダイアログボックスが表示されます。



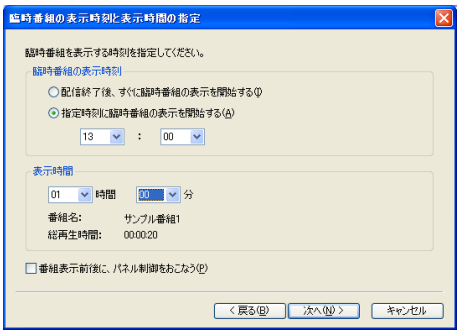
4 **配信する全てのパネルおよびグループのチェックボックスをチェックします。**
右上にあるボタンをクリックすると、［パネル管理］ウィンドウ（☞84 ページ）と同じように、パネルやグループの追加・編集ができます。各ボタンの内容は、92 ページを参照してください。

5 **［次へ］をクリックします。**
［臨時番組の表示時刻と表示時間の指定］ダイアログボックスが表示されます。



6 **「臨時番組の表示時刻」を設定します。**
・「配信終了後、すぐに臨時番組の表示を開始する」ラジオボタン
配信ウィザード終了後、すぐに番組を表示します。
・「指定時刻に臨時番組の表示を開始する」ラジオボタン
設定した時刻に番組表示を開始します。

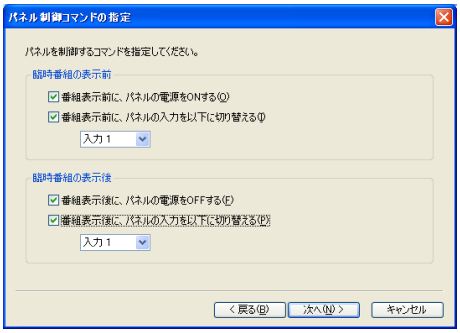
7 **「表示時間」を設定します。**



8 **臨時番組の表示前後に、パネル制御を行う場合は、「番組表示前後に、パネル制御をおこなう」チェックボックスをチェックし、［次へ］をクリックします。**
［パネル制御コマンドの指定］ダイアログボックスが表示されます。

臨時番組の表示前後に、パネル制御を行わない場合は、「番組表示前後に、パネル制御をおこなう」チェックボックスをはずし［次へ］をクリックします。
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。手順 11 へ進んでください。

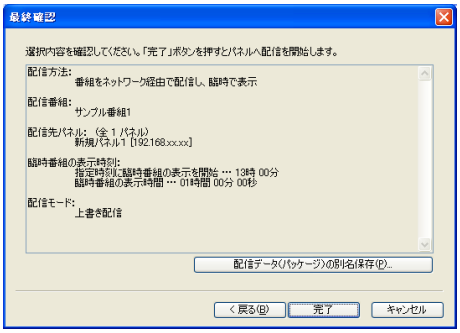
9 **「パネル制御コマンド」を設定します。**



「臨時番組の表示前」
- 「番組表示前に、パネルの電源を ON する」チェックボックス
  パネルの電源を入れた後で、臨時番組を表示します。
  ※ LB-46GX35、LB-52GX35 では使用できません。
- 「番組表示前に、パネルの入力を以下に切り替える」チェックボックス
  臨時番組の表示時に、指定した入力に切り替えた後で、臨時番組を表示します。

「臨時番組の表示後」
- 「番組表示後に、パネルの電源を OFF する」チェックボックス
  臨時番組の表示を終了した後で、パネルの電源を切ります。
- 「番組表示後に、パネルの入力を以下に切り替える」チェックボックス
  臨時番組の表示を終了した後で、指定した入力に切り替えます。

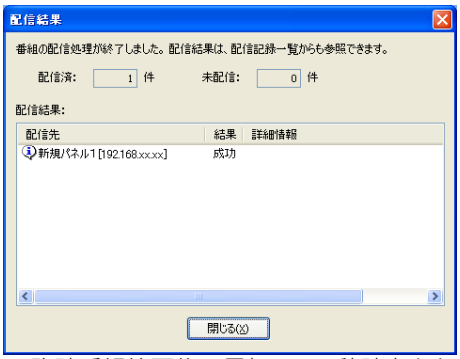
10 **［次へ］をクリックします。**
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。



11 **内容を確認し、［完了］をクリックします。**
臨時番組の表示予約または臨時番組の表示が実行されます。

配信データをパッケージして臨時番組などの、コンテンツを含む番組情報を 1 つのファイルとして保存できます。
［配信データ（パッケージ）の別名保存 ］をクリックし、表示された［パッケージの別名保存 ］ダイアログボックスで、保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。
本機能は、通常利用する必要はありません。

12 右のような画面が表示されるので、成功したことを確認し、［閉じる］をクリックします。



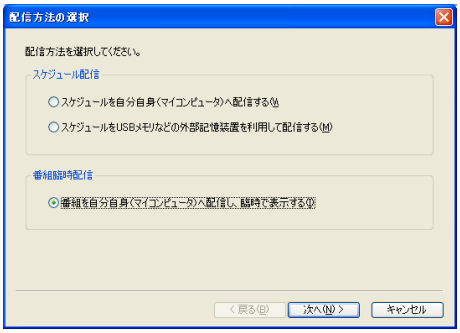
- 既に時刻が過ぎていた場合は、臨時番組の表示は無効になります。番組は表示されません。
- 配信先パネルで臨時番組が「表示時間」で指定された時間分表示された後、本来の番組に切り替わります。臨時番組が終了した時刻に本来表示されているはずの番組をはじめから表示します。
- 臨時番組の終了は、毎分丁度 (00 秒) に確認されます。臨時番組の表示が終わり本来の番組の表示が始まるのは、臨時番組終了後の最初の 00 秒時点となります。
- 臨時番組の表示は、1 つしか登録できません。後から配信されたものが優先されます。

●自分自身（マイコンピュータ）へ配信し、臨時で表示する

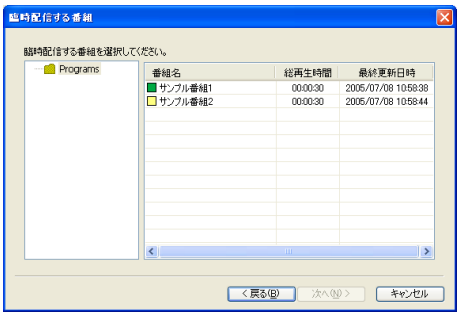
e-Signage スタンドアロン版のみの機能です。

1 ［スケジュールや番組を、パネルに配信する］をクリックします。
［配信方法の選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 「番組を自分自身（マイコンピュータ）へ配信し、臨時で表示する」ラジオボタンを選択し、［次へ］をクリックします。
［臨時配信する番組］ダイアログボックスが表示されます。

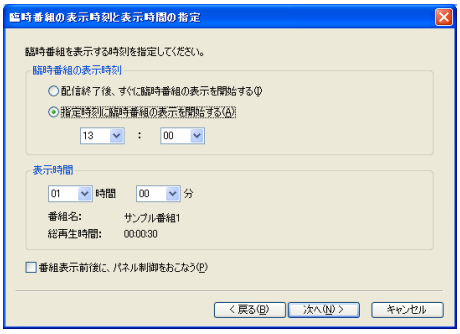


3 番組を選択し、［次へ］をクリックします。
［臨時番組の表示時刻と表示時間の指定］ダイアログボックスが表示されます。



4 「臨時番組の表示時刻」を設定します。
- 「配信終了後、すぐに臨時番組の表示を開始する」ラジオボタン
  配信ウィザード終了後、すぐに番組を表示します。
- 「指定時刻に臨時番組の表示を開始する」ラジオボタン
  設定した時刻に番組表示を開始します。

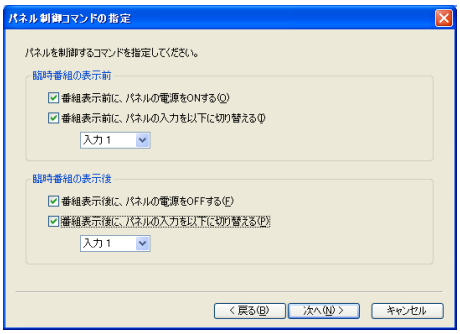
5 「表示時間」を設定します。



6 **臨時番組の表示前後に、パネル制御を行う場合は、「番組表示前後に、パネル制御をおこなう」チェックボックスをチェックし、［次へ］をクリックします。**
［パネル制御コマンドの指定］ダイアログボックスが表示されます。

臨時番組の表示前後に、パネル制御を行わない場合は、「番組表示前後に、パネル制御をおこなう」チェックボックスをはずし［次へ］をクリックします。
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。手順 9 へ進んでください。

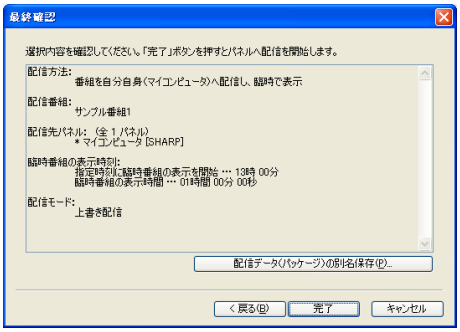
7 **「パネル制御コマンド」を設定します。**



「臨時番組の表示前」
- 「番組表示前に、パネルの電源を ON する」チェックボックス
  パネルの電源を入れた後で、臨時番組を表示します。
  ※ LB-46GX35、LB-52GX35 では使用できません。
- 「番組表示前に、パネルの入力を以下に切り替える」チェックボックス
  臨時番組の表示時に、指定した入力に切り替えた後で、臨時番組を表示します。

「臨時番組の表示後」
- 「番組表示後に、パネルの電源を OFF する」チェックボックス
  臨時番組の表示を終了した後で、パネルの電源を切ります。
- 「番組表示後に、パネルの入力を以下に切り替える」チェックボックス
  臨時番組の表示を終了した後で、指定した入力に切り替えます。

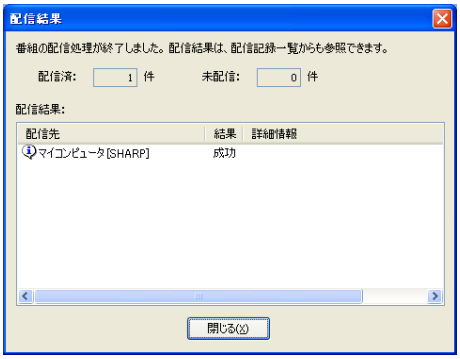
8 **［次へ］をクリックします。**
［最終確認］ダイアログボックスが表示されます。



9 **内容を確認し、［完了］をクリックします。**
臨時番組の表示予約または臨時番組の表示が実行されます。

配信データをパッケージして臨時番組などの、コンテンツを含む番組情報を 1 つのファイルとして保存できます。
[配信データ (パッケージ) の別名保存] をクリックし、表示された [パッケージの別名保存] ダイアログボックスで、保存場所を指定し、「ファイル名」を入力して、［保存］をクリックします。
本機能は、通常利用する必要はありません。

10 右のような画面が表示されるので、成功したことを確認し、［閉じる］をクリックします。

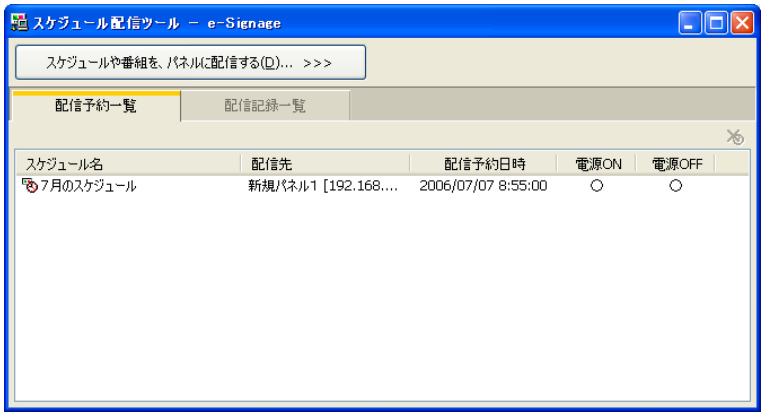


- 既に時刻が過ぎていた場合は、臨時番組の表示は無効になります。番組は表示されません。
- 配信先パネルで臨時番組が「表示時間」で指定された時間分表示された後、本来の番組に切り替わります。臨時番組が終了した時刻に本来表示されているはずの番組をはじめから表示します。
- 臨時番組の終了は、毎分丁度 (00 秒) に確認されます。臨時番組の表示が終わり本来の番組の表示が始まるのは、臨時番組終了後の最初の 00 秒時点となります。

配信予約一覧・配信記録一覧

●配信予約一覧

［配信予約一覧］タブをクリックすると、現在予約されている配信予約の一覧が表示されます。
「スケジュール名」、「配信先」、「配信予約日時」、「電源 ON」、「電源 OFF」の 5 項目が表示され、項目をクリックするごとに、昇順降順の並び替えができます。



配信予約の削除

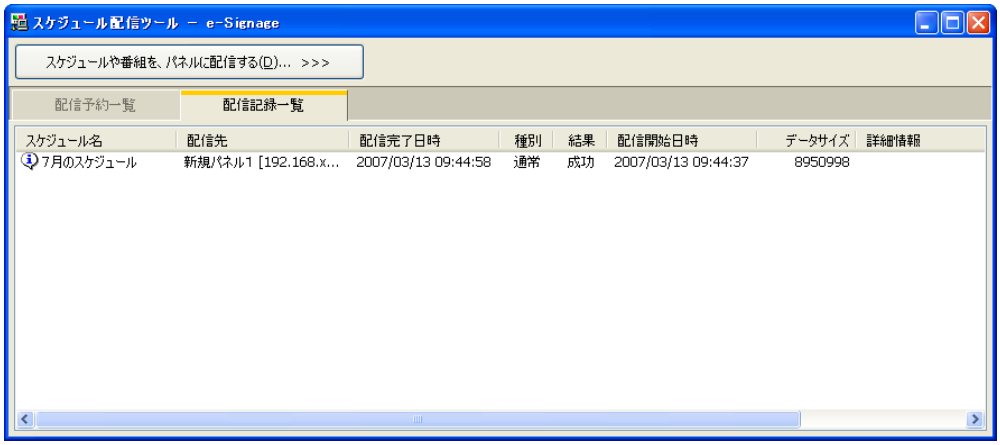
配信予約は、次の 3 通りの方法で削除できます。
・配信予約を選択し、一覧の右上のボタン（ ）をクリックします。
・配信予約を右クリックし、表示されたメニューから［配信予約を削除］をクリックします。
・配信予約を選択し、【Delete】キーを押します。

最新の情報に更新

配信予約は、次の 2 通りの方法で最新の情報に更新できます。
・配信予約一覧の枠内を右クリックし、表示されたメニューから［最新の情報に更新］をクリックします。
・【F5】キーを押します。

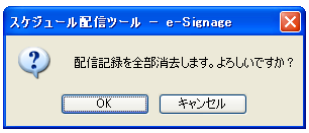
●配信記録一覧

［配信記録一覧］タブをクリックすると、スケジュールや臨時番組の配信記録の一覧が表示されます。
「スケジュール名」、「配信先」、「配信完了日時」、「種別」、「結果」、「配信開始日時」、「データサイズ」、「詳細情報」の 8 項目が表示され、項目をクリックするごとに、昇順降順の並び替えができます。



配信記録の一括削除

配信記録は、次の 2 通りの方法で一括削除できます。
・配信記録一覧の枠内を右クリックし、表示されたメニューから［配信記録の全消去］をクリックします。
・【Delete】キーを押します。
確認のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。



最新の情報に更新

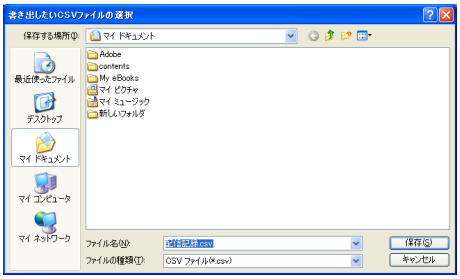
配信記録は、次の 2 通りの方法で最新の情報に更新できます。
・配信記録一覧の枠内を右クリックし、表示されたメニューから［最新の情報に更新］をクリックします。
・【F5】キーを押します。

配信記録の CSV ファイル出力

配信記録は、CSV 形式のファイルで出力できます。

1 **配信記録一覧の枠内を右クリックし、表示されたメニューから［配信記録の CSV ファイル出力］をクリックします。**
［書き出したい CSV ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「ファイル名」を入力し、［保存］をクリックします。**



スケジュール管理

e-Signage ネットワーク版のみの機能です。

e-Signage サーバスケジューラについて

e-Signage サーバスケジューラは、「スケジュール配信ツール」で予約された配信スケジュールを管理し、予定時刻にスケジュールを表示用 PC に配信するためのツールです。

e-Signage サーバスケジューラは、Windows 起動時に「スタートアップ」より自動起動します。
e-Signage サーバスケジューラが起動すると、タスクトレイにアイコン（ ）が表示され、常駐します。
通常は終了しないでください。

スケジュール受信・番組表示

e-Signage ビューア版の機能です。

ネットワーク版で、管理用 PC からスケジュールや番組を配信したときの、表示用 PC の設定について説明します。

FTP サーバについて

FTP サーバは、管理用 PC から送信されたスケジュールや臨時番組を受信し、e-Signage クライアントスケジューラへ渡す働きをします。表示用 PC では、この FTP サーバのサービスが開始されている必要があります。

● FTP サーバの起動

FTP サーバは、Windows 起動時に自動起動します。
FTP サーバのサービスが開始されているかどうかについては、次の方法で確認します。

•Windows XP の場合

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［コントロールパネル］－［パフォーマンスとメンテナンス］－［管理ツール］－［サービス］の順にクリックします。**
［サービス］ウィンドウが表示されます。

2 **「サービス一覧」の「Information Display FTP Server」の状態が「開始」になっていることを確認します。**
「開始」になっていない場合は、「サービスの開始」をクリックしてください。

•Windows Vista の場合

1 **タスクバーのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［タスクマネージャ］をクリックします。**
［Windows タスクマネージャ］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［プロセス］タブをクリックし、「FTPD.exe」が表示されていることを確認します。**

•Windows 7 の場合

1 **タスクバーのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［タスクマネージャーの起動］をクリックします**
［Windows タスクマネージャー］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［プロセス］タブをクリックし、「FTPD.exe」が表示されていることを確認します。**

•Windows 8 の場合

1 **タスクバーのなにもない場所を右クリックし、表示されたメニューから［タスクマネージャー］をクリックします**
［タスクマネージャー］ダイアログボックスが表示されます。

2 **「プロセス」タブをクリックし、「e-Signage FTP Server」が表示されていることを確認します。**

e-Signage クライアントスケジューラについて

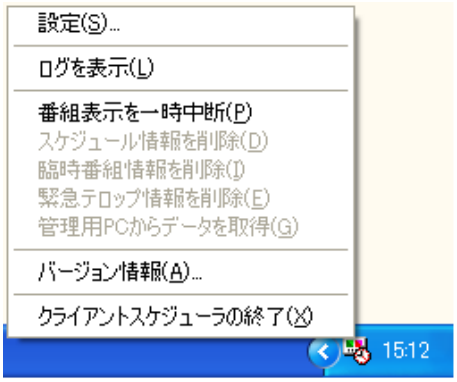
e-Signage クライアントスケジューラは表示用 PC で使用します。
FTP サーバが受信したスケジュールや臨時番組を読み取り、指定した時刻に指定した番組を表示するように番組ビューアを管理します。

● e-Signage クライアントスケジューラの起動

e-Signage クライアントスケジューラは、Windows 起動時に「スタートアップ」より自動起動します。
e-Signage クライアントスケジューラが起動すると、タスクトレイにアイコン（ ）が表示され、常駐します。

● e-Signage クライアントスケジューラのメニュー

タスクトレイのアイコンを右クリックすると表示されるメニューでは、次の操作ができます。

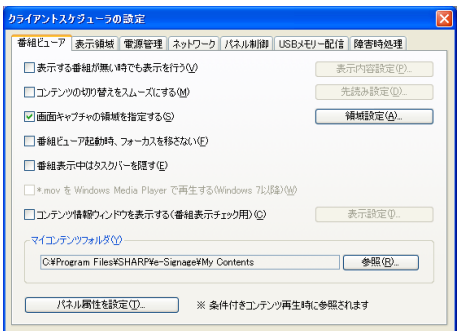


設定

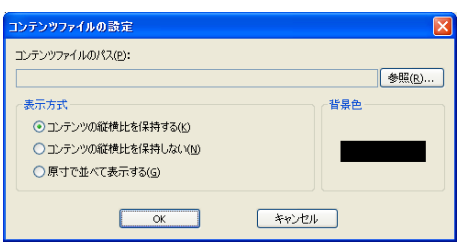
［設定］メニューをクリックすると、［クライアントスケジューラの設定］ダイアログボックスが表示されます。各タブで次の設定ができます。

［番組ビューア］タブ

番組ビューアの詳細を設定します。



・「表示する番組が無い時でも表示を行う」チェックボックス
チェックすると、表示する番組が無いときでも表示することができます。表示する内容は、［表示内容設定］をクリックして設定します。
・「紺色で領域を塗りつぶす」ラジオボタン
［表示領域］の設定で指定されている領域を紺色で表示します。
・「以下のコンテンツファイルを表示する」ラジオボタン
［設定］をクリックして［コンテンツファイルの設定］ダイアログボックスで表示するコンテンツファイルのパス、表示方式、背景色を設定します。
① ［参照］をクリックして、コンテンツファイルを選択します。e-Signage でサポートされているすべての表示可能なファイルが対象となります。
②「表示形式」を「コンテンツの縦横比を保持する」/「コンテンツの縦横比を保持しない」/「原寸で並べて表示する」ラジオボタンから選択します。



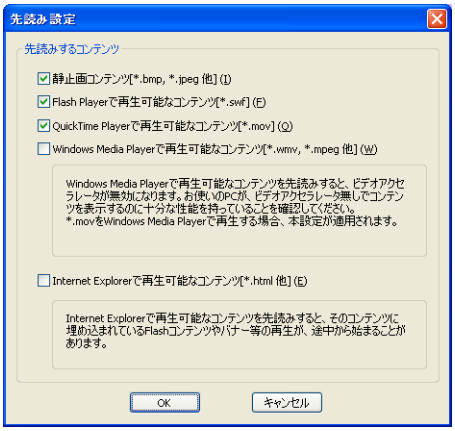
③「背景色」を設定します。

・「以下の番組を表示する」ラジオボタン
［インポート］をクリックして、既存の番組を選択します。番組エディタでエクスポートされた番組が対象となります。

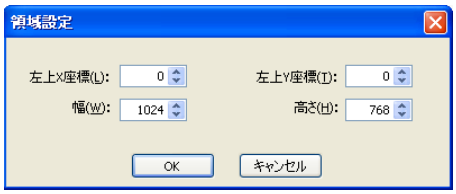
・「表示領域」で設定している領域が表示領域となります（番組を指定した場合を除きます）。

・「コンテンツの切り替えをスムーズにする」チェックボックス
コンテンツの再生終了前に次のコンテンツ再生準備を行い、コンテンツをスムーズに切り替えるときは、チェックします。
表示枠間でコンテンツ表示の同期を取る必要があるときもチェックしてください。
［先読み設定 ］をクリックすると、先読みするコンテンツを設定することができます。

・コンテンツの切り替えをスムーズにすると、CPU 負荷やメモリ使用量が増えます。運用前に番組を実際に表示してテストすることをお勧めします。
・Windows Media Player で再生可能なコンテンツを先読みすると、ビデオアクセラレータが無効になります。お使いの PC が、ビデオアクセラレータ無しでコンテンツを表示するのに十分な性能を持っていることを確認してください。（Windows XP のみ）
・Internet Explorer で再生可能なコンテンツを先読みすると、そのコンテンツに埋め込まれている Flash コンテンツやバナー等の再生が、途中から始まることがあります。



・「画面キャプチャの領域を指定する」チェックボックス
表示用 PC で、複数の画面を出力している場合に画面キャプチャをすると、デスクトップ全体がキャプチャされます。チェックすると、画面出力の一部分だけをキャプチャできます。
［領域指定］をクリックして、キャプチャする領域を指定します。



・「番組ビューア起動時、フォーカスを移さない」チェックボックス
通常はチェックをはずした状態で使用します。
番組ビューア起動時、番組ビューアにフォーカスを移動させたくないときはチェックします。

・「番組表示中はタスクバーを隠す」チェックボックス
チェックすると、番組ビューア開始時にタスクバーを非表示にし、番組ビューア終了時にタスクバーを再表示します。

・「*.mov を Windows Media Player で再生する（Windows 7 以降）」チェックボックス
Windows 7 以降でチェックできます。チェックすると、拡張子が（.mov）のファイルを Windows Media Player で再生します。

・「コンテンツ情報ウィンドウを表示する（番組表示チェック用）」チェックボックス
チェックすると、番組再生時にコンテンツ情報（表示座標や再生時間などの）を表示します。コンテンツの再生確認をするときにチェックします。
[表示設定] をクリックして、コンテンツ情報の表示位置とサイズ、再生時間で強制的にテロップを切り替えるかどうかの設定を行います。

・「マイコンテンツフォルダ」：事前配信するコンテンツを保存するフォルダのパスを入力します。

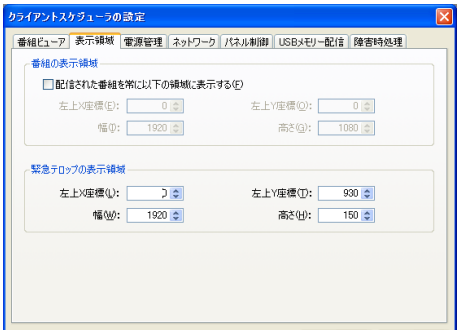
デフォルトでは次の値に設定されています。
・マイコンテンツフォルダ：C: ￥Program Files ￥SHARP ￥e-Signage ￥My Contents
（Windows Vista/7 の場合は、C: ￥ProgramData ￥SHARP ￥e-Signage ￥My Contents）

・e-Signage Pro（PN-SS05/SP02）では、マイコンテンツフォルダにコンテンツを事前配信することができます。

・［パネル属性を設定］
表示用 PC のパネル属性を設定できます。「パネル名」と「グループ」、「コメント」を設定できます。条件付きコンテンツを再生するとき、パネルごとに異なるコンテンツを再生するために設定します。

［表示領域］タブ

・「番組の表示領域」
番組の表示領域とパネルの解像度が異なるときなど、番組に設定されている表示領域に関係なく番組を表示することができます。
「配信された番組を常に以下の領域に表示する」チェックボックスをチェックし、番組を表示する領域を設定してください。
・「緊急テロップの表示領域」
緊急テロップ表示時の表示領域を設定します。

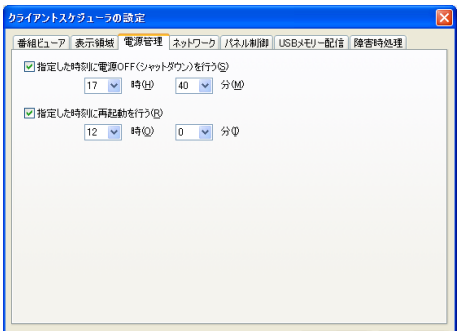


緊急テロップは、e-Signage Pro（PN-SS05/SP02）から配信できます。e-Signage（PN-SS01/SS02）からは配信できません。

［電源管理］タブ

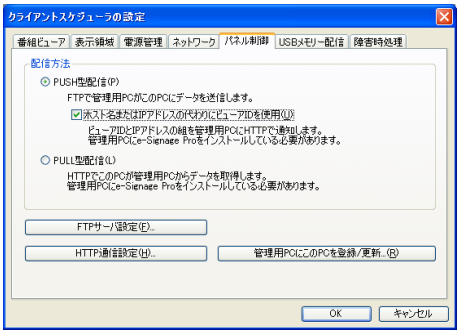
現在設定を行っている表示用 PC の電源を管理します。

・「指定した時刻に電源 OFF（シャットダウン）を行う」チェックボックス
チェックすると、指定した時刻に表示用 PC の電源を OFF します。
・「指定した時刻に再起動を行う」チェックボックス
チェックすると、指定した時刻に表示用 PC を再起動します。



［ネットワーク］タブ

ネットワークからデータを取得する方法を設定します。



・「PUSH 型配信」ラジオボタン
　FTP プロトコルを使用して、管理用 PC 側で手動配信操作が行われたタイミングで配信されるデータを受信します。

・「ホスト名または IP アドレスの代わりにビューア ID を使用」チェックボックス
　HTTP プロトコルを使用して、表示用 PC 側より管理用 PC に IP アドレスを通知します。
　表示用 PC の IP アドレスが固定 IP アドレスではないときにチェックします。
　簡易 WEB サーバは、e-Signage Pro の「動作環境の設定」ダイアログボックスの「簡易 WEB サーバ設定」タブの［手動で簡易 WEB サーバを起動］をクリックして起動します。

・「PULL 型配信」ラジオボタン
　HTTP プロトコルを使用して、表示用 PC が、管理用 PC から定期的にデータを取得します。

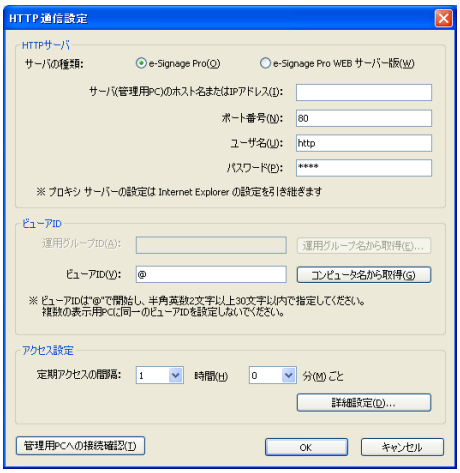
・管理用 PC に e-Signage Pro がインストールされている場合のみ、表示用 PC は、PUSH 型配信の「ホスト名または IP アドレスの代わりにビューア ID を使用」や PULL 型配信を使用することができます。
　・「PUSH 型配信」の「ホスト名または IP アドレスの代わりにビューア ID を使用」には、e-Signage Pro の簡易 WEB サーバが起動していることが必要です。
　・「PULL 型配信」を使用するためには、e-Signage Pro の簡易 WEB サーバが起動していることが必要です。ビューア版以外では設定できません。
　［ネットワーク］タブは、e-Signage ビューア版 (PN-SV01) でのみ設定できます。

・［FTP サーバ設定］
　FTP サーバを設定します。
　・「ユーザ名」：半角英数字 30 文字以内で入力します。
　・「パスワード」：半角英数字 30 文字以内で入力します。
　・「ポート番号」：1 ～ 32000 で入力します。

　デフォルトでは次の値に設定されています。
　・ユーザ名　：ftp
　・パスワード：ftp
　・ポート番号：21

・e-Signage のビューア版をインストールした場合、独自の FTP サーバがインストールされサービスとして起動されます。デフォルトの TCP/IP ポート番号は 20 と 21 になっています。もし、他のサービスなどでこのポート番号が使用されている場合には、ポート番号を変更してください。また、管理用 PC の「パネル管理」で登録した各パネルの FTP 設定も同じポート番号に設定しておく必要があります。（☞86 ページ）

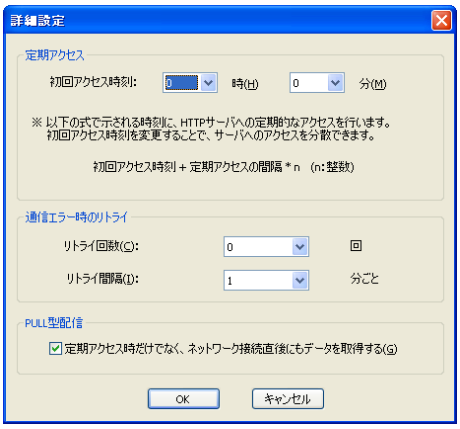
・［HTTP 通信設定］



・「e-Signage Pro」ラジオボタン
HTTP サーバーを「e-Signage Pro」に設定します。
・「e-Signage Pro WEB サーバー版」ラジオボタン
HTTP サーバーを「e-Signage Pro WEB サーバー版」に設定します。
※通常は使用しません。
・サーバ（管理用 PC）のホスト名または IP アドレス：管理用 PC のホスト名、または IP アドレスを入力します。
・ポート番号：1 ～ 65535 で入力します。
HTTP プロトコルで使用するポート番号を設定します。管理用 PC、またはネットワーク内にファイアウォールがある場合は、このポート番号の通信を許可するように設定してください。
・ユーザ名：半角英数字 30 文字以内で入力します。
・パスワード：半角英数字 30 文字以内で入力します。

「ユーザ名」と「パスワード」、「ポート番号」は、管理用 PC の「動作環境の設定」ダイアログボックスの「簡易 WEB サーバ設定」タブに設定した内容と同じ内容を入力します。
管理用 PC 側 (Pro マネージャー) の設定画面の 13 ページを参照ください。
プロキシサーバの設定が必要な場合は、Internet Exploer の接続設定画面でプロキシサーバの設定を行ってください。Internet Exploer の設定に従って接続が行われます。

・運用グループ ID
表示用 PC に運用グループ ID を設定します。
運用グループ ID は、「e-Signage Pro WEB サーバー版」ラジオボタンを選んだときのみ有効になります。
・ビューア ID：表示用 PC にビューア ID を設定します。
・定期アクセスの間隔：配信データを確認する時間の間隔を設定します。
・［詳細設定］
定期アクセスの間隔を設定します。
・初回アクセス時刻：簡易 Web サーバにアクセスする最初の時刻を設定します。
・リトライ回数：通信エラーが発生したときの再接続の回数を設定します。
・リトライ間隔：通信エラーが発生したときの再接続時間の間隔を設定します。
・「定期アクセス時だけでなく、ネットワーク接続直後にもデータを取得する」チェックボックス
チェックすると、定期アクセス時に管理用 PC から配信されるデータを受信するだけではなく、次の条件でも配信データを受信します。
・クライアントスケジューラ起動時
・ネットワークの設定変更時
・ネットワーク環境変更を検知したとき (IP アドレス変更、LAN の接続など)



・［管理用 PC にこの PC を登録／更新］
クリックすると、管理用 PC に表示用 PC の情報を送信します。管理用 PC に表示用 PC の情報を簡単に登録することができます。

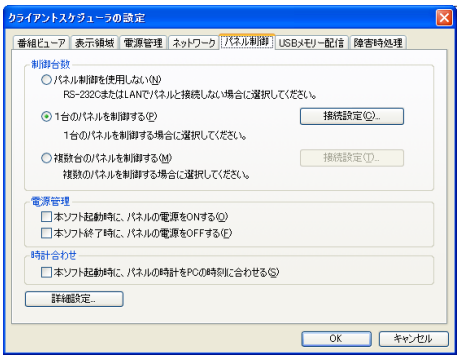
以上の機能を利用するためには、次の条件が必要です。
・管理用 PC に e-Signage Pro がインストールされていること
・管理用 PC で簡易 WEB サーバが起動していること
※ PUSH 型配信でビューア ID が設定されていない場合は、上記の設定は不要です。

［パネル制御］タブ

パネルを制御する方法（RS-232C/LAN）を選びます。

・「パネル制御を使用しない」ラジオボタン
パネルを制御しません。

・「1 台のパネルを制御する」ラジオボタン
［接続設定］をクリックし、パネルを制御する方法（RS-232C/LAN）を選びます。

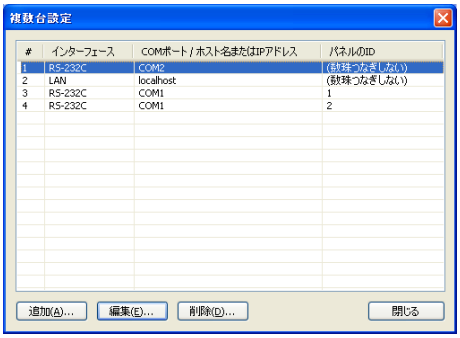


・［接続設定］
「接続インターフェース」のラジオボタンから「RS-232C」、または「LAN」のどちらかを選択して設定します。

設定項目		設定内容	デフォルト
RS-232C	COM ポート	COM1 ～ COM256	COM1
	通信速度	9600，19200，38400	9600
LAN	ホスト名または IP アドレス	制御するパネルのホスト名または IP アドレスを半角英数字の 32 文字以内で入力します。	–
	データポート	制御するパネルのデータポート番号（1025 ～ 65535）を入力します。	10008
	ユーザー名	制御するパネルにユーザー名が設定されている場合は、そのユーザー名を 8 文字以内で入力します。	–
	パスワード	制御するパネルにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを 8 文字以内で入力します。	–

・［接続確認］
パネルの制御が可能かどうか接続を確認します。
接続が成功すると、パネルの機種名を取得して表示します。
パネルの電源をＯＮした状態で操作してください。
LB-1085 でパネルを制御する場合は、必ず接続確認を 1 度行ってください。
接続確認をしないと、制御できません。

・「複数台のパネルを制御する」ラジオボタン
25 台までのパネルを登録して制御することができます。
・[接続設定]
[接続設定] をクリックすると、接続されているパネルの一覧が表示されます。
初めて使用するときは、[追加] をクリックして、パネルをリストに追加します。

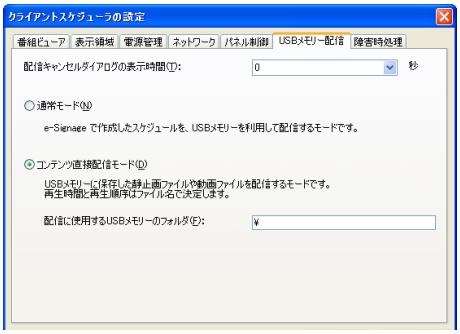


設定項目		設定内容	デフォルト
RS-232C	COM ポート	COM1 ～ COM256	COM1
	通信速度	9600，19200，38400	9600
LAN	ホスト名または IP アドレス	制御するパネルのホスト名または IP アドレスを半角英数字の 32 文字以内で入力します。	–
	データポート	制御するパネルのデータポート番号（1025 ～ 65535）を入力します。	10008
	ユーザー名	制御するパネルにユーザー名が設定されている場合は、そのユーザー名を 8 文字以内で入力します。	–
	パスワード	制御するパネルにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを 8 文字以内で入力します。	–
パネルの ID		数珠つなぎ接続する場合は、パネルを識別するため、ID を選択します。 （数珠つなぎしない）、1 ～ 255	（数珠つなぎしない）

・「本ソフト起動時に、パネルの電源を ON する」チェックボックス
チェックすると、e-Signage クライアントスケジューラの起動時に、パネルの電源を ON します。
※ パネルの電源を“ON”する機能は、LB-46GX35、LB52GX35 では、使用できません。
・「本ソフト終了時に、パネルの電源を OFF する」チェックボックス
チェックすると、e-Signage クライアントスケジューラの終了時に、パネルの電源を OFF します。
・「本ソフト起動時に、パネルの時計を PC の時刻に合わせる」チェックボックス
チェックすると、e-Signage クライアントスケジューラの起動時に、パネルの時計を表示用 PC の時刻に合わせます。
・[詳細設定]
・「起動時にパネルと接続できなかった場合は、それ以降の通信を行わない」チェックボックス
起動時にパネルと接続できなかった場合、以降の通信を行わないようにします。
・「数珠つなぎ接続の先頭の 1 台のみ LAN で接続する」チェックボックス
RS-232C で数珠つなぎにしたパネルの先頭 1 台目のみを LAN で接続する構成時のみチェックしてください。数珠つなぎされた後続のパネルに対して、ID を指定して制御が行えるようになります。

[USB メモリー配信] タブ

USB 配信の詳細を設定します。



- 「配信キャンセルダイアログの表示時間」
  1 秒以上に設定すると、USB メモリなどを挿入したときに配信キャンセルダイアログを表示します。
  配信キャンセルダイアログで [キャンセル] をクリックすると配信が中止されますので、USB メモリなどはタスクトレイの安全な取り外しアイコン（ ）から取り外してください。
  また、配信キャンセルダイアログで [すぐに配信する] をクリックすると、配信が再開されます。
- 「通常モード」ラジオボタン
  「スケジュール配信ツール」で USB 配信する場合（☞94 ページ）に選択します。
- 「コンテンツ直接配信モード」ラジオボタン
  「コンテンツ直接配信モード」で USB 配信する場合（☞113 ページ）に選択します。
- 「配信に使用する USB メモリのフォルダ」
  「コンテンツ直接配信モード」で配信を行う場合、コンテンツが保存されている USB メモリのフォルダのパスを入力します。

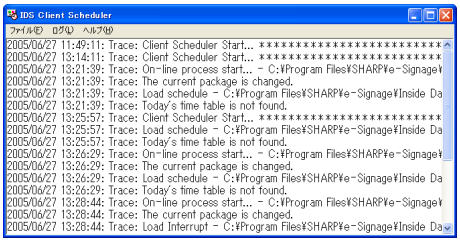
［USB メモリー配信］タブは、e-Signage ビューア版 (PN-SV01) でのみ設定できます。

[障害時処理] タブ

サービスマン専用です。通常は使用しません。

ログを表示する

［ログを表示］メニューをクリックすると、e-Signage クライアントスケジューラの動作ログを表示します。
ログのクリアや最新の状態に更新することができます。

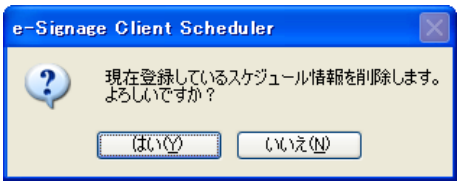


番組表示を一時中断

［番組表示を一時中断］メニューをクリックすると、表示中の番組を一時中断します。
このとき、メニューの左側にチェックマークが入ります。再度［番組表示を一時中断］メニューをクリックすると、番組表示を再開します。

スケジュール情報を削除

［スケジュール情報を削除］メニューをクリックすると、確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックすると、現在 e-Signage クライアントスケジューラ内に保存されているスケジュール情報を削除します。



臨時番組情報を削除

［臨時番組情報を削除］メニューをクリックすると、確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックすると、現在 e-Signage クライアントスケジューラ内に保存されている臨時番組表示の情報を削除します。

緊急テロップ情報を削除

［緊急テロップ情報を削除］メニューをクリックすると、確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックすると、現在 e-Signage クライアントスケジューラ内に保存されている緊急テロップ情報を削除します。

緊急テロップは、e-Signage Pro（PN-SS05/SP02）から配信できます。e-Signage（PN-SS01/SS02）からは配信でません。

管理用 PC からデータを取得

［管理用 PC からデータを取得］メニューをクリックすると、管理用 PC より配信データを受信します。
この機能は PULL 型配信のみ利用することができます。

バージョン情報

［バージョン情報］メニューをクリックすると、e-Signage クライアントスケジューラの［バージョン情報］ダイアログボックスを表示します。

e-Signage で不具合などが発生し、当社にお問い合わせいただいた際には、このバージョン情報をご確認させていただく場合がございます。

また、インストール時に仮のライセンスコードを入力してご使用の場合は、2 ヶ月間の試用期限があります。試用期限が過ぎる前に、本製品に同梱されているライセンス証書に記載されている手順に従って、ライセンスコードを入手し、ライセンスコードを登録してください。
ライセンスコードの登録方法は、88 ページを参照してください。

e-Signage クライアントスケジューラの終了

［クライアントスケジューラの終了］メニューをクリックすると、e-Signage クライアントスケジューラを終了します。
ただし、通常は終了しないでください。

USB メモリなどの外部記憶装置を利用してコンテンツを直接配信する

コンテンツをコピーした USB メモリなどを表示用 PC に挿入するだけで、コンテンツを表示することができます。

・転送が完了するまで、USB メモリなどの外部記憶装置をパソコンから取り外さないでください。
・USB メモリなどの外部記憶装置によっては、正常に配信できない場合があります。

1 表示用 PC を「コンテンツ直接配信モード」に設定します。

① 表示用 PC で、タスクトレイのアイコン（ ）をクリックし、[設定] メニューをクリックします。
② [USB 配信] タブをクリックし、「コンテンツ直接配信モード」ラジオボタンを選択します。（☞112 ページ）
③ 必要に応じて「配信に使用する USB メモリのフォルダ」を設定します。
④ [OK] をクリックします。

2 配信するコンテンツを USB メモリなどにコピーします。

手順 1 の③で設定したフォルダにコンテンツをコピーしてください。
設定したフォルダの、下位のフォルダ位置に置かれたコンテンツは表示されません。

・コンテンツ直接配信モードでは、HTML ファイルを表示できません。
・コンテンツの表示はファイル名の昇順で実行されます。
ファイル名の先頭に「001」、「002」のように通し番号を付けることで、再生順序を設定することができます。
・コンテンツの再生時間は通常 10 秒です。動画は再生が終わるまでの時間です。
コンテンツのファイル名の後ろに「_［数値］m」（分）または「_［数値］s」（秒）を付けることで、コンテンツの再生時間を設定することができます。（最大 24 時間）
[例]
image_30s.jpg とすると 30 秒間表示します。
・指定したフォルダに Telop.txt（テキストファイル）を置くことで、その内容をテロップとして表示することができます。

3 USB メモリなどの外部記憶装置をパソコンから取り外します。

タスクトレイの安全な取り外しアイコン（ ）から取り外してください。

4 表示用 PC に USB メモリなどの外部記憶装置を挿入します。

自動的にコンテンツが配信され、完了すると USB メモリなどの外部記憶装置は自動的に停止します。
メッセージを確認し、取り外してください。

番組ビューア

番組ビューアは、表示用 PC で使用します。
e-Signage クライアントスケジューラが読み取ったスケジュールや臨時番組をもとに、番組を表示します。

・番組を一時中断するときは、e-Signage クライアントスケジューラのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［番組表示を一時中断］をクリックします。
・番組ビューアの詳細は、e-Signage クライアントスケジューラのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［設定］をクリックし、表示された［クライアントスケジューラの設定］ダイアログボックスで変更できます。（☞105 ページ）

キー／マウス監視

e-Signage ビューア版の機能です。

キーボードやマウスの操作で、表示する番組を切り替える機能について説明します。

キー／マウス監視ツールの画面について

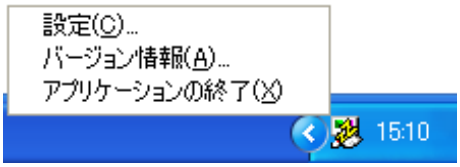
●キー／マウス監視ツールを起動する

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［キー／マウス監視ツール］の順にクリックします。**

キー／マウス監視ツールが起動し、タスクトレイにアイコン（ ）が表示され、常駐します。

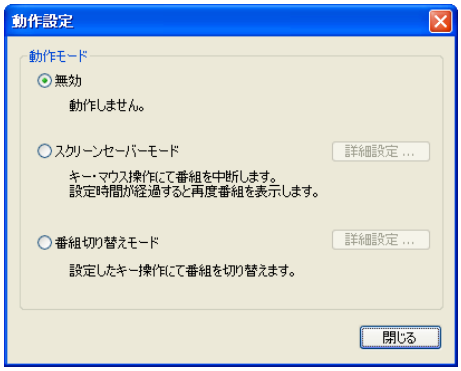
●キー／マウス監視ツールのメニュー

タスクトレイのアイコンを右クリックしすると表示されるメニューでは、次の操作ができます



設定

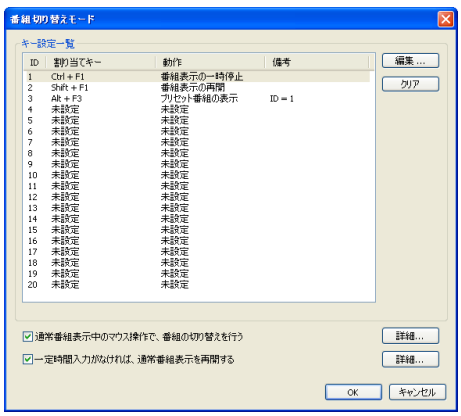
キー／マウス監視ツールの動作モードを設定します。

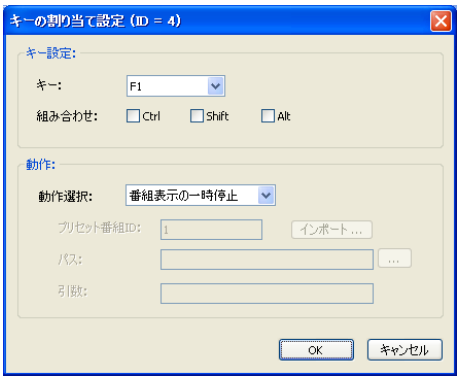


・「無効」ラジオボタン
キー／マウス監視ツールの働きを無効にします。

・「スクリーンセーバーモード」ラジオボタン
キーボードやマウスの操作があると、番組の表示を一時停止します。
キーボードやマウスの操作が一定時間ないと、配信された番組を表示します。
[詳細設定] をクリックして、以下の設定ができます。
番組表示再開までの時間
【Ctrl】+【Alt】+【V】キーで番組表示を再開する

・「番組切り替えモード」ラジオボタン
キーの組み合わせに動作を割り当て、キー操作で動作を実施することができます。
20 個まで割り当てることができます。
[詳細設定] をクリックして、キーの割り当てと動作を設定してください。

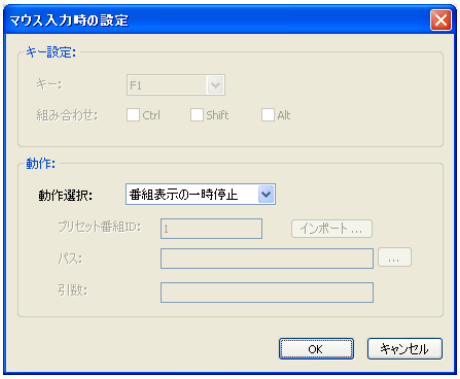




①編集する項目をクリックし、［編集］をクリックします。
「キーの割り当て設定」ダイアログボックスが表示されます。
②各項目を設定します。
・「キー設定」
登録するキーの組みあわせを設定します。
・「動作」
登録したキーの動作を設定します。
・「プリセット番組の表示」を選んだ場合、「プリセット番組ID」に表示するプリセット番組のID番号を指定します。
プリセット番組をインポートしていない場合は、ID番号を指定し、番組をインポートします。
1)「プリセット番号ID」にID番号を入力します。
2)［インポート］をクリックします。
3) エクスポートした番組データを指定し、［開く］をクリックします。
指定したプリセット番号IDに番組がインポートされます。
・「アプリケーションの実行」を選んだ場合は、実行するアプリケーションのパスを「パス」に入力します。「引数」を入力することもできます。
③［OK］をクリックします。

・異なるIDに同じキーを割り当てた場合、IDの小さい順に割り当てられた動作が行われます。
・PowerPoint Viewer起動時に【Ctrl】キーが押されていると、PowerPointコンテンツが正しい位置に表示されません。PowerPointコンテンツを含む番組を表示する場合は、ご注意ください。

・「通常番組表示中のマウス操作で、番組の切り替えを行う」チェックボックス
チェックすると、マウス操作に動作を割り当て、マウス操作で動作を実施することができます。

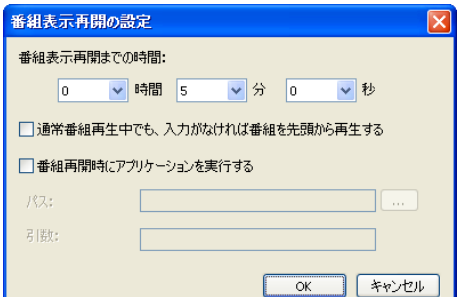


①［詳細］をクリックします。
「マウス入力時の設定」ダイアログボックスが表示されます。
②各項目を設定します。
・「動作」
登録したマウス操作の動作を設定します。
・「プリセット番組の表示」を選んだ場合、「プリセット番組ID」に表示するプリセット番組のID番号を指定します。
プリセット番組をインポートしていない場合は、ID番号を指定し、番組をインポートします。
1)「プリセット番号ID」にID番号を入力します。
2)［インポート］をクリックします。
3) エクスポートした番組データを指定し、［開く］をクリックします。
指定したプリセット番号IDに番組がインポートされます。
・「アプリケーションの実行」を選んだ場合は、実行するアプリケーションのパスを「パス」に入力します。「引数」を入力することもできます。
③［OK］をクリックします。

・「通常番組」とは、スケジュールされた番組もしくは臨時番組を指します。プリセット番組表示中は、割り当てられた動作は実行できません。

・「一定時間入力がなければ、通常番組表示を再開する」チェックボックス
チェックすると、キーまたはマウスが指定された時間操作されなければ、通常番組の表示が再開します。

①［詳細］をクリックします。「番組表示再開の設定」ダイアログボックスが表示されます。



②各項目を設定します。

・「番組表示再開までの時間」
番組表示再開までの時間を設定します。

・「通常番組再生中でも、入力がなければ番組を先頭から再生する」チェックボックス
チェックすると、指定した時間、キーまたはマウス入力が無い場合に、番組の先頭から再生します。また、スケジュールどおりに番組を再生している場合でも、番組の先頭から再生します。

・「番組再開時にアプリケーションを実行する」チェックボックス
チェックした場合は、実行するアプリケーションのパスを「パス」に入力します。「引数」を入力することもできます。

③［OK］をクリックします。

バージョン情報

キー／マウス監視ツールのバージョンを表示します。

アプリケーションの終了

キー／マウス監視ツールを終了します。

状態監視

e-Signage ネットワーク版のみの機能です。

パネルの状態を確認したり、表示用 PC の電源を制御することができます。

e-Signage 状態監視ツールの基本画面について

● e-Signage 状態監視ツールを起動する

1 **Windows タスクバーの［スタート］ボタンから［すべてのプログラム］－［SHARP e-Signage］－［各種ツール］－［状態監視ツール］の順にクリックします。**

「状態監視ツール」が起動します。

● e-Signage 状態監視ツールの基本画面

①メニュー

「ファイル」、「パネル」、「オプション」、「ヘルプ」の 4 種類のメニューがあります。各メニューの内容は次の通りです。

メニュー名		内容	参照ページ
ファイル	終了	e-Signage 状態監視ツールを終了します。	－
パネル	すべてのパネル選択	パネルリストに表示されているパネルをすべて選択状態にします。	☞121 ページ
	応答のないパネルを選択	パネルリストに表示されているパネルで、応答のないパネル（未取得を含む）を選択状態にします。	☞121 ページ
	応答のあるパネルを選択	パネルリストに表示されているパネルで、応答のあるパネルを選択状態にします。	☞121 ページ

メニュー名			内容	参照ページ
パネル	表示用 PC の電源制御	電源 ON	選択しているパネルの表示用 PC の電源を ON します。	☞122 ページ
		再起動	選択しているパネルの表示用 PC を再起動します。	☞122 ページ
		電源 OFF	選択しているパネルの表示用 PC の電源を OFF します。	☞122 ページ
	選択パネルの状態を取得		選択しているパネルの状態取得を開始します。	☞121 ページ
	プロパティ		1 つのみパネルを選択している場合に、パネルの状態詳細情報を表示します。インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）のみ使用できます。	☞123 ページ
オプション	動作環境		［動作環境の設定］ダイアログボックスを表示します。	☞125 ページ
	状態取得しないパネルの設定		［状態取得しないパネルの設定］ダイアログボックスを表示します。	☞122 ページ
	サムネイルサイズ	小	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを小に変更します。	☞124 ページ
		中	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを中に変更します。	☞124 ページ
		大	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを大に変更します。	☞124 ページ
	状態取得処理を開始		すべてのパネルの状態取得を開始します。	☞121 ページ
	状態取得処理を中断		パネルの状態取得を中断します。	☞121 ページ
ヘルプ	バージョン情報		バージョン情報を表示します。	−

②ツールバー

各ボタン（アイコン）の働きは次の通りです。

アイコン	メニュー名	内容	参照ページ
	表示用 PC 電源 ON	選択しているパネルの表示用 PC の電源を ON します。	☞122 ページ
	表示用 PC 再起動	選択しているパネルの表示用 PC を再起動します。	☞122 ページ
	表示用 PC 電源 OFF	選択しているパネルの表示用 PC の電源を OFF します。	☞122 ページ
	パネル詳細情報表示	1 つのみパネルを選択している場合に、パネルの状態詳細情報を表示します。インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）のみ使用できます。	☞123 ページ
	小サムネイル	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを小に変更します。	☞124 ページ
	中サムネイル	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを中に変更します。	☞124 ページ
	大サムネイル	パネルリストに表示されているサムネイルのサイズを大に変更します。	☞124 ページ
	状態取得処理開始	e-Signage のパネル管理で登録されているすべてのパネル（状態取得しない設定のパネルを除く）の状態取得処理を開始します。	☞121 ページ
	状態取得中断	パネルの状態取得を中断します。	☞121 ページ

③グループツリー

e-Signage のパネル管理で登録されているグループを表示します。(☞84 ページ)
グループを選択すると、そのグループ内のすべてのパネル（状態取得しない設定のパネルを除く）をパネルリストに表示します。
「(すべてのパネル)」を選択すると、すべてのパネル（状態取得しない設定のパネルを除く）をパネルリストに表示します。

④パネルリスト

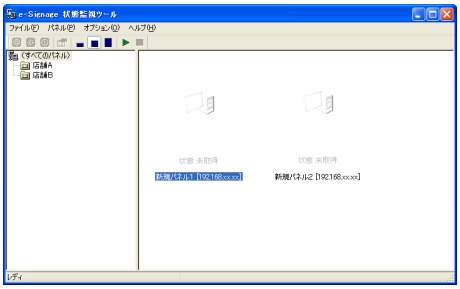
グループツリーで選択したグループ内のすべてのパネル（状態取得しない設定のパネルを除く）を一覧表示します。
パネルの状態によって、パネルアイコンおよびサムネイルの表示が変わります。

パネルアイコン / サムネイル	内容
	パネルおよび表示用 PC の状態が取得できていない状態
	表示用 PC から応答がない状態
	表示用 PC から応答があり、表示している画面のキャプチャー画像が取得できていない状態
   （一例です）	表示用 PC から応答があり、表示している画面のキャプチャー画像が取得できた状態 ※ 取得できたキャプチャー画像がサムネイル表示されます。(表示用 PC の表示により異なります。) ※ 画面のキャプチャー画像を取得する場合は、[動作環境の設定] ダイアログボックスの「現在表示用 PC が表示している画面のキャプチャー画像の取得」をチェックしてください。(☞125 ページ) ※インフォメーションディスプレイの状態が ・電源オフのとき ・ハード異常を検出したとき ・複数台接続時に状態の異なるものがあるとき ・状態取得に失敗したとき は、左のアイコンが表示されます。

パネルの状態を取得・表示する

●パネルの状態を取得する

1 **グループツリーからグループを選択し、パネルリストからパネルを選択します。**

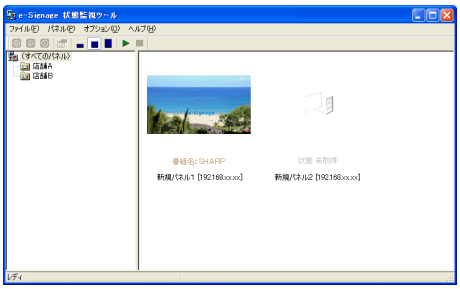


・パネルリスト内のすべてのパネルを選択する場合は、[パネル] メニューから [すべてのパネル選択] をクリックするか、【Ctrl】＋【A】キーを押します。
・パネルリスト内の応答のないパネル（未取得を含む）を選択する場合は、[パネル] メニューから [応答のないパネルを選択] をクリックするか、【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押します。
・パネルリスト内の応答のあるパネルを選択する場合は、[パネル] メニューから [応答のあるパネルを選択] をクリックするか、【Ctrl】＋【Alt】＋【A】キーを押します。

2 **[パネル] メニューから [選択パネルの状態を取得] をクリックします。**
選択しているパネルの状態取得を開始します。

・e-Signage のパネル管理で登録されているすべてのパネル（状態取得しない設定のパネルを除く）の状態を取得する場合は、[オプション] メニューから [状態取得処理を開始] をクリックします。または をクリックします。
・状態取得を中断する場合は、[オプション] メニューから [状態取得処理を中断] をクリックします。または をクリックします。

状態を取得すると、パネルアイコンおよびサムネイルの表示が変わります。
ダブルクリックすると、画像を拡大して表示することができます。



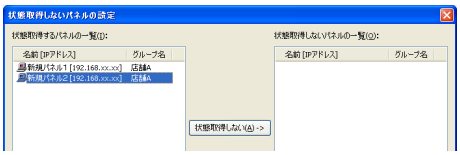
●状態取得しないパネルを設定する

状態取得しないパネルをパネルリストに表示しないように、あらかじめ設定しておくことができます。

1 ［オプション］メニューから［状態取得しないパネルの設定］をクリックします。

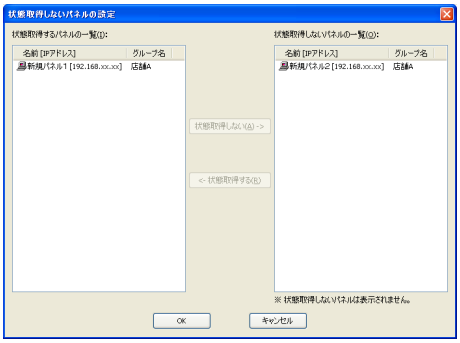
2 「状態取得するパネルの一覧」からパネルを選択します。

3 ［状態取得しない］をクリックします。



選択したパネルが「状態取得しないパネルの一覧」に移動します。

4 ［OK］をクリックします。

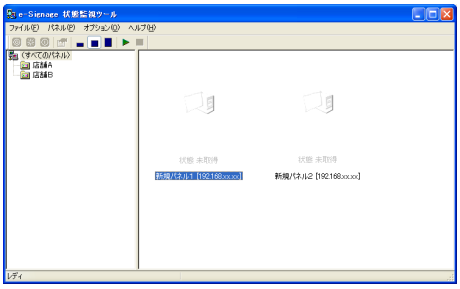


状態取得する設定に戻す場合は、「状態取得しないパネルの一覧」からパネルを選択し、［状態取得する］をクリックします。

●表示用 PC の電源を制御する

表示用 PC の電源の ON/OFF や再起動をすることができます。

1 グループツリーからグループを選択し、パネルリストからパネルを選択します。



2 表示用 PC の電源を ON する場合は、［パネル］メニューから［表示用 PC の電源制御］－［電源 ON］の順にクリックします。または をクリックします。

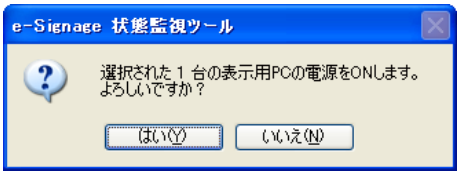
表示用 PC を再起動する場合は、［パネル］メニューから［表示用 PC の電源制御］－［再起動］の順にクリックします。または をクリックします。

表示用 PC の電源を OFF する場合は、［パネル］メニューから［表示用 PC の電源制御］－［電源 OFF］の順にクリックします。または をクリックします。

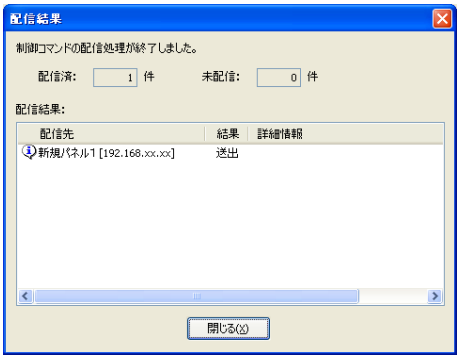
確認メッセージが表示されます。

3 ［はい］をクリックします。

処理が実行されます。

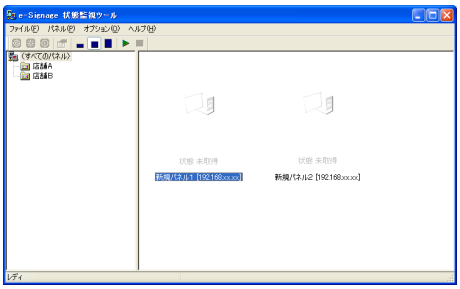


4 右のような画面が表示されるので、成功したことを確認し、［閉じる］をクリックします。



●パネルの詳細情報を表示する

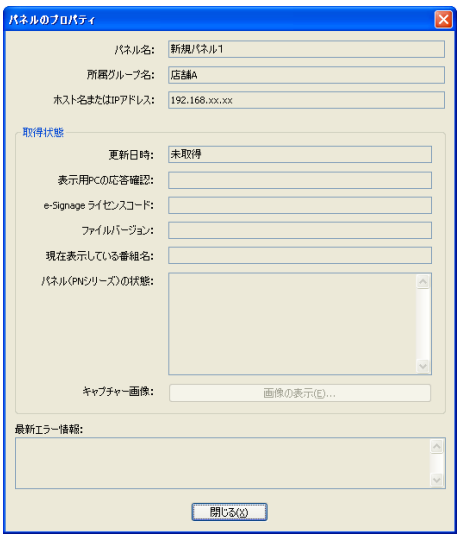
1 グループツリーからグループを選択し、パネルリストからパネルを選択します。



2 ［パネル］メニューから［プロパティ］をクリックします。または をクリックします。

［パネルのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

3 内容を確認し、終了する場合は、［閉じる］をクリックします。



・「パネル（PN シリーズ）の状態」を表示するときは、［動作環境の設定］ダイアログボックスの「パネル（PN シリーズの状態取得）」をチェックしてください。（☞125 ページ）

●サムネイルのサイズを変更する

パネルから取得したキャプチャー画像のサムネイルのサイズを変更できます。

1 **ツールバーのボタンをクリックします。**
（小： 、中： 、大： ）
または、［オプション］メニューの［サムネイルサイズ］
からサムネイルサイズを選択します。

小

中

大

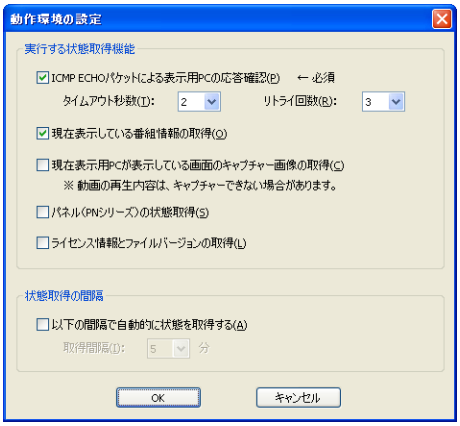
動作環境を設定する

パネルの状態取得時の詳細を設定できます。

1 **［オプション］メニューから［動作環境］をクリックします。**

［動作環境の設定］ダイアログボックスが表示されます。

2 **各項目を設定します。**



①「ICMP ECHO パケットによる表示用 PC の応答確認」チェックボックス（必須）

チェックをはずすことはできません。

・タイムアウト秒数
表示用 PC の応答を確認するときのタイムアウト秒数を 1 ～ 10 秒から選択します。
・リトライ回数
表示用 PC の応答を確認するときのリトライ回数を 1 ～ 10 回から選択します。

応答がない場合は、「タイムアウト秒数×リトライ回数」秒の遅延が発生します。

②「現在表示している番組情報の取得」チェックボックス
表示用 PC から現在表示している番組の情報を取得する場合はチェックします。

③「現在表示用 PC が表示している画面のキャプチャー画像の取得」チェックボックス
表示用 PC から現在表示している画面のキャプチャー画像を取得する場合はチェックします。取得したキャプチャー画像はサムネイル表示されます。

動画の再生画面はキャプチャーできない場合があります。

④「パネル（PN シリーズ）の状態取得」チェックボックス
表示用 PC からパネルの情報を取得する場合はチェックします。
インフォメーションディスプレイ（PN シリーズ）のみ使用できます。

⑤「ライセンス情報とファイルバージョンの取得」チェックボックス
ライセンスコードと e-Signage ビューア版のファイルバージョンを取得する場合にチェックします。

⑥「以下の間隔で自動的に状態を取得する」チェックボックス
すべてのパネルの状態を定期的に自動で取得する場合にチェックします。
・取得間隔
状態取得する間隔を 1 ～ 60 分から選択します。

3 **［OK］をクリックします。**

「よくあるご質問」などは
ホームページをご活用ください。

▶▶▶ シャープサポートページ
http://www.sharp.co.jp/lcd-display/corporate/support/

シャープ株式会社

本　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
ビジネスソリューション事業推進本部　〒639-1186　奈良県大和郡山市美濃庄町492番地

● 住所などは変わることがあります。(2013.09)